

令和3年度 第Ⅲ期実務実習に関わる報告書

【北海道地区】

【東北地区】

1. 実習実施時のトラブル

【〇〇県：薬局】

- ・大きなトラブルはなかったが、学生が日報・週報をなかなか記載してくれずとても困った。

【〇〇県：薬局】

- ・夜の体調が悪く次の日の朝連絡無く遅刻して実習に来た。(指導薬剤師の連絡先を伝えてなかったなのでその場で伝え次回から必ず連絡入れる様指導)
- ・2回目コロナワクチンの接種の翌日発熱おこして実習を休んだ。
⇒ただどちらの案件もトラブルというほどのものではありません。

【〇〇県：薬局】

- ・学生が精神的に不安定なこともあり、薬局スタッフが対応に苦慮した。在宅訪問先でも無言になり固まってしまうこともあり。大学側に伝えて、教員にも対応してもらった。学生の基礎的な知識が浅く、服薬指導のレベルがあがらなかった。処方内の個々の薬剤の情報について答えられない…。

【〇〇県：病院】

●施設 A

- ・学生用に貸与しているロッカーの鍵を学生が紛失したため鍵の交換費用を弁償してもらった。
- ・学生より、ある指導薬剤師の態度が厳しく一緒に実習を行うことが難しいとの訴えがあったため、他の指導薬剤師で対応した。詳細については大学と情報共有を行った。

●施設 D

- ・実習生の持病のため「体調不良」で急遽休む時があった。

【〇〇県：病院】

- ・調剤実習中において、実習生が誤って免疫チェックポイント阻害剤を落下破損させてしまい、実習生の加入している保険にて対応した。
- ・男性1名：決められた服装で来ていなかったのに注意した。返事、あいさつが小さく聞こえない。又は返事をしない。こちらが説明しているのに対し、反応がなく、聞いているのか理解しているかわからない。以前他人の言うことを聞き、自分に不利になった経験があるということで、なかなかこちらの指導を聞き入れない。自分が納得しない限り、成果報告なども直さない。結果、成果報告会の確認書はまだ本人に渡していません。大学にも連絡し対応してもらっている。しかし大学でもなかなか対応にてこずっている様子。
- ・実習前に地域の中核病院で新型コロナウイルスの院内発生があり、そちらで実習受け入れが難しくなるかもしれないということから、大学から急遽学生1名のところ2名ではどうかとの問い合わせ

わせがありました。もともと2名で受け入れ可能だったため承諾しましたが、実習開始時に中核病院で受け入れが可能になった為1名の受け入れとなりました。今後もこのような事態が起こった際には、近隣の病院同士で連絡を取り合って受け入れ態勢を構築した方が良いと思います（もちろん大学が間に入ってですが）。

- ・忌引き等で休みが多かった。実習は何日まで休んでよいのかわからなかった。

【 ○○大学 】

- ・学生の実習態度が問題となり、実習先が変更となった事例があった。

2. 薬局側の意見（学生のこと、大学・病院との連携、評価など）

【 ○○県：薬局 】

- ・日誌の記入内容が乏しい学生がいるので、大学で指導してほしい
- ・毎回受け入れの意思表示はしているが、マッチングされない

【 ○○県：薬局 】

●学生が成長した点

- ・患者とのコミュニケーション（話し方、患者からの情報収集、言葉の選び方、服薬指導）。
- ・実習を通し、社会体験することで、学ぶことの必要性に気付いた。
- ・積極性が増した（気になることを薬剤師にどんどん質問してくるようになった。自ら積極的に処方箋を受け取り、内容を読み込んで調剤に取り組むようになった）。
- ・医療人としての意識が高まった。
- ・すすんで挨拶するようになった。
- ・学校で学んでいることが現場でどう生かされているかをリンクできようになった。
- ・処方意図や患者背景を考えることができるようになった。

●大学での事前教育

- ・ある程度の目標・積極性を持たせてほしい。
- ・参加型実習を行うために事前教育（与薬・服薬指導を行うための知識・技能・態度、疑義照会や服薬フォローを行うための電話応対・マナー、検査値やOTCの知識、薬歴：SOAPの書き方、医学論文の読み方、等）の充実を図ってほしい。
- ・成績下位の学生においては大学で補講を行うなどして最低限必要な知識を身につけさせてから実習に送り出してほしい。
- ・学生が、OSCEでやったことを教えてほしい。

●評価

- ・どの評価をいつ行うのか、

●Webシステム

- ・動きが遅い。
- ・画面を戻ることができない（再度ログインしないと次にいけない）。
- ・到達度評価の(4)(5)は、後日でも日付と指定して入力可能にしてほしい。もしくは、備考欄を設けてほしい。
- ・指導側・教員の双方が見たかどうかのチェックがつくようにしてほしい。
- ・24時間使えるようにしてほしい。

●困ったこと

- ・学生が、実務実習について（流れや内容、評価に関する事等）、理解していない。
- ・症例検討もさせたほうがよかったか、処方解析をどのくらいさせればよかったか。
- ・代表的な疾患について、別プリントで良いので病名も入れてほしい（その他が多くなりすぎる）。
- ・週報、日報の大学コメントがなくて、実習内容が学生にとって、必要なことか否かがわからなかった。
- ・基本的なこと（2～3年生で学んでいるであろう内容）すら、「全く」もしくは「単語だけは知っている」レベルでしか把握しておらず、非常に苦慮した。
- ・途中で「インフルエンザの予防接種が学校である」と言われたが、実習中の平日以外（土曜日）にも接種可能であることを後で知った。学校側からの事前連絡があってもよかったのではないかな。
- ・積極性、自主性を持たせるのは難しい（やる気がない訳ではないのはわかるが）。
- ・コロナ禍で外部研修があまり実施できないこと
- ・学生の新型コロナ感染、濃厚接触者認定による自宅待機で実習可能期間が短くなったこと、また、当該学生がコロナ後遺症のため思うように実習に臨むことができない状況があった。
- ・週報の学生の記載内容が急に変わったが、どのような書き方が良いかの情報がなかった。

【 ○○県：薬局 】

- ・実習施設的环境にもよるが、2名ずつ学生を受け入れることで、実習中の相談相手、情報共有などができるため、学生自身の不安感が和らぐため、実習項目の遅れも少なく、評価についても実習終了に必要なラインについては確保しやすいように思う。
- ・大学との連携については、毎回同じ先生が面談等を担当して下さっているため、受け入れる側としても安心感があり、施設側の意見等も話しやすいように思う。
- ・評価や成果報告についての理解が学生によってばらつきが大きいように思える。できれば同程度の理解で実務実習に挑んでもらいたいと感じる。
- ・学生が日報などの入力項目を理解していない部分があった。1, 2期にも共通していたため事前の説明の徹底をお願いしたい。
- ・到達度評価は指導者側の入力時期は明示されているが、学生の入力時期・方法で一部不明な点があった。
- ・遅刻などはなく、挨拶など基本的な対応がしっかりできていたと思う。
- ・実習に対する姿勢や態度は問題なかったが、知識の不足を感じる場面が多かった。今後の成長に期待したい。
- ・評価表についても初めに説明をしているが、どの程度できていればよいかという点で指導員と学生に差がでてしまった。すり合わせるのが大変だった。
- ・健康に留意し、よく頑張っていた。
- ・○○大学の○○先生もこまやかにフォローアップしてくれた。
- ・学生が評価の仕方を理解していなかった。（毎週する事や段階の入れ方）
- ・体調が優れない時の対応に苦慮した。
- ・今回は○○市薬剤師会の『薬と健康の週間』があったのでよりよくコミュニケーションが取れたと思う。何事にも真面目に取り組んでいた学生と感じましたがしいて言えば投薬・症例について積極性があるとよりよかったのではないかと感じた。
- ・あまり質問がなく指導側の一方的な説明になる場面が多かったように感じた。

【 ○○県：薬局 】

●学生について

- ・意欲的に実習に取り組んでいただき 11 週間問題なく行えたと思います。災害時医療、地域保健（学校薬剤師）に関することが、コロナ禍もあり座学となってしまったことが残念です。
- ・実習が、薬局が最初だった事もあり、不慣れなこともありましたが、実際の薬を見ているうちに薬の知識が広がったと思います。
- ・今回の学生はコミュニケーション能力もあり、問題なく実習が終わりました。
- ・学生の実習前の基本的知識については、もう少しあってもよいのではないかと。
- ・他実習先の学生のお話も聞きましたが、本学生は良く出来ていたと思います。

●大学・病院との連携について

- ・大学との連携については、今回○○大学の学生を受け入れることが初めてだったため、独自の内容に関しても事前の面談で解消して頂きました。病院との連携については現状特に内容状況です。
- ・連携や評価はこれまで通りでいいと思います。
- ・今年度もコロナ禍での実習でしたので、大学の先生から電話で実習の問題点や進捗状況の確認が 2 回行われた。学生側にも個別に連絡を取っていたようなので心配は特になし。実習中に学生が抱えている不安や不満について大学側でうまくサポートしてもらいたい。
- ・病院との意見交換会を実施してもよいのかなと思います。
- ・大学との連携はメールでのやり取りで問題ありませんでした。
- ・評価は学生と意識をすり合わせて考えることができたと思います。

【 ○○県：薬局 】

- ・今回の学生は、コミュニケーション能力が高く、職員との関係もよかった。
- ・過度の緊張から、大きな声が出ず、高齢者の服薬指導が大変でした。
- ・学生の理解度を確認しながら実習を行っていくことが難しかった。
- ・理解できた、覚えたと思っていたので、実習後半には、すっかり忘れていた等、教え方が悪かったのかと悩んだ。
- ・大変優れた成長を見せてもらった。
- ・PCR 検査があたりはしたが、トラブル対応の確認にもなり、問題なし。
- ・1 回指導したあとに、同じミスを何回もしていたので、大変だった。
- ・基礎学力が高く、大学でしっかり学んでいる印象をうけました。
- ・1 期及び 2 期の学生に比べて体調不良が多かった。
- ・初対面の患者対応に異常に緊張しすぎている。
- ・もう少し、治療におけるガイドラインも理解してから、実習すれば効果があるのかなと感じました。
- ・学生の基礎的な知識が浅く、服薬指導のレベルがあがらなかった。
- ・処方内の個々の薬剤の情報について答えられない…。
- ・薬局における薬学的管理指導についての知識、認識が足りていない。
- ・薬局スタッフの研修も必要と感じた。
- ・服薬指導を前提とした患者へのアプローチ方法を大学側でも指導しておいてほしい。
- ・ワクチン接種を終了してから実習に望めればよかった。

- ・大学と指導薬剤師の Web 報告は、文書で伝えることが難しいニュアンスのものがあった。〇〇 (Webシステム) など、顔を見て面談できると良いと考えました。
- ・学生さんからも、色々と勉強になる質問を投げかけてくれることもあるため、今後とも私たちに刺激を与えてくれるとうれしいです。
- ・実習は、国家試験対策のためなのか、合格後に働きやすくするためのものなのか、改めて確認したいと思いました。
- ・各疾病の「治療ガイドライン」をあらかじめ、学習してから実習に入ったほうが、臨床現場にて戸惑いが少ないと思います。
- ・学生の知識や技能があまりにも未熟である場合、どこまでを大学側に訴えれば良いかわからない。
- ・日誌の内容に個人差が大きすぎる。今回の学生は、指導された内容について、あまり書いていなかった。
- ・CBT で選択肢を選べることと、有意義な薬局実習の間について、学生、大学、指導薬剤師のそれぞれが考えるべきだと思いました。

【 A 大学 】

- ・学生に関しては、「実習に取り組む態度、心構えが備わっていないことが気になりました」というような厳しい意見が散見された。

3. 病院側の意見 (学生のこと、大学・薬局との連携、評価など)

【 〇〇県：病院 】

●学生のこと

- ・第Ⅲ期は 2 大学から計 4 名の学生を受け入れたが、4 名とも全体的に日報や週報の入力が追いついておらず、随時、入力するよう促したが、数名の学生は最後まで状況の改善が見られなかった。学生の日報・週報の入力遅延については、メールによる大学との中間面談の機会に状況を報告したところ、大学側からも学生への指導を行うとの回答であった。実習には真面目に取り組んでいるようであったため、こちらからも強い口調での指導とはしなかったが、日報や週報の入力については、事前に大学側でも指導して欲しい。
- ・実務実習中にスマホでゲームや漫画を読んでいた学生が 1 名いたので厳重注意しました。その後はスマホでのゲーム等やめました。初めてのケースで驚きました。
- ・今期は 3 名とも同じ大学だったが、積極性が不足していたように感じる。複数の大学が混在した方が、学生にとって刺激になるかもしれない。

●大学との連携

- ・大学教員との面談が対面から紙面上となり関わりが薄くなったと感じた。

●大学との連携・評価

- ・健康診断書では問題なしと記載されていましたが、別に疾患を持っていて実習中に具合が悪くなるがありました。また、投薬による傾眠が見られたりしました。すべて自己申告で、本当だとは思いますが評価に考慮すべきかどうか悩みました。

【 〇〇県：病院 】

●施設 B

- ・学生の知識をもう少し事前学習などで高めてから実習に出してほしい。

- ・実習生の希望施設とのマッチングのあり方について検討が必要。
- ・親族等が在籍する施設での実習は考慮したほうがいいのではないかと。

●施設 C

- ・滞りなく実務実習を実施することができた。
- ・今回、2名受け入れ可のところ1名のみを受け入れだったため、学生側が緊張しないように十分コミュニケーションを取りながら実施できたと思われる。

●施設 D

- ・今回の2人の実習生は、病院実習に対して積極的に取り組んでいたと思います。また、スタッフに対する挨拶・接し方等、好感を持つことが出来ました。
- ・実習では、薬局以外に「病棟」を初め「放射線科」「栄養部」といった他部署・他職種での講義及び実演を行って貰ったことに感動している様子でした。

●施設 E

- ・初めて〇〇大学の学生受け入れとなりましたが、事前学習もよくされており、大学側の対応も丁寧で、スムーズに実習を行うことができました。

●施設 H

- ・実習生は、調剤スキル、患者及び患者家族とのコミュニケーション能力が高く、教育の質の高さを感じた。今年度は臨床準備教育が一部、遠隔実習となっていたため不安に感じていたが、例年と変わらなかった。
- ・大学・薬局との連携は電話、WEBシステムによるものだけであったため、薬局実習を担当された先生方と直接お会いして意見交換、情報交換を行うことは出来なかった。そのため、最低限度の情報共有は行えたが、充分と言えるほどは出来ていなかったと思う。
- ・概略評価の際、実習生とコミュニケーションを取り進捗状況を確認していくことで、意見をより尊重した実習が出来た。概略評価については、第3段階の評価が多くなるため、学生によって差異を出し難いと感じている。

●施設 J

- ・昨年度からの状況なので、特に問題なかった。

●施設 K

- ・医師の診察見学を実施したところ、医師も出来る評価表の作成希望がありました。

●施設 L

- ・学生は実習に積極的に取り組んでいた。

●施設 M

- ・病院・薬局の連携がほとんど無い状態。システムでは週報までしか閲覧権がなくどのような連携をするべきなのか、他施設での連携事例などあればご教授願いたい。

【 〇〇県：病院 】

●学生のこと

- ・挨拶をしない、イヤホンで音楽を聴きながらの院内の移動、施設のドアを足でけて開けるなどの行動が見られる実習生がいたが、実習生には医療従事者としての最低限の態度やマナーを意識して実習に取り組んでいただきたい。
- ・日誌の記入方法を大学で指導して欲しい。
- ・コロナの状況の中、体調を崩す学生が無くほっとしている。引き続き体調管理をしっかりと行っ

ていただきたい。

- ・実習を遂行するにあたり支障のある学生や記録に問題のある学生が見受けられました。

●大学・薬局との連携

- ・事前に学生について大学在学中や薬局実習でトラブルがあった場合、事象、対応を教えて欲しい。
- ・薬局実習の総評程度は確認できる方が良いのではと思います。
- ・コロナ禍で訪問を自粛するのは仕方ないですが、学生に問題が起きていること、非常事態宣言が全国的に解除されたことを考慮すれば10月末には訪問できたのではないのでしょうか。
- ・薬学臨床は大学（シミュレート）⇒薬局⇒病院を通じての実習なので、薬局での実習の進捗・構成にある程度統一性がないと病院でのカリキュラムの構成及び進行が難しい。できれば病院と薬局をグルーピングし、ある程度実習内容に意思統一の取れた実習を行えるようにしてもらいたい。
- ・調剤薬局での実習の様子が確認できて病院実習を進める上での参考になり良かったと思います。
- ・大学の先生とのやり取りはコロナ禍ではあるが直接訪問してほしかった。
- ・直接訪問できないのは仕方ないが、メールではなくせめて電話でやりとりしてほしかった。先生方は忙しく対応が難しいと思いますがよろしくお願いします。

●評価

- ・実習生に対する日報・週報記載の意義および概略評価項目に関して何が求められているかについて大学側でも指導いただきたい。
- ・新システム下では今回初めての実習受け入れでしたが、项目的にも総合的に評価できたため良かったと思います。
- ・コロナ禍ということもあり、地域連携や薬薬連携の実習ができていなかった。

●その他

- ・薬剤師の地域偏在をなくすために、地元出身の学生だけでなく、他の地域出身の学生も地方で実習ができるようになにか工夫できないでしょうか。難しいとは思いますが検討お願いします。

【〇〇県：病院】

- ・評価手順が統一されると評価し易い。
- ・前施設の日誌等も閲覧できると参考になる。
- ・事前実習、説明会などの際に、学生に対してもループリック評価の概要について、事前説明があると、学生自身、実習の目的や自分が目指すステップアップの概要が理解できるのではないかと考えられます。評価をしながら説明をしましたが、ご理解いただくのにこれまでの学生より少し時間がかかったようでした。
- ・代表的な8疾患について、関わった疾患・服薬指導をした疾患の定義を学生さんへどのように説明しているのか教えていただきたいです。学生さん自身がカウントするものなので学生さん個々によってカウントしたりしなかったりで、ばらつきが大きいです。また、指導する薬剤師にも説明時に使用した資料などを可能な範囲で提供していただければ、どのような説明を受けているのか情報共有できてとてもありがたいです。

【〇〇県：病院】

- ・実習終了時に、成果発表するスライドを作製させるが、調剤薬局にて作製した場合に変更指示等の指導があまりなされていない様であり、自分の作製した資料に固執しがちである。病院としては実習中の作製物である為、内容・スライド共発表して恥ずかしくない様にと考えて指導を行っ

ているが、学生の意識とに差が感じられる。大学においても作製についての指導をお願いしたい。

【 ○○県：病院 】

●A 病院

- ・大学との連携は良好（電話・メール等）。
- ・薬局との連携は特になし。

●B 病院

- ・何事も協力的かつ積極的でスムーズな実習でした。

●D 病院

- ・本人の体調不良のため遅刻、休み、早退が散見されました

●I 病院

- ・学生個人の資質によるところも大きいとは思いますが、報告書の書き方を一度きちんと大学で教えてから実習に出した方がよいと思う。今回は特に文章力がある学生がいたので、ない学生が目についた。レポートなど何でも良いのでもっと大学でも文章を書かせるべきだと思った。

●J 病院

- ・実習中に課題を与え、「終わったら声を掛けてね」と言っても、課題が終わっているのに声がけがなかったり、話しかけても、返事がなかったりした事があった。

上記の為、学生の進捗状況や理解度がわからず、指導の際に苦勞した。

●K 病院

- ・現在毎日の日報と1週毎の週報があるが、毎日の日報だけでも充分わかるので、週報は、なくても良いと思います。

【 A 大学 】

- ・学生に関しては「基礎的な知識もあり且つ多くのことに興味をもち更にチャレンジする積極性もあって大変模範的な学生と感じました」など肯定的な意見が散見された。

4. 大学側の意見（連携、評価など）

【 A 大学 】

- ・一部の指導薬剤師の先生が学生の日誌にほとんどコメントを記載していないが事例がみられた。

5. 学生からの意見

【 ○○県：薬局 】

- ・休憩室等で他人への不満等聞きたくないような会話がされ、気分が良くなかった

【 ○○県：薬局 】

- ・在宅業務について興味を持っている学生が多くいるため、以下にも繋がるが、在宅の同行を実際にしたかったとの話があった。
- ・服薬指導をもっと行いたかったとの話があった。
- ・薬局製剤に触れられたのがいい経験だった。
- ・服薬指導をたくさんできてよかった。
- ・オンラインではあったが集合実習もできて仲間たちと話し合えてよかった。

- ・他店舗実習の企画がよかった。
- ・小学生相手に薬物乱用の講演をさせてもらったのがいい経験になった。
- ・薬と健康の週間で地域活動ができてよかった。

【 ○○県：薬局 】

- ・指導薬剤師が不在のときが多く不安
- ・同時期に他薬局で実習を受けている知人学生と実習内容に差がある
- ・薬に関する知識が、実際の薬や処方を見たことにより、広がりました。実習が大変役立ちました。

【 A 大学 】

- ・今後、アンケートなどを行い聴取する予定である。

【関東地区】

1. 実習実施時のトラブル

1) 学生が発生源の場合

【薬局】

●学生の実習態度が原因:5件

- ・学生の実習態度(携帯操作等、言動に関して)実習は最後まで継続。
- ・学生と指導薬剤師との人間関係で、学生が委縮してしまい実習遂行が困難になった事例。学生の精神状態が悪化したため、指導薬剤師と大学教員で相談したところ、これ以上の実習は学生にとって良くないと判断し、同エリアの他薬局へ実習先が変更となった。変更後、特に問題なく実習を終了した。
- ・学生と、指導薬剤師や他の薬剤師とのミスマッチにより、学生の精神状態が悪化し、実習遂行が難しくなった事例。指導薬剤師と大学教員で相談したところ、これ以上の実習は学生にとって良くないと判断し、同エリアの他薬局へ実習先が変更となった。変更後、特に問題なく実習を終了した。
- ・9月〇日、実習生から指導薬剤師との人間関係が悪く、これ以上継続ができないので薬局の変更を要望する連絡があり、状況の確認を行なった。当初、実習施設を変えることはできないと学生に伝え、実習生と担当教員、研究室指導教員、実務実習センター長との面談を繰り返し、施設との調整を図るなど、実習生に対しても再三実習復帰を促した。ところが、最終的に実習生は両親の了解を得て、復帰を望まないことを確認するに至った。その後の経過:薬局、学内の了解を得て、Ⅲ期薬局実習を中止し、Ⅳ期実習を行わないとした。対策:実習早期での訪問等、できる限り学生との接触を直接図り、実習状況の把握、学生の変化に注意して、問題があれば、メンタル的なフォローを十分行うように徹底したい。
- ・薬局実習先の指導薬剤師から、実習の欠席日数についての問い合わせが大学にあった。質問の内容は、「これまでに実習生が体調不良を理由に休むことが多いので、実習期間中に何日休むことができるのか教えて欲しい」との質問であった。基本的に大学では、貴重な実習を、ご施設をお願いをして、学びと実践の機会をいただいているので、休んではならないと指導し、何日まで休めるとは伝えていないことを説明した。また、「電車を乗り継ぎ、遠方より実習に来ていることが、体調不良の原因となるのであれば、近くの薬局に変えた方が良いのではないか」との提案をいただいた。指導薬剤師には、実習途中で、施設変更を受け入れていただく調剤薬局を探すことは、非常に難しいことを伝えた。そして、実習生も実習施設変更を希望し、体調及び実習状況の確認も必要であると判断し、大学において面談を実施した。面談では、日常生活の改善が必要であることが分かり、これ以上の欠席で、実習中止を実習生に伝えた。その後、欠席はなくなり、薬局実習を完遂することがで

きた。

●学生の知識・能力不足が原因:2件

- 学生の学力不足で数日間中断(大学での実習)。
- 実習7週目に入り、指導薬剤師より「実習開始当初から医薬品に関する知識が不足していたこと」、「添付文書等を渡して、当薬局で良く使用する医薬品だけでも覚えるように促したが勉強している様子が見られない」、「やる気が感じられない」といった報告があった。学生に電話連絡し事情確認すると、「指導内容が厳しい」ということであった。双方との連絡、確認を続け、大学としては「指導薬剤師の求めるレベルが高いこともあるが、学生の知識不足、何より実習や勉強に対する意欲が感じられないことが問題」と考え、対面による学生指導を行った。その後も電話等による指導を繰り返したが、大きな改善は見られずなんとか11週を終えることとなった。コロナ禍が引き続く中、〇〇県と〇〇県というやや遠隔地で行う実習の難しさを感じた事例となった。

●学生の体調不良や不慮の事故が原因:2件

- 2021年8月〇日より予定通りIII期実習の開始。8月〇日、学生から担当教員に実習施設の薬剤師(1名)より責められていると受け取れるような厳しい指導があり精神的に辛いとの電話相談がある。担当教員は実習も始まったばかりなのでもう少し様子を見るよう提案し、辛さが続くようであれば大学から施設側に相談する旨を伝える。8月〇日、学生が実習中に過呼吸(パニック障害)を起こしたとの連絡が指導薬剤師より大学に入る(指導薬剤師が学生と話し合い、本日の実習継続は不可能と判断し自宅に帰宅させる)。同日、担当教員が学生に電話連絡して、今後の実習継続について確認したところ現施設で実習を続けるのは精神的に難しいと告げられる。本大学内の実習担当教員も含めて今後の対応について話し合い、現施設での実習継続は難しいと判断。8月〇日、指導薬剤師にその旨を報告し実習施設変更の承諾を得る。
- 実習中に老健施設での医師の褥瘡処置の見学をさせて頂いたところ、急に意識を失い顔から倒れ、病院でCT検査を受け、頸椎、頭部には異常は無かったが、顔面に軽い怪我を負った。

●その他

【病院】

●学生の実習態度が原因:1件

- 実習時間中に個人情報に関する取り扱いについての認識不足があり、実習施設及び本学から嚴重注意を行った。

●学生の知識・能力不足が原因:0件

●学生の体調不良や不慮の事故が原因:3件

- 指導薬剤師の先生より実習初期から、学習したことの定着が良くないというご指摘をいただいた。指導薬剤師の先生の繰り返しの指導に加え、大学からも数回にわたり面談にて指導を行ったが、改善が見られなかった。その後、指導薬剤師の先生が実習の関わりの中で実習生の色や文字の見え方について違和感を覚え本人に確認したところ、何年も前から色の違いがわかりにくい自覚があるとのことであった。色の違いがわかりにくいことが実習の習得度に影響している可能性が考えられた。大学の健康診断では色覚検査は必須項目ではなく、また、学生からの事前相談もなかった。本人には眼科受診を促し、指導薬剤師の先生の見守りの下、最後までご指導いただいた。
- 実習開始2週間前から大学へ毎日、健康状態の報告を義務付けているが、実習生が実習開始1週間前に味覚異常を訴えた。新型コロナウイルス感染症のPCR検査を受けた結果、陽性と診断された。症状の消失・

PCR検査での陰性・実習開始日についての実習施設との合意の確認がとれるまでは自宅での療養および学習期間とした。実習開始後は新たな感染は確認されなかった。

- ・実習終了 2 週間前に咽頭痛と鼻水の症状のため実習を欠席。症状は続いていたが、新型コロナウイルスの抗原検査で陰性を確認したため、指導薬剤師の先生と大学で合意の上実習を再開した。しかし、再開 3 日後に、実習生が数日前から味覚・嗅覚が低下していることを実習中に指導薬剤師の先生に相談した。すぐに早退させ、実習は残り1週間で切っていたため、指導薬剤師の先生と相談、ご指示のもと、その後は自宅学習とした。

●その他:5 件

- ・学生が病院実習で発表会用の資料を作成中、発表に使用する症例の患者とは別の患者の電子カルテを誤って開いてしまい、カルテ閲覧履歴が残り問題になるところであった。個人情報の漏洩だけでなく、正当な理由がないカルテ閲覧も大きな問題につながるため、今後大学でも十分に注意するよう学生達への指導が重要である。
- ・同居している家族が熱発・PCR 結果(陽性)となったが、実習施設とも連携して対応し、本人が無症状かつ PCR陰性だったこと等を確認したうえで、臨地実習開始となった。
- ・同居している家族が熱発・PCR 結果(陽性)となったが、実習施設とも連携して対応し、本人が無症状かつ PCR陰性だったこと等を確認したうえで、臨地実習開始となった。
- ・同居している家族が熱発・PCR 結果(陽性)となったが、実習施設とも連携して対応し、本人が無症状かつ PCR陰性だったこと等を確認したうえで、臨地実習開始となった。
- ・2 期実習中から体調面で問題はあったが、3 期開始時に休学となったため、3 期病院実習はキャンセルとなった。

2) 大学・教員が発生源の場合

【薬局】

●連絡不備(連絡が遅いなど)が原因:1 件

- ・根底は学生と指導薬剤師の相性の問題であるが、学生の心理的負荷と教員の認識に差があり、「当該実習施設での実習継続が難しい」との診断書が提出されたため、地区の薬剤師会に相談の上で施設を変更し、11 週間の実習を確保した。

●教員の態度が原因:0 件

●その他:0 件

【病院】

●連絡不備(連絡が遅いなど)が原因:0 件

●教員の態度が原因:0 件

●その他:0 件

3) 指導薬剤師が発生源の場合

【薬局】

●指導の厳しさ・パワハラ・要求の高さなどが原因:4 件

- ・Ⅲ期実習は 8 月 ○日から開始となったが、9 月 ○日をもって実習中断となった。指導薬剤師は学生のことを思い、熱心に指導をしてくれていたが、その熱心さが学生にとっては日々プレッシャー・ストレスとなり、学生が精神面、体調面で支障をきたし、残念ながら実習中断ということに陥った。

・2021年9月○日、学生から担当教員に指導薬剤師の発言が自身で受け止めきれないものが散見し、精神的に辛いとの相談がある。9月○日、担当教員が学生と面談。学生は心身喪失状態であり、実習中の指導薬剤師の発言を聞き流すことができる状況ではないことを確認(実習中に手が震えてしまう状況(学生家族も現状を心配している))。本大学内の実習担当教員も含めて今後の対応について話し合い、現施設での実習継続は難しいと判断。学生も施設を変更できるのであれば、心身が落ち着き次第実習を再開したい意志があることも確認。9月○日、実習担当教員から指導薬剤師に現状を報告し実習施設変更の承諾を得る。

・経緯:実習生から担当教員に、薬局内の清掃について一つの事例として相談があった。女性の担当教員が、状況確認に向かい、パワハラととれるような高圧的な態度での対応がであったため、本学○○が、他大学との情報連携を図り、状況を確認、共有した。その後も学生に対するパワハラが過激になっていることから、今後も、状況の改善は見込めず、本学実習生の実習環境として問題ありとして、実習継続は難しい判断に至った。施設側には、学生の体調不良を理由に実習中断を申し出た。経過:同じエリアでの実習継続では、学生に不利益が生じる可能性が否定できないので、別のエリアの薬局にて、受け入れの調整を行い、実習を行うこととした。翌週の○日の月曜日から実習を開始する。原因:教員訪問時の対応に対してもパワハラと考えている。人の意見を聞かない態度や学生に対してのエスカレートする悪意ある指導から指導薬剤師の薬剤師としての資質に問題があると考え。他の薬剤師も同調している様子もあり、薬局全体の問題とも捉えている。対策:早期に教員が対応したが、これではこの薬局へは学生は送れない。学内での情報共有を行い、薬局実習の希望調査、学生配属の段階で、調整をかけたいと考える。

・経緯:実習生から担当教員に、指導薬剤師から過度なパワハラを受け、相談のあった事例である。相談内容は、指導薬剤師を含む3名の薬剤師から学生気分が抜けていないなど、実習生へのプレッシャーが常態化していた。さらには、指導薬剤師コメントはしっかり記載されているが現状では口も利かないなどのパワハラも毎日だったとのこと。担当教員が、状況確認に向き、改善を図ったが、状況が変わることはなかった。そこで、実務実習センター長が、他大学からの薬局情報収集、エリア担当との接触を図り、結果、改善の見込み無しであることをエリア担当と判断。本学実習生の実習環境として問題ありとして、実習継続は難しい判断に至った。施設側には、学生の体調不良を理由に実習中断を申し出た。経過:同エリアではあるが、場所的に離れている薬局にて、受け入れの調整を行い、実習を行うこととした。翌週の○日の月曜日から実習を開始する。原因:学生指導に関する協議においては、問題は発見できなかった。現場での学生の成長を考えた指導がなされていない。辛抱強い学生であったので相談までかなり我慢していたようである。過去にも同様な事例が散見されていた(大学間で確認済)が○○県内の薬局の事例では○○県で情報が不足。対策:学内での情報共有を行い、薬局実習の希望調査、学生配属の段階で、調整をかけたいと考える。

●指導力不足・フィードバック不足、指導してくれない、不在、異動などが原因:0件

●不適切な実習内容(服薬指導させないなど)が原因:1件

・実習終了後の学生による申告。毎日の課題に加え、週末には平日よりもボリュームのある課題が出され、その課題対応に時間がかかったため、週末の休養が取れた気がしなかったとのこと。週末は当該週の週間振返りによるまとめの時間、及び翌週の実習の準備の時間、不慣れた環境下での緊張からのリフレッシュ期間として考慮頂ければと思います。

●その他:5件

・実習開始日直前に薬局職員が新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者となり、実習初日は臨時休業となったため、翌日から実習開始となった。開始後に感染は確認されなかった。

- ・実習期間中、指導薬剤師の先生が新型コロナウイルス感染症陽性となり、実習生はその濃厚接触者となったため、1週間半自宅学習とした。その間に実習生の PCR 検査の陰性と、症状が発現しなかったことを確認の上、実習を再開した。
- ・本学と他大学の学生 2 名受入れている施設で、開始当初は大きな問題はなく実習が進んでいたが、当薬局の感染対策に学生達が疑問を持ち、1 名の学生が大学教員に相談した。大学教員が訪問の際にその件につき指導薬剤師に伺って以降、指導薬剤師と学生との関係が悪くなり、当薬局での実習が中止となった。大学教員が間に入ることで、施設側と学生との関係が悪くなることもあり、調整機構及びエリア担当者に相談するなど慎重な対応が必要である。この件に際して迅速にご対応頂いた調整機構事務局の皆様、エリア担当者の先生に感謝申し上げます。
- ・学生と指導薬剤師との人間関係で、学生が委縮してしまい実習遂行が困難になった事例。学生の精神状態が悪化したため、指導薬剤師と大学教員で相談したところ、これ以上の実習は学生にとって良くないと判断し、同エリアの他薬局へ実習先が変更となった。変更後、特に問題なく実習を終了した。
- ・学生の社会性の不足という面もあるが、学生への指導内容に熱がはいり、本人にとって、心理的負荷が大きなものとなり、心療内科を受診する状況となってしまった。

【病院】

- 指導の厳しさ・パワハラ・要求の高さなどが原因:0 件
- 指導力不足・フィードバック不足、指導してくれない、不在、異動などが原因:0 件
- 不適切な実習内容(服薬指導させないなど)が原因:0 件
- その他:0 件

4) 実習施設が発生源の場合

【薬局】

- 指導者薬剤師以外の人(経営者、他の薬剤師、事務など)が原因:2 件
- ・10 月 ○日に学生よりハラスメントに関する相談が研究室教員にあり、実習担当者が電話で確認。以下の内容であった。実習序盤、どのスタッフが薬剤師か分からない状態である 1 名のスタッフに質問すると激しく拒絶され、それ以後冷たい対応をされている。10 月 ○日より、複数の他のスタッフからも同様の対応をされ辛い。指導薬剤師には相談できていない、することで悪化するくらいならあと 3 週間ほどなので我慢しようと思う。そこで学生の意向を汲み、様子見として何かあれば連絡するよう伝えた。10 月 ○日に本人から実習担当者に電話連絡があり、理不尽な怒られ方をして辛い、我慢できないので指導薬剤師に報告してほしいとのことであった。10 月 ○日に指導薬剤師に電話連絡し、以下を申し伝えた。薬局スタッフによる理不尽な怒りを込めた指導に学生が苦しんでいる。事情を理解した上で監督、フォローをお願いしたい。指導薬剤師は、学生が言われたことをきちんとできない場面があり、その際に厳しい表現で指導してるスタッフがいるのかもしれないが、正確に把握できない様子であった。その後、毎週末の学生からの報告ではあまり改善は見られないまま 11 週の実習を完了することとなった。
- ・他の薬剤師から指導者薬剤師の悪口を聞かされた。
- 多施設での実習(実習場所を転々とするなど)が原因:0 件
- 実習生を受け入れるレベルでない設備、勤務状況、業務実態などが原因:0 件
- その他:0 件

【病院】

- 指導者薬剤師以外の人(経営者、他の薬剤師、事務など)が原因:0件
- 他施設での実習(実習場所を転々とするなど)が原因:0件
- 実習生を受け入れるレベルでない設備、勤務状況、業務実態などが原因:0件
- その他:0件

5)その他

【薬局】0件

【病院】0件

2. 薬局側の意見(学生のこと、大学・病院との連携、評価など)

<学生について>

- ・意欲的に実習に取り組んでいた。
- ・学生の質の問題と大学側の対応。
- ・2021年度(令和3年度)第Ⅲ期実務実習終了後に行った薬局へのアンケート調査(n=20)では、『本学学生の実習に臨む態度』について、「とても良い」が9件(45.0%)、「良い」が7件(35.0%)、「普通」が2件(10.0%)、「悪い」が2件(10.0%)であった。『本学学生の知識・技能』について、「とても良い」が1件(5.0%)、「良い」が8件(40.0%)、「普通」が8件(40.0%)、「悪い」が3件(15.0%)であった。また、『本学教員の対応』については、「とても良い」が6件(30.0%)、「良い」が6件(30.0%)、「普通」が6件(30.0%)、「悪い」が2件(10.0%)であった。
- ・日常的なマナーに欠ける学生がいるが、どの程度指導したらよいか加減に困ることがある。
- ・実務実習において大切なことは、問題解決能力を身につけることである。
- ・保険薬局において、実習生が問題解決能力を習得できるようにするには、似たような症例をたくさん経験することだけでなく、その症例の中で、一つの症例を深く掘り下げることも重要である。そして、この後に続く病院実習でも、個々の症例をモニターのできる環境下、チーム医療の中で問題解決を実践する臨床実習を継続して行わなければならない。

<大学との連携について>

- ・学生を受け入れるのが初めてだったため、パフォーマンスシート(8疾患シートおよび日誌の評価シート)等の初めて見るシステムについてしっかりと教えて頂いてから実習に臨めた。
- ・なかなか連携を感じづらいのと、どう関わるか当事者としていい案がない状況
- ・症例検討は、できるだけ多くの薬剤師で共有し、意見をもらうことも大切である。特に次に実習する病院の指導薬剤師に参加してもらい意見をもらうことで、今後どのような視点が必要なのかを知ることができる。そして、病院実習終了後の成果発表において、薬局の指導薬剤師にも参加してもらうことで、相互で実習を振り返り、状況を共有することができる。これは実習生の成長を促す実習環境の成に寄与することとなる。
- ・第Ⅲ期終了後に開催された本学連携会議において、第Ⅱ期実務実習で質の高い薬局実習事例として報告をした薬局指導薬剤師の先生から以下の報告があった。
- ・第Ⅲ期実習からパイロットスタディとして開始した連携中の薬局指導薬剤師からは、事前に情報交換を行うことで、薬局実習、病院実習内容を把握し、課題を共有して実習を進めることができるので、とても良い取り組みであると意見をいただいている。

<評価などについて>

- ・先に学生に自己評価をつけていただき、その後に評価者の評価と照らし合わせる。その際手引き等を利用して可能な限り「見える化」を意識して行った。

3. 病院側の意見（学生のこと、大学・薬局との連携、評価など）

<学生について>

- ・今年の実習生は特に意欲も高く、自分で調べたり勉強したりしている様子が感じられてよかった。
- ・体調管理が十分でなかった。
- ・実習日誌が、日記のようである。若者言葉？が登場する。
- ・こちらの質問に対し、理解できているかのような返答が多いが、よく聞くと何も理解できていない。下調べをするように伝えても、調べたと言うが実際は調べていなかった。
- ・実習指導に対して反応が薄く、指導者が戸惑った。
- ・実習時の服装について指導が必要だった（スカートが短い、ロングスカート、カジュアル過ぎる、アクセサリを付けている）。
- ・2021年度（令和3年度）第Ⅲ期実務実習終了後に行った病院へのアンケート調査（n = 22）では、『本学学生の実習に臨む態度』について、「とても良い」が7件（31.82%）、「良い」が9件（40.9%）、「普通」が5件（22.73%）、「とても悪い」が1件（4.55%）であった。『本学学生の知識・技能』について、「とても良い」が3件（13.64%）、「良い」が8件（36.36%）、「普通」が8件（36.36%）、「悪い」が3件（13.64%）であった。また、『本学教員の対応』については、「とても良い」が8件（36.36%）、「良い」が9件（40.91%）、「普通」が5件（22.73%）であった。

<大学・病院との連携について>

- ・〇〇（Webシステム）などを利用して情報の共有ができると良いと思う。
- ・学生の性格等が具体的に知る事が出来た。学生の実習状況や実習態度について情報共有出来た。

<薬局との連携>

- ・大学が用意してくれた8疾患の情報共有シートにて薬局での8疾患の取り組みが分かったのが良かった。
- ・大学との連携は問題なく実施できていると感じるが、薬局で学んだことについては、学生から聴取しているのみであり、薬局と直接やり取りは実施していない。現状でも実習の実施で問題は無いが、病院と薬局で連携出来ることがあるとより良い実習になると思う。
- ・薬局での実習状況がどのようなものだったのか把握しにくかった。

<評価などについて>

- ・具体的に何が出来たらこの評価を上げることが出来るか、フィードバックをするに伝えるようにした。
- ・学生と指導者が概略評価の内容を共有し、評価をこれからの実習内容への足がかりとなるようにした。
- ・日によって担当者が異なるため、実習中の振り返りを実施してあげることが困難でした。こちらに関しては、次年度以降に対策を講じていきたい。
- ・日誌の内容が希薄なため、理解度の把握が難しいことがあった。

4. 大学側の意見（連携、評価など）

- ・実習先からPCR検査の実施を求められるが、費用を実習費の中に組み込んでもらうように統一していただけないでしょうか。金額がかなり高額になるところもあり、検討して頂けると助かります。
- ・実習施設に対する教員訪問は、原則として実習開始後初期および実習開始後後期の2回実施している。但し、実習施設の希望や学生の実習状況により訪問回数は増減する場合があります。また、実習開始前および開始後中期には指導薬剤師への電話、メールもしくはWebシステム等での連絡により実習状況を確認している。その

他に担当教員の連絡先、医療薬学教育研究センター、緊急の連絡先等を実習施設に提示しており、電話、Web システムおよびメール等を含めて緊急の場合には迅速に連絡できる体制を取っている。

- ・実習学生の成績評価の一部に、実習施設薬剤師と教員による共同評価(困難な場合には、教員による単独評価)を取り入れている。このため、連絡や訪問等において、教員より実習施設薬剤師に対して共同評価(もしくは単独評価)を実習施設と大学との連携の重要なこととして捉えていることを説明し、可能な限り共同での評価を依頼している。さらに、実習開始後後期に「実務実習成果報告書」を担当教員が作成し、連携する実習施設(薬局→病院→薬局)に情報提供を行っている。
- ・新型コロナウイルス感染症の現状から施設訪問が難しい場合は、施設側と相談の上、Web 会議システムや電話、メール等で実習状況を確認している。
- ・薬局における実習内容の施設差が大きくなって来ているように感じられ、学生からも複数そのような意見が寄せられている。大学として対策を考えていかなければならないと痛感している。
- ・コロナ禍での実習という状況でしたが、一定の制限の中でも先生方のご苦心・工夫により、多くの実習施設において通常とほとんど変わらないような実習を実施していただきましたことに心より御礼申し上げます。実習施設の先生方の薬学教育へのご尽力に感謝申し上げます。
- ・既に、第Ⅱ期実務実習の質の高い薬局実習事例として報告をした〇〇市・薬局の指導薬剤師の先生と薬局実習後に継続して実習を行った〇〇市・病院の指導薬剤師の先生と今回の連携事例に関して話し合う機会を持ち、振り返りを行った。今後、学生実務実習現場における現状調査、問題抽出、統合化方策の立案及び小規模モデル実証を通して、大学を軸とした、保険薬局及び病院・診療所薬剤部門における学生実務実習のシステム統合化に関する有用性と必要性について共通の認識をもつことができ、連携環境の構築と展開について継続して検討を進めることとなった。
- ・第Ⅲ期実習終了後に本学に於いて、オンラインによる令和3年度実務実習成果報告会・指導者連携会議が開催され、この連携事例について、紹介、報告を行った。
- ・第Ⅲ期実習からパイロットスタディとして開始した薬局実習開始前から薬局指導薬剤師、病院指導薬剤師、学生、薬局・病院各担当教員の5者がオンライン上で集まり、それぞれの実習期間中の節目において、情報を共有し、薬局及び病院の特色を生かした相補的かつ相乗的な効果が期待できる学生実務実習環境の調整を図る試みが継続しており、実習生のモチベーションも高く維持され、病院での実習へ移行もスムーズになるものと考えている。

5. 学生からの意見

- ・他に学生の感想として、病院実習では、コロナ過の中であつたが病棟実習ができ、貴重な経験を積めた意見が多く、オンライン実習でも、他大学の実習生と協力しながら治療方針を考えたりでき充実していたという意見が多かった一方、服薬指導が出来なかったという意見も見られた。薬局実習では、実習施設の雰囲気が高く多く学ぶことができたという意見の一方、処方箋が来ない時間は自主学習、実習施設の雰囲気的不满などの意見もあった。
- ・人手不足により一包化など調剤の仕事が多く、手が空いたタイミングが合わないとなかなか服薬指導ができる機会がなかった(服薬指導件数12回、参考:第Ⅲ期薬局実習の学生の中央値58回)。薬剤師や事務の方々は、実習生に対してはとても優しく親切にしてくださったが、特に10月からは人手不足や業務体制の変更の影響で上との関係が悪くなり、かなり不満が噴出していて雰囲氣的にいたたまれない状況だった。
- ・薬局ごとに実務実習の受け入れ対応が異なりすぎていると感じた。
- ・薬局によっては一包化ばかりさせられる人や座学ばかりさせられている人がいるという話を聞いて気の毒に思

った。

- ・薬局業務だけでなく幅広い実習をさせていただけて良かった。将来の進路を考える参考にもなった。

良かった点

<施設に対して>

- ・第Ⅲ期病院実務実習終了後に行った学生へのアンケート調査では、「満足できた」+「少し満足できた」は、96.0%(n = 25)であった。
- ・第Ⅲ期薬局実務実習終了後に行った学生へのアンケート調査では、「満足できた」+「少し満足できた」は、94.4%(n = 18)であった。
- ・実習で良かった点として回答率が高かったのは(回答率 40%以上)、第Ⅲ期病院実習では「指導薬剤師による指導」、「実習期間全体を通じての実習スケジュール・カリキュラム」、「患者応対」、「実習施設の雰囲気」が60.0%、「薬剤師以外の他職種とのコミュニケーション」、「実習施設の規模」が52.0%であった。
- ・第Ⅲ期薬局実習では「指導薬剤師による指導」が83.3%、「実習施設の雰囲気」が66.7%、「他施設での実習や集合研修」、「患者・顧客応対」が55.6%、「薬剤師以外の他職種とのコミュニケーション」、「実習期間全体を通じての実習スケジュール・カリキュラム」、「実習時間外の研修や勉強会」、「実習施設の規模」が44.4%であった。
- ・実習先の指導薬剤師先生をはじめ私たち実習生の心理的安全性をしっかりと確保した上で課題や質問を与えてくれた。
- ・新型コロナウイルス感染症が蔓延する中でも、毎日病棟に上がって患者さんと話す機会を設けてくださった。やりたいと申し出たことについて、何でもできる環境を整えてくださった。
- ・病棟で多くの患者様にお会いして、疾患や服薬指導のポイント、モニタリングのポイントを学べたこと/扱う薬剤の数も多く自習時間にも勉強することが沢山あったこと/先生方がお忙しい中でも実習生にさまざまな体験をさせていただいたこと。
- ・コロナ禍により初めの3週間がリモートになってしまいましたが、薬剤師の先生方が毎日課題を作ってくださいました。事前に知識をインプットし整理することで、現地においてスムーズに実習に挑むことができたと感じます。また、薬剤師の先生方はとても丁寧に指導して下さり、多くのことを学び吸収することが出来ました。
- ・隔日の登院であったが、在宅課題が明確に定められており多くの学びを得られた。また、指導薬剤師の指導がわかりやすかった。
- ・実習書、スケジュールで実習全体の見通しを持った上で各業務を学べた点。隔日登校だったため病院で学ぶための準備を十分に行えた。

悪かった点、改善すべき点

<施設に対して>

- ・実習先が到達度評価をなかなか記入してくれなかった。指導薬剤師が細かく変わる環境だったため、フィードバックを受けにくい環境だったと感じる。
- ・実習後半は報告会の準備をしてください、など丸投げな指示が多く、学ぶものがない実習だった。
- ・担当薬剤師の先生に質問され、分かりませんと答えるため息をつかれるなど、実習趣旨以外のところで気を使うことが多かった。

- ・指導薬剤師が細かく変わる環境だったため、フィードバックを受けにくい環境だったと感じる。
- ・実習で良くなかった点として回答率が高かったのは(回答率 10%以上)、第Ⅲ期病院実習では「毎日の実習スケジュール・カリキュラム」が 16.0%、「実習期間全体を通じての実習スケジュール・カリキュラム」、「薬剤師以外の他職種とのコミュニケーション」、「他施設での実習や集合研修」が 12.0%であった。
- ・第Ⅲ期薬局実習では「実習施設の規模」が 22.2%、「実習期間全体を通じての実習スケジュール・カリキュラム」、「実習施設の雰囲気」が 16.7%、「毎日の実習スケジュール・カリキュラム」が 11.1%であった。

<大学に対して>

- ・病院実習のスケジュールを先に生徒と先生の中で認識をすり合わせておきたかった。
- ・あらかじめ実習先の実習の雰囲気(しっかりやらせてもらえるのか、大した内容がないのか等)を踏まえて、自分に合う実習先を選べるようにしてほしい。

【北陸地区】

1. 実習実施時のトラブル

A 県病院薬剤師会

- ・学生の通勤用の車がパンクして開始時間に遅れた。本人より連絡があり、体にはげがなどはなく、慌てず来るよう指示。別日に研修会への参加もあり、不足する時間分を振り替えることとした。

B 県薬剤師会

- ・本人が体調を崩したため、振替日を作るなど対応が必要となった。
- ・実習期間が短いため全体的にかけ足になった。
- ・コロナ禍における蔓延防止期間の延長で地域活動が延期となった。(その後行われた)
- ・学生に質問しても答えられず泣き出すなどが再三あり後味が悪かった。

B 県病院薬剤師会

- ・2名の学生の姓(苗字)が同じであったため、呼び名に苦労した。薬局内では、名(下の名前)で呼ぶことに統一したが、初めはやや心理的な抵抗があったスタッフもいた。看護師から問い合わせがあった際に、どちらの学生か分からずに困ることが数回あった。

C 大学

- ・学生の実習態度や、学力不足により、指導薬剤師が対応に苦慮する例が複数あった。

2. 薬局側の意見(学生のこと、大学・病院との連携、評価など)

A 県薬剤師会

- ・コミュニケーションに関して配慮しなければいけない学生が実習に来たが、大学から事前に情報提供があり、トラブルなく実習を終えることが出来た。
- ・薬局までの通勤距離が遠い為、通勤時間が1時間弱かかり、また交通費の支給も無いとの事で、実習先の割り当てによって不公平な部分が生じていると感じた。
- ・大学との連絡・連携については、実務実習指導・管理システムの1週間毎の振り返りコメントから先生の考えや要望を把握する事が出来たので問題なく実習を進める事が出来た。

- ・評価については到達度評価に沿って指導を行い、達成出来たステップを基に考慮する事になると思うが、指導薬剤師の主観の部分が多い為、平均的な点数や点数の分布について大まかでも教えておいて頂けると助かる。
- ・学生が体調不良により、遅刻及び早退した日があった。大学に状況の報告と確認を行うために連絡したが、実習担当教員とすぐに連絡がつかなかった。代わりに同研究室の学生が電話に出たが、教員不在時の対応が決まっていなかったのか「わかりません」という回答をされた。今後、可能であれば、実習担当教員不在時に連絡があった場合の対応方法を決めておき、研究室のスタッフにも伝達していただくとありがたい。
- ・評価の仕方が今一つ分からず、悩みながら入力した。
- ・実習期間中に薬局側で配慮する必要がある学生を実習に出す際には、可能な範囲で大学側から薬局に事前に相談してほしい。その際には、プライバシーの保護や個人情報の取り扱いに配慮した上で、薬剤師会担当者にも一報いただきたい。
- ・学生が個人のパソコンを持参してきていたので、課題やレポートのやり取りなどがその場でメールのやり取りができ、データで保存できたのでやりやすかった。
- ・患者層は生活習慣病が多数だったので、関われる疾患に偏りがあった。
- ・ループリックについて難易度が高く、2段階から3段階に引き上げることはなんとかできて、4段階まで到達させることはかなりむずかしいと感じた。薬局→病院実習を経ることでさらにレベルアップをはかれることを期待。
- ・休憩含めず8時間の実習時間を確保するように言われ大変だった。
- ・服薬指導に関して、できるだけ多くの機会を与え経験してもらおうようにしている。その際感じることは、患者との会話にかなり緊張感をもっているよう。また、その指導内容も、何かパターン化された台詞があるように最初は思っていたようなので、この点を解きほぐすのが大変だった。

B 県薬剤師会

- ・どのくらいの視点で見たらいいのかが、経験不足のため(初めての受け入れ担当)戸惑った。難しかったが、何とか終了させることが出来た(他の薬局スタッフをなだめる必要があった)。成人としての常識を逸しているなど多々あり、問題点については大学教員へメールにて報告し、一度電話でもお話するなど臨機応変に対応していただいたので助かった。
- ・学生は素直で指示した事はできていた。知識が少し乏しかったので、病院実習で困らないように、薬局でできるだけ指導はした。しっかり復習して病院実習に臨んで欲しいと願う。指導の先生とは、訪問やメールとのやり取りで、コミュニケーションがとれていたと思う。
- ・病院とは何も連携出来ていないため他薬局で上手くしている所があれば教えて欲しい。大学とは、問題があった時に自分がしなければいけない事をしていない時の連絡で、実習内容でも何でも指示あれば言ってもらえればする余力はあるはず。評価は以前に比べ抽象的になり、しにくくなった。
- ・個性的な学生が来る場合は一言もらえると助かる。難しいとは思いますが学校からの評価も見られると思う。
- ・大学側から事前の説明がしっかりと行われるため特に困る事はなかった。
- ・事前学習で行ったことを最低限出来るようにして実習に臨んでほしい。
- ・とても意欲的な学生で、教えがいがあった。
- ・評価に時間を要しないため実習に力を注げる

C 県薬剤師会

- ・2人の場合、学生同士の相性を考慮してほしい。
- ・休憩時間の使い方の指導が必要ではないか。
- ・熱意、思いやり、謙虚さを今回の学生から学んだ。

3. 病院側の意見（学生のこと、大学・薬局との連携、評価など）

A 県病院薬剤師会

- ・実習生1名（ふるさと）受け入れ中、他施設実習生のがん領域を当院で受け、一時的に2名になった。学生さん相互のコミュニケーション良好を背景とするのかもしれないが、相乗的学習効果を感じた。施設の薬剤師数によっては、学生複数名体制が双方にメリットが大きいと思った。
- ・コロナ禍においてワクチン接種も事前に打てるよう手配できないだろうか。

B 県病院薬剤師会

- ・2名の学生とも、非常に優秀であり、積極的な姿勢には受け入れ側も学ぶことが多かった。
- ・薬局との連携はWebサイト上の実習スケジュール表を通してのみであり、やや不十分であった。
- ・可能であれば、年間に2名が実習に来る場合は、1つの期に2名配置するなどまとめてもらえると助かります。
- ・担当教員から、実習生の大学での様子や薬局での実習状況に関する詳細な情報提供を頂いていたので、必要な配慮をすることができたと思います。
- ・実習生ごとに日誌（日報、週報等）の記載内容に大きな差がある。日誌等の記載に関して、大学で指導いただけると幸いです。
- ・評価項目の範囲が広くシステムでの入力がしにくく項目ごとの進行具合を把握しづらい。SBOs 毎の評価の方が出来不出来を理解しやすく学生も目標を立てやすいと考えます。
- ・指導薬剤師の実習システムに入力する項目が多すぎる。実習全体の振り返り、評価の概評もどちらか一方でいいと思う。
- ・大学・薬局との連絡も密に取れていたと思います。
- ・実習前に大学担当者側と連絡がとれておらず、実習生と直接連絡をとった。

C 県病院薬剤師会

- ・評価するタイミングや項目が多くて大変だった。忘れてしまうことが多くて申し訳なかった。
- ・学生が積極的に実習に取り組んでくれたのでこちらとしてもやりやすかった。大学との連携も問題なかった。

大学を介しての病院からの意見

- ・オンラインの時の出席管理について、大学に特に取り決めがない。
- ・実務実習システム上での成績入力が5段階になっており、本学からのものが4段階になっていることから、統一してほしい。
- ・薬剤師から聞いた話が勉強になったという感想が多いが、本来実習とは説明を受けた内容に関して、自分で再度調べて理解を自分のものにするものだと機会があるごとに説明したが、理解は得られなかったように思う。
- ・評価について、漠然としているため以前より評価に係る時間は短いですが、個人で差別化するためには細

かい段階が必要。

- ・症例に対する介入する部分の後押しをして介入してもその後追いをする積極性がない。介入に対するフォローの責任感が薄い。自分の実習期間が過ぎても気に掛ける責任感が欲しい。
- ・多職種連携について、医師、看護師その他の職種との連携の体験はそれぞれ行っているが考察が薄いので、実習生同士でそれぞれが体験した多職種連携について情報交換する場があってもよい。

4. 大学側の意見（連携、評価など）

C大学

- ・〇〇（Webシステム）不可の施設で電話対応となったが、電話だけではやりづらいと感じた。

5. 学生からの意見

A大学

- ・重度心身障害患者と少数の結核患者のみが入院しており、様々な疾患を学ぶことはできず、また長期的な入院患者ばかりであったため、処方提案やモニタリング等の介入もほとんどなかった。疾患についても自分でその日に学習したい疾患を決めてインターネットや書籍を用いて調べる等、机上の学習がほとんどであった。指導薬剤師とカンファレンスに参加するも、提案や意見等なく医師に従うという状況であり、その状況を疑問に思った学生から直接医師に質問や意見する形となった。入院患者の特性から介入の余地がないため、報告としてまとめることが可能な症例が見つからず、介入をほとんど行うことなくまとめることとなった。薬剤師の人手不足によって病棟業務をほとんど行っていないため、入院患者への服薬指導を含めて病棟業務を学ぶことができなかつた。そもそもマンパワー不足の状態ですべてを受け入れる（送る）というのは問題があるように感じる。また抗がん剤調製も行うことができなかつた。病棟業務や抗がん剤調製などは病院実習の醍醐味とも言えるが、それらを行うことができなかつたのは非常に残念である。薬剤師の方々には実習を通して様々なことを教えて頂き、自分の学習に繋がったこともあるので感謝しているが「せっかく病院実習に参加するなら、もっと色々なことに触れさせてあげたかった」という薬剤師の方の声も聞かれた。自分が実習に行つて薬剤師の方の教えたいという気持ちに沿うことができなかつたことも残念である。来年度以降はマンパワー問題や、指導薬剤師がしっかりと指導を行うことができる状況かなどを考慮した上で実習先とするかどうか検討する必要があると感じている。もしくは実習する期間内に、他病院にて数週間実習を行い、不足分を補う等の措置が必要ではないかと考えた。友人の話を知っていると、実習生の間での実習内容の密度の違いが明確であり、そのような差が生まれることはなるべく避けることが好ましいように思う。
- ・周りに行きたかったという人もいる中で、特に強く希望していた訳ではない自分がこの施設で実習していることに違和感があった。希望の有無も確認してほしい。
- ・一日だけ実習に行かせていただいたが、一日では足りなかつたと感じた。

C大学

- ・教育入院の患者さんの服薬指導後に自分の服薬指導を参考に行動してくれて居て患者の行動変容に繋がる指導ができたのが嬉しかった。
- ・今回の実習で5つの病棟で業務を経験し、それぞれの違いを発見できて良い機会となった。実務実習担当教員と連絡も取りやすく、システムが便利だと感じた。

- ・実際に生徒に対して薬物乱用防止教室を行ない、後日生徒から感想文をいただいて、薬局薬剤師が地域の人々にも貢献しているということを実感することができた。

【東海地区】

1. 実習実施時のトラブル

- ・ある指導薬剤師の指示に従うと別の指導薬剤師から「それではダメだ」と言われたり叱責されたりしたため学生がどうすればよいのか分からなくなった。実習に対して意欲も喪失してしまいしばらく実習に行くことができなくなった。
- ・実習施設の職員間の問題から指導薬剤師が途中で退職してしまい、途中で実習施設を変更せざるを得なかった。
- ・実習施設の環境ならびに職員同士の人間関係がよくなく、実習内容が十分ではなく、「自分が実習をしていることが負担にもなっているのではないか」と学生が施設に対して気を遣うようなことになってしまった。

【服薬指導実践ができないケースがあった】

担当教員が実習先訪問時を含め複数回 服薬指導実践を行うよう指導薬剤師に依頼し 実践をさせるとの返答にもかかわらずロールプレイのみ（十分な振り返り等の対応無）で実習を終了したケースがあった。当該施設ではピッキングをする時間が多かった。

2. 薬局側の意見（学生のこと、大学・病院との連携、評価など）

- ・学生なので仕方がないとは思いますが、社会人としてのマナー、常識をもっと身につけていく必要があると思います。
- ・全般的に、学生は問題なく、大学・病院との連携も取れていた。評価も問題なくできていた。学生の頻回の遅刻や悪い態度等について薬局から指摘があったため、何度か教員が薬局に行き直接指導を行った。

3. 病院側の意見（学生のこと、大学・薬局との連携、評価など）

- ・実習生の実習に対する意気込みや意義の理解が出来ていない、また、医療の現場で実習を行っている自覚が欠けている。
- ・全般的に、学生は問題なく、大学・薬局との連携も取れていた。評価も問題なくできていた。

4. 大学側の意見（連携、評価など）

- ・薬局実習で網羅できなかった実習項目（代表的 8 疾患関連など）を病院へ伝えることで、コロナ禍の環境下でも可能な限り多くの患者さんに接する機会を設定していただきました。
- ・第 3 期に限ったことではないが、原則として実家住所地での実習であるため、授業や大行事のために大学へ通おうとすると県をまたぐことになる。安全性を保つという趣旨は理解できないわけではないが、大学での活動が制約されることにつながるため、必要な措置かどうかをしっかりと判断する必要があるのではないかと。
- ・薬局・病院との連絡は取れていた。評価に関する問題はなかった。
- ・実務実習管理システムで、レポートの確認、評価、実習終了時の評価など、依頼しても入力してもら

えないことが多い。特に病院では、多忙な中、対応が困難な場合も見受けられる。

- ・実務実習管理システム以外の方法での連絡を指定されることがあり、携帯電話、携帯メール、個人メールでの連絡は緊急時に限っていただきたい。特に個人の「〇〇（SNS）」アカウントでの連絡は、学生のプライバシーにかかわるため、避けて欲しい。

5. 学生からの意見

- ・ベルクリーやロナプリーブの調剤に関わることができました。
- ・チーム医療参加で他職種との意見交換ができて有意義でした。
- ・少子高齢化に伴い、将来的な薬局薬剤師の業務として在宅医療が必須になってくること、在宅を円滑に進めるためにはマナーやコミュニケーション能力、薬学的知識が必要になってくるという話が印象に残り、将来自身が何を進んで学んでいくのかの指標となった。
また近年ではオンライン服薬指導が進出してきているなど、従来の外来患者のみ対応する薬局ではなく、様々な新しいことを取り入れていくことが重要であることを学んだ。
- ・「実習生の中から感染者が出たら実習は中止で、単位は出ない」というようなハラスメントに近いことを言われた。コロナ禍での実習であり、実習中の行動を律するためではあると思われるが、対策をしても感染する可能性もあり、別の表現などをしてもらいたい。

【良い意見】

<薬局>

- ・服薬指導を実際の患者さんにはあまり行えなかったが、ロールプレイをたくさんやってもらい、振り返りもしっかりとやってもらえたから。（実習実施時のトラブル記載とは別施設）
- ・指導薬剤師さんの説明が具体例をあげてイメージしやすかった、処方箋も色々な疾患がくるので勉強になった。
- ・薬局全体の雰囲気は暖かく、一つ一つ丁寧に教えて下さり、さらに分からないことは自分で調べさせるなど、知識が定着しやすい指導方法で指導して下さった。
- ・ただポイントや手技を教えるだけでなく、作業後に反省点を一緒に考えてくれた。
- ・積極的にやりたいことを伝えると実際にやらせてもらえることが多かった。
- ・新薬や適応追加などの臨床の最前線についても教えていただいた。
- ・投薬をたくさん経験させてもらえたり、国家試験問題と臨床現場で起きることとの紐付けなどをしてくれたりなど、サポートが手厚かったため。
- ・物腰柔らかそうな患者を選んで投薬させてもらえた。
- ・薬局内の実習だけでなく、外部での実習も多かったので、楽しかったし学びも多かった。
- ・服薬指導において患者に合わせた服薬指導やそこでの言葉遣い、不安などの患者の気持ちを汲み取った服薬指導を見て自分もあのようにになりたいなと実感した。

<病院>

- ・1人の患者に長くかかわることができる環境が整っている。多くの疾患に関わることができる。
- ・ICU・救命救急や手術室、製剤室、AST、治験、化学療法室など、病院ならではの部署を見学できたほか、新生児救急や透析室関連業務見学など、その病院の特色ある実習ができた。
- ・先生方がとてもやさしく、またほとんどすべての先生とお話する機会があったので、それぞれの病棟で専門としている疾患を教えていただけて、とても勉強になった。

- ・病棟業務や複数回にわたる患者への介入、処方提案など、実践的な内容が体験できた。
- ・抗がん剤調剤や電子カルテの活用などの病院ならではの業務を体験できたことや、複数回の症例報告によって疾患や薬剤に関する理解が深まった。
- ・一定期間同じ薬剤師のもとで実習するため、実際の薬剤師の業務や患者さんの経過についてわかりやすかった。
- ・毎日欠かさず日誌にコメントをもらえたことや実習先へ課題を提出しそれに対するコメントをもらえたことがモチベーションの向上に繋がった。
- ・指導薬剤師だけでなく全員の薬剤師さんが教えてくれる。
- ・ほぼ毎週 NST に参加させていただき、薬剤師が NST でどのような役割を持つか学ぶことができたため。
- ・入院患者さんと関わる機会を多くいただき、病院薬剤師にしかないやりがいを感じる事ができた。
- ・教育がしっかりしていることや、今までの実習生の意見を反映されていた。
- ・薬剤師の業務だけでなく他の職種ともかかわらせてもらえた。現場に出ないとわからないことがたくさんあることを実感した。知識面、技術面はもちろんだが、医療人になる意識面でも実習に参加する意義は大きいと感じた。
- ・指導だけでなく、医薬品情報に関しての時間がたくさん準備されていたこと、臨床研究をしたことがとても印象に残っている。

【悪い意見】

<薬局>

- ・適切でないことを目にした。
- ・薬の種類が少なかった。
- ・アルバイト感覚になっていた。休みが無かった。
- ・計数・計量調剤などといった、ある特定の实習に偏っていた;一店舗のみの学びでは不十分であった。
- ・在宅を経験したかったが、コロナ禍で出来なかった。
- ・OTC 実習で実際の顧客と関わる機会がなかった。

<病院>

- ・病院内での様々な薬剤師業務を詳しく知ることができたため充実感が高いが、コロナウイルスの影響で病棟に行く機会が1度しかなく、病棟での実習をもう少し行いたかったと感じた。
- ・模擬患者ばかりで、これは病院実習で行う必要がないと感じた。
- ・もっと患者さんを受け持ちたかった気もする。

【近畿地区】

1. 実習実施時のトラブル

- ・薬剤師が適切に指導しないことに加えて、医療事務員も一緒になって学生の実習を阻害するような行動を取り、学生はまともに実習できないどころか大きな精神的苦痛を受けたケースがあった。
- ・第3期の病院実務実習時に、ある大学の実習生が院内のPCを用いて就職活動等の情報収集および連絡など、私用で使っていた事例が発覚した。また、その際に、同時期に実習中の他大学の実習生が、指

導薬剤師に「直接の関与の有無に関係なく、連帯責任であるので実習成績に影響する。」などと言われ、混乱する事態が生じた。

- ・薬局実習において体調不良により実習の最終段階で欠席することとなった。
- ・在籍の薬剤師・スタッフからの指導・指示が異なり、学生が指示通り行ったつもりのことでも激しく叱責を受けることがあった。また、一部の薬剤師がマスクを外して会話するなど疑問があった。担当教員が学生と連絡を取り合いながら、見守りつつ、何とか実習を終えることができた。
- ・指導薬剤師から具体的な説明・指導がなく、事務の方からの説明で実習を行っていた。学生がタイミングを見計らい指導薬剤師に相談しようとしても話が出来ず不安を感じるようになった。当該施設の所属薬剤師会にも相談・了解を得て、グループ薬局の他店舗で実習の指導を受けることにした。
- ・実習生より担当教員に「実習初日から、指導薬剤師の先生からきつい言葉があった。自分自身はきつい言葉を言われたことがなく、精神的にきつい。特に忙しい時はどんな行動をとっていいのかわからず、みんなの足を引っ張っていると思うとつらい」との相談が寄せられた。担当教員が学生から聞き取りを行い、指導薬剤師とも協議を繰り返しながら、何とか実習を終えることができた。
- ・実習中、指導者がイライラすることが多くパワハラと思われる言動が学生に対してしばしばあった。当該学生からの報告を受け、担当教員が施設を訪問し協議した結果、指導者を変更していただくに至った。
- ・緊急事態宣言下の病院実習中に、指導された薬剤師に繰り返し夕食に誘われて止む無く同席したことについて学生が後日大学に報告をした。
- ・病院実習中、昼休みや実習終了後の時間に実習生が就職活動をしていた（病院のパソコンにホルダーを作成し残していたことから判明）ことについて施設から抗議を受けた。（複数大学の実習生ほぼ全員が該当していたとのこと。）
- ・3期病院実習において、2期病院実習で非常事態宣言下の実習生と平等性を期すために病棟にはいかないとの施設側の方針が示され、病棟に全くいけなかったと3期実習生から実習終了後に報告があった。

2. 薬局側の意見（学生のこと、大学・病院との連携、評価など）

- ・薬学の基礎的知識が低いために深く掘り下げて実習できない時があった。実習開始前にもしっかりと学習して欲しい。
- ・実習内容については一定程度進捗があったので、その部分を用いて評価を行う。

3. 病院側の意見（学生のこと、大学・薬局との連携、評価など）

- ・緊急事態宣言期間が終了しても、病院の感染症対策の状況に変化はないため、引き続きこれまで通りの感染症対策を継続して実習に取り組んで欲しい。
- ・調剤業務などのセントラル業務に前向きに取り組まない学生が散見された。提示された実習内容については、最低限の取り組む姿勢は示しているのに、不真面目という訳ではないが、病棟での患者や医療スタッフとの関わりが花形で、調剤室等での業務を軽んじているようである。セントラルの業務を土台として、病棟等での薬剤師業務が成立することを理解してほしい。
- ・コロナワクチン接種の有無について、事前に知らせてほしい。

4. 大学側の意見（連携、評価など）

- ・（薬局C）指導薬剤師がほとんど店舗におらず、他の薬剤師からの指導もなく放置されていると学

生が苦痛を訴えたため、指導薬剤師に状況を確認したところ、実際に指導薬剤師が多忙で店舗に居ないことが多いとのことであった。また、他の指導薬剤師を養成したくてもなかなかワークショップの順番が回ってこないとのことであった。ガイドラインでは、「薬局の教育・指導體制の整備」として、「責任薬剤師の管理の下、実習施設に常勤の認定指導薬剤師が責任をもって実習生の指導にあたる体制を整備する。施設内のすべての薬剤師が実習生に関わる教育・指導體制を整備し、薬局全体で参加・体験型を基本とした実習」ができる体制を整備するとあり、このような教育・指導體制が整っているか、グループ協議会や訪問時等に大学が十分に確認する必要があった。

- ・(薬局D) 指導薬剤師の実習終了時の評価において、日誌の記載が不十分で、基礎学力が不足しているとの理由で評価が非常に低かった。教員が当該学生の日誌の記載状況やその内容から受ける印象とは乖離した評価であり、実習期間中の担当教員の訪問時(2回)及び日誌のコメントでも指導薬剤師からは特に相談、伝達がなかったため、状況を確認したところ、「学生本人の問題であり教員に伝えても仕方ないと思い実習期間中には特に何も言わなかった。」とのことだった。実習期間中の適切な時期に問題点を教員にも共有していただくことで、教員からも学生へのフィードバックが可能となり学生の成長を促せるため、実習期間中の形成的評価を適宜共有していただくよう指導薬剤師との連携をしっかりとる必要があった。
- ・(病院A) 最終の成果発表を実施する病院が増えているが、11週目の実習時間をパワーポイントの作成に殆どの時間を充てていた。カルテ閲覧なども行い仕方ない部分はあるが、もう少し体験型実習を中心をお願いしたい旨を伝えた。
- ・「報告会」「グループ協議会」「引継会」と色々な会が存在する。それぞれの位置づけについて、十分に理解されていない施設も多く、混乱されているところがある。
- ・学生の様子などを随時十分確認し、早期の対応を行うようにする。

5. 学生からの意見

- ・実習でペアだった他大学の実習生の距離が近くて怖かった。実習内容以外で疲れなければならないことが大変腹立たしく感じた。
- ・(薬局実習) 指導薬剤師がほとんど店舗におらず、指導らしい指導を受けられなかった。実習初日に放置であったため、初日から心が折れてしまった。
- ・(薬局実習) ピッキング作業がほとんどで、学生はアルバイトのような扱いだと感じた。
- ・(薬局実習) 日誌の日々の記録に対する指導薬剤師コメントは殆ど記載がなく、指導に当たっていない他の薬剤師がまとめて入力していることを知り、残念に思った。
- ・(薬局実習) 過去に受け入れた実習生のことを学生の前で批判しているのを聞いて、指導薬剤師に気に入られるよう行動しなくてはいけないととても不安になった。
- ・薬局が忙しく、服薬指導の実践が他の薬局で実習の学生と比べて極端に少なかった。
- ・分包、予製のピッキングなどの作業をする時間が多く、薬局実務実習として学べるはずの処方解析などについては教授・指導がほとんどなかった。
- ・指導薬剤師が、「人の悪口は言わないようにしている」とおっしゃっていたが、一方で、悪口を言っていたことについて、非常に悲しい気持ちになった。
- ・帰宅後、家で勉強するための資料(「この」薬局でよく扱う薬のリスト、配置場所の図など)があると嬉しかった。
- ・全自動錠剤・散剤分包機などの操作方法について、業務が忙しいときちゃんと説明を受けられないまま操作せざるを得なかったのが不安が大きかった。忙しくても、実習生は初めて扱うものなので、

1つ1つ丁寧に説明して欲しい。

- ・自分で行う調べ物の時間が非常に長かった。
- ・発表会の準備の期間は、ずっとパソコンに向かっているだけだった。
- ・午前の忙しさに比べると午後は時間に余裕があった。その時間に調べものをするための実習生用のパソコン（院外のインターネットにつながるもの）を用意していただくとより良いなと感じた。
- ・家族や学校にもなかなか話を切り出すことができなかった。

【中国・四国地区】

1. 実習実施時のトラブル

- ・新型コロナウイルス感染症罹患について、実習生自身の感染または同居家族の感染から濃厚接触者による実習中断が報告された。
- ・精神的な疾患に起因して実習が中断した事例があった。
- ・実習施設内で実習生がセクシャルハラスメントを受けた事例があった。
- ・特定の会への参加を求められた。
- ・病院実習に際し、ワクチン未接種の実習生に対して4日毎に頻回の検査を要求された。

2. 薬局側の意見（学生のこと、大学・病院との連携、評価など）

- ・感染対策も進み、実習での指導内容も少しは改善されたが、例年に比べると様々な制約があり十分な指導ができたとは言えない。
- ・新型コロナウイルス感染症の市中感染が落ち着いてきており、感染症の状況により薬剤師会等で実施してきたWEB研修を対面方式に切り替えていく予定である。

3. 病院側の意見（学生のこと、大学・薬局との連携、評価など）

- ・新型コロナウイルス感染症の市中感染が落ち着いてきており、中止していた病棟実習を徐々に再開していく予定である。
- ・ハラスメント事例が発生した際に、実習生/実習施設/大学の支援体制が不十分であったため、ハラスメント事例を訴えやすい環境整備及び3者の連携強化が求められた。

4. 大学側の意見（連携、評価など）

- ・コロナ禍の中、様々な制約があるなかでも、各受け入れ施設では工夫を凝らしてできうる限りのご指導をいただいたと感謝している。

5. 学生からの意見

- ・病院実習において、院内での活動範囲が制限されていたため閉塞感を感じ、達成感を得られなかった。

【九州・山口地区】

1. 実習実施時のトラブル

- ・実習終了後に学生から病院実習中に薬局内の補助員の体が学生の上腕にぶつかり、あざが出来たとの訴えがあった。薬局長に連絡し事実確認を行った結果、体がぶつかった事実はあったが、意図的なもの

のではないということであった。なお、ぶつかった場所は非常に狭い空間であり、調剤中においてはそのようなことがあることは承知しているということであった。今後は気を付けたいという申し出があった。また、学生にもそのようなことは実習終了後ではなく、その時点で相談するように指導した。学生としては、無事に実習を終了したいとの想いで実習中には相談できなかったとのことであった。

- ・昨年度に引き続いてコロナ禍の薬局実習と病院実習になった。第Ⅲ期の薬局実習では実習施設が変更になるケースも無く、当初予定していた実習施設で 11 週間の実習を全て臨地実習で行うことができた。一方、第Ⅲ期の病院実習の中で病院では、昨年度と同様に遠隔実習を基本とし、適宜臨地実習も行うという内容で、臨地実習もセントラル部門に限定されたため、病棟実習は 1 日の見学のみであった。そのため、薬剤管理指導の実習は、模擬症例を使い薬学部の担当教員も参加する形のシミュレーション実習を行うなど学生の学修効果を高める工夫を行った。また他の病院では、実習施設側の工夫により、病棟での服薬指導実習を含めた全ての実習項目を臨地実習で実施して頂けた施設もあった。この病院の実習生は令和元年度までの病院実習と同じような学修環境で充実した実習を行うことができた。
- ・Ⅲ期実習開始前に 3 施設から新型コロナウイルス感染拡大の影響により受け入れ停止との連絡があり再調整を行い、当該実習生は無事に 3 期実習として開始できた。複数の病院実務実習において新型コロナウイルス感染拡大の影響により臨地実習開始遅延となったが、終了時期の延長や遠隔実習等の対応により実習は無事終了または終了予定見込みである。その他、学生の実習態度や指導薬剤師の指導について指摘や相談された事例はあったが、実習中止に発展することなく、実習は無事に終了した。
- ・問題を抱えた学生について事前に施設側に情報提供を行い、学生とも実習前に指導していたが、遅刻を繰り返すなどした。実習中に指導薬剤師から態度不良について指摘をうけ、大学にて学生と 2 度面談を行った。学生は態度が悪いと認識しておらず、面談によって理解した様子であった。その後、学生と担当教員と一緒に指導薬剤師を訪問し、本人が継続を強く希望したため実習を継続し、終了することができた。

(薬局)

【〇〇県】

- ・残り 7 日間で学生が体調不良となり、オンライン実習へ切り替え実習終了した。

【〇〇県】

- ・合計 3 名（そのうち 1 名は、2 期途中で体調不良で 1 1 週間の実習が完了しなかったもの）の受け入れを行いました。何のトラブルもなく終了しました。集合研修についてはコロナ禍でないときは、〇〇薬剤師会の研修室で行っていましたが、完全〇〇（Webシステム）開催を行いました。学生側も〇〇に慣れてきたせいか、質問も飛び交いスムーズな研修会となりました。また、〇〇薬剤師会の研修室に集まって例年行っている薬局製剤研修会も、3 名だけでしたので、各支部で薬局製剤をしている協力薬局等をお願いして無事に終えました。

(病院)

【〇〇県】

- ・実習生から、病棟薬剤師の態度が威圧的であると感じたという理由のため、配属病棟の変更の要望があった。そのため、配属病棟の変更の対応を行った。その後は特に問題はなかった。
- ・持病のため仕方がないが、欠席が多く評価し難かった。
- ・学生の体調不良時の出欠の判断は、単位も関係するので、学生が学校側に連絡し学校側が判断した。
- ・大きなトラブルなし。
- ・対面実習での問題は特にありませんでした。

- ・学生も体調管理を行い、感染予防対策を行っていたため問題なく終えることが出来ました。また、1名ということもあり、ソーシャルディスタンスも保つことが出来ました。

【〇〇県】

- ・対人関係にやや問題がある学生がいたため、グループを組む際のメンバーや自習場所について配慮した。
- ・今回、当院は実習生用の自転車置き場の余裕がなく、徒歩（20分程度）で来るように事前に伝えていたが、最後まで守れず、近隣の自転車置き場にとめていた。
- ・昼食時は、職員食堂を使用していたが、他の医療スタッフより、態度に問題があると指摘され、注意した。

【〇〇県】

- ・接遇面で実習が進むにつれて難がある学生が今期は多かったように感じる。トラブルにまで発展はしていないが、懸念するところではあった。
- ・トラブルではないが、持病があったために体調を確認しながら実習を行った。

【〇〇県】

- ・遠隔実習では、通信環境が悪いとタイムラグが大きく、対話する場面で度々苦勞しました。
- ・居住地から病院までの交通アクセスが悪い場合、出席・帰宅時にバタバタしていたため、可能であれば居住地に近い病院、あるいは交通アクセスに支障が無い病院での実習をご配慮頂きたい。

2. 薬局側の意見（学生のこと、大学・病院との連携、評価など）

【〇〇県】

学生のこと

- ・ある程度は事前に勉強してきて欲しい。あまりにも知識がない場合は服薬指導をさせたくてもさせられない。責任がある仕事であることを自覚してもらいたい。
- ・実習前に必要最低限のマナーと知識は備えてきてもらいたい。

大学との連携

- ・到達度評価については、事前に大学で説明しておいてほしい。
- ・実習に支障が出る可能性があることが把握できている場合は、事前に情報提供していただきたい。
- ・薬局実習期間中に健康診断や予防接種（インフルエンザ）を受けるよう学生に指示をしていた。本来、実習前に実施しておいていただきたい。
- ・現場での実習ですので、ワクチン接種は行ってもらいたい。

【〇〇県】

- ・実習8週目に、〇〇大学薬学部1年次生の早期体験学習（薬局見学）がありました。実習生にこれまでの実習を振り返ってもらい、これまでに学んだことなど伝えてもらいました。

実習生が早期体験実習の1年生に対して、実習で学んだ薬局薬剤師の業務についての説明を行いました。一包化やキレート生成の実験など実際に体験できることをいくつか用意しておき、1年生にも実際に薬を手にとってもらいながら説明を行ってもらいました。どうすれば薬局薬剤師の仕事内容を伝えられるかを考えながら準備し、体験学習の当日はスライドに沿って説明を行い、実際に一包化や実験もしてもらいました。改めて今までの薬局実習のことを振り返ったり、知識のアウトプットを行ったりするいい機会になったと思います。

実習生と1年生の双方にプラスの効果を得られたと思います。

- ・しっかり実習に取り組んでくれました。

- ・真面目な学生で熱心に取り組んでくれた。

【〇〇県】

- ・大学の先生とは密に連絡がとれ良かったと思います。学生については学力不足ではありましたが、自学し、学ぶ姿勢はありました。あいさつなど人とのコミュニケーションがあまり得意でない学生さんでした。

【〇〇県】

- ・薬理をしっかり理解していました。
- ・今季は非常に連携が上手く取れました。
- ・大学によって本当に要求されることも全く違いますね。学生も色々なレベルなのでその子に合わせたスピードですということに自分が勉強させられました。学校の先生はすごいなと思いました。正直、どんどん学生のレベルも下がってきているようには感じますが、自主性があれば教える側も頑張れました。
- ・毎年受け入れの実習生が薬局→病院の流れなので、病院での実習内容が分からない・知りたい。
- ・県外への往来が生じる可能性がある場合の連絡手段が整っていない。実習が始まるにあたり、面識の無い〇〇県外の大学生の場合地域毎に認識が異なっていたりした為、実習前の時点での情報共有を早めに図る必要が生じる場合もあるだろうと気づいた。
- ・病院実習が先だったので、学生さんが現場に慣れていることもあり、次である薬局実習の対応は楽でした。大学との連携は問題ありませんでした。評価に関しても特に問題はありませんでした。
- ・実習終了時に、実習終了時の評価、実習全体の振り返り、実務実習評点表と全体を通してのコメント3部記載する必要があるが可能であれば少なくしてほしい。3部とも記載をする内容はほぼ同じであり分ける必要性を感じ辛い。
- ・実習態度、意欲、習熟度いずれをとっても申し分なかった。

【〇〇県】

- ・服薬指導体験の頻度と内容が十分とは言えなかった。
- ・予定していた内容が全部できた。

【〇〇県】

- ・実習終了後の評価方法が、地区が違くと統一が難しいのか？ ⇒ 〇〇大学は、紙ベースで評価し、郵送（終了後の評価はシステム入力をしなくてOK）、〇〇大学は、システム入力のみ。（紙ベースの提出はなし）
- ・実習前に新型コロナワクチン接種を済ませていただきたかった。実習中にワクチン接種を行い、副反応で3日間欠席した。

【〇〇県】

- ・医薬品の知識量を増やして実習に来てほしい。
- ・無欠席で積極的に実習に取り組んでいました。
- ・コロナ禍の為、大学の先生とは電話での近況報告となりました。
- ・〇〇県外の病院での実習の為、連携は行っていません。
- ・学生は真面目で意欲的に実習に取り組んでくれました。ただ、日誌やレポートに関して大学特有の決まりがあり、それについてプリントが配布されていましたが、学生は具体的には理解できておらず、記入に時間を取られました。先述したように真面目な学生だったので、事前の説明が足りないのかなと思いました。

3. 病院側の意見（学生のこと、大学・薬局との連携、評価など）

- ・今期3つの大学の学生の実務実習を引き受けたが、日誌・週報は同じ〇〇のシステムを利用しているのに、評価方法は大学独自のシステムを導入しているところもあるので大学側で統一にできるようにしてもらいたい。
- ・態度についてのみ、改善を希望します。今回、患者に対して、これまであいさつするように指導されなかったのではないとの反応がありました（他大学実習生も同様でした）。大学で指導すべきことは思えませんし、コアカリキュラム以前の問題ではありますが、このような基本的な礼節、接遇についても指導いただければ助かります。

（病院）

【〇〇県】

- ・薬局実習の実習書は閲覧できないのか。薬局実習での実習内容がわかると、どの程度理解できているかを踏まえた指導ができる。
- ・持病のある学生への対応は、病院実習開始前に、保険薬局実習での出席率や態度など、および大学の出席率や態度など確認し、担当教員の方と事前に打ち合わせをしないと難しい。スタッフの理解を得る必要がある。
- ・とても積極的で質問も多く、指導しやすい学生達だった。
- ・オンラインを通しての実習だと、自宅での学生の様子がわからない。また、学生からの反応が乏しい。
- ・保険薬局での実習内容について把握できれば、重複のない実習ができる。
- ・中四国調整機構の件（3期：〇〇大学から1名）になるが、大学から事前に評価方法などの連絡がなかった。紙媒体での評価等、他大学とは異なる点が多く、実習開始後にこちらから問い合わせをして理解できたが、事前に連絡して欲しかった（事前会議が開催されず、本来なら実習開始前に担当教官と実習生がともに訪問し説明しているようだが、コロナ禍でできなかったとのこと）。
- ・今季はCOVID-19との兼ね合いもあり、1名のみ受け入れた。真面目な学生で、感染対策への理解・協力もあり、円滑に実習を進めることができた。
- ・学生のキャラクターもあるのだろうが、学生のレスポンスがなくて理解度が読み取れなかった。
- ・〇〇大学について、実習生の自己紹介カードの事前提出をお願いしたい。当院で実習受け入れを行っている他の大学では、事前に自己紹介カードを提出いただき、実習の円滑な導入に活用している
- ・〇〇のシステムにおいて薬局でどのようなことが行われたのか見られない点が問題である。権限がないと表示がされるが、今回はコロナにてどの程度まで調剤薬局で実習が行われたかなどが分かりづらかった。
- ・緊急事態宣言の解除までの約1か月半、大学側からの連絡が無いため、どのように自宅での実習を進めればよいか分らなかったです。他病院ではどのような事が行われているか情報共有できれば良いと思いました。
- ・コロナ禍において大学教員との面談ができなくなっている。進捗確認や問題点の把握など学生のケアには十分配慮してほしい
- ・非常事態宣言中はWEBの講義となった。時期により病棟での薬剤管理指導や病棟薬剤業務の時間に影響があった。
- ・大人しい傾向はあるが、学生に大きな問題はなかった。
- ・緊急事態宣言・蔓延防止重点措置下の実習ということで、各大学と連絡をいつもよりとった。宣言・措置解除後は通常通り実地で実習を行った。

【〇〇県】

- ・大学との連携については、担当者を通じて行うことができた。
- ・前の期に実習した薬局との連携が十分行えなかったことは反省点（学生の薬局での状況についての情報交換ぐらいしかできていない）
- ・第Ⅲ期は1名のみでしたが熱心な学生さんでした。大学からも数回確認の連絡があり情報を共有できました。

【〇〇県】

- ・前年度に比べてコロナの流行が落ち着いていたこともあり、大学の先生方が病院へ数回来院され、病院スタッフと実習状況や問題を共有できた。学生にとって、より安心して実習をすすめられる環境となったと思う。
- ・通常、実習開始時に担当教員からの訪問がありますが、現在はコロナ禍のため電話連絡のみでした。第2期実習に問題がなかったから、第3期の初回はないのだろうと想定していたら、実習終了後まで連絡がありませんでした。学生のことが心配ではないのでしょうか。
- ・体調不良で病欠が多くなることは病院側へ事前に連絡はありましたが、欠席が多くなった場合の対応（補講等）について、大学から学生本人に事前に説明がなされていなかったため、学生から質問をされて困りました。実際に早退、遅刻、欠席が多く、一緒に実習する学生にも影響が生じたと思います。
- ・アトピー性皮膚炎、ラテックスアレルギーの学生を引き受けることになったが、事前に情報を得られず、対応に苦慮した。
- ・一部の学生の服装・髪型（長髪）や態度（座学中寝ている、昼休み白衣を着て患者・市民が利用する院内の食堂でだらしない態度で休憩するなど）が気になった。指導したが、改善は見られなかった。
- ・元々調剤薬局志望のためか、病院薬剤師業務に対し質問等が少なくあまり意欲が見られなかった。
- ・第3期の学生は、今までの学生に比べて、実習中の私語が多かった。
- ・今回、当施設は、初めての实習受け入れでした。指導すべき事は一応全て教えたつもりですが、どうしても、業務をしながらの指導となるため、客観的に自分達の指導内容が学生にとって正しかったのかが、判断がつかないことも多かったです。リアルタイムで自分たちの行った指導内容に問題がないかが分かるような何かがあれば助かります。

【〇〇県】

- ・学生に代表的疾患に該当していることを伝えていたが、その疾患を学んだことの数カウント記載をされないことが多かった。
- ・昨年度もコロナ禍でしたが、工夫しながら行っています。治験や、抗癌剤の混注ができない状況でしたが、学生側だけでなく、病院側もいろいろな状況を考えながら行うので、とても貴重な経験ができていると思います。時間が経過すると忘れがちですが、またいつ災害などがおきるかわからないので、学生も受け入れる側も忘れないことが大事だと、昨年は余裕がなかったですが2年目で思いました。
- ・大学との連携も問題なく、対応を行えました。
- ・やはり、薬局との連携という面で、どの様なことを行ったのかなどの報告書がないので、あるとより良いのかとも思います。Webの評価システムで、薬局の記録が一部閲覧できない点も改善していただければと思います。
- ・事前学習をしていることで医療に関する知識不足は感じなかった。実地でしかできないこと（調剤、服薬指導、チーム医療、薬剤部から院内への情報提供）を十分に行うにはより長期の実習が必要と感じた。臨床（対面実習）と遠隔実習を組み合わせることにより、学生にとってより理解が深まりやすいと感じた。遠隔実習においても、薬剤師が学生に出した問題に対してしっかり調べて回答していた。また、学生が疑問に思っていることを薬剤師に積極的に聞いている印象があった。学生は、非常に真

面目で、好感がもてた。

- ・今回初めてオンラインでの実習を併用しましたが、実習日報・レポート提出に関して特に問題は生じず、提出も予定日時までに提出されていました。課題レポートに関して気になった点としては、PC上で作成できるからかDI関連のレポート等で添付文書やネット情報のコピーペースト（原文そのままの内容）が目立ちました。自習課題は問いに対する解答だけでなく、得られた情報を第三者と共有しやすい内容に加工するねらいがあります。このため、自分自身の言葉で簡潔にまとめることの重要性も伝えていきます（添付文書の丸写しではなく引用した内容を簡潔にまとめ相手に分かりやすいように加工することなど）。オンライン実習での時間管理は実習生の自主性に委ねられますが、遅刻や寝坊、課題提出遅れなど皆無で、自己管理がしっかりできていました。当院では今回心配無用でしたが、今後昼夜逆転傾向のある実習生が現れた場合は、色々と課題が生じる可能性があると思われれます。
- ・学生さんにとっては普段の行動であったり、受け答えかたなのでしょうが、社会人として見た時、患者さんの前で待っている時の立ち方であったり、受け答えでの返答の仕方や仕草等で少し気になるところがあり、注意を行いました。
- ・薬局での8疾患に対する実習が少ないように思う。
- ・添付文書の見方やカルテからの情報収集の方法等について大学の授業での介入を行って欲しい。
- ・特にありませんが、やや大学の先生とのやり取りが希薄であったように思います。週報のコメントには何か記載してほしいです。
- ・実習に関しては特に問題ないと思われる。大学側の連携については電話だけのやり取りしかなく、勉強会開催様式にならって〇〇（Webシステム）などのオンライン形式でも開催していただくと連携がしやすいと思う。そのあたりは今後の課題かと思われる。

【〇〇県】

- ・精神面のケアが必要な実習生がおり、事前に情報提供があるべき事案であったと考えられた。
- ・当院では実習到達度確認のため課題報告会を実施しているが、発表資料（スライド）を作成する際に、パワーポイントの使い方を知っている学生と知らない学生の差が大きいと感じる。使い方を知らない学生はパワーポイントに慣れるまでに時間を取られ、発表内容そのものを吟味できていないことや質問対策が不十分となると考えられる。その辺りは大学でもう少し学習の場を設けていただければよいと思われる。
- ・抗がん剤調製時の陰圧操作など、基本的な手技を習得できていない学生がいた。
- ・大学との連絡が上手く取れていないケースがあった。おそらく国立病院機構の特有の問題だが、実習担当者が転勤などで入れ替わるため大学側としてはこれまで通りという認識でも、場合によっては初めて受け入れるのと変わらない状況になっていることもあるので考慮していただければと思います。
- ・最終評価窓口の名称変更は、戸惑った。
- ・今回は、同一大学の学生が2名で、地元も一緒であり、昔からの知り合いという事もあってか、当初、実務実習というものとはかけ離れた状態であった。レポート内容の薄さ、甘え、実習内容や当院への不満を口にするなど、学生気分の抜けない状態だったため、当科の職員も見放すレベルであった。厳しく指導を行い、多少は改善されたが同一大学からの複数名の受け入れに関しては、検討頂きたい。

【〇〇県】

- ・学生の遅刻（4回）、欠席（5回）が多かった。
- ・今回、2名の学生を受け入れた。学生同士の知識の共有などもあり、1人より複数名の実習の方が良い面があると感じた。
- ・大学からの実施へのコメントが少ないように思う。何もコメントがないと、見ているのかわからない。

- ・学生が記録する日報において、指導薬剤師のコメントのシステム入力少し遅れた際に、記入を促すメールを複数回送信する大学教員がいるが、臨床現場は時間的余裕がない時があり、定時期に入力できるとは限らないことを理解してもらいたい。学生の記録を見れば、時間のない中、指導薬剤師が丁寧に指導していることは伝わるはずであるのに、大学教員が臨床を理解していないことを強く感じ、残念である。

【〇〇県】

- ・学生もちょうど2名でお互い話すことができ、色々と制限されていましたが何も問題なく終了しました。学生も大学側とレポートやメールでやり取りをしており、問題がなければ大学からの先生の病院訪問は、コロナが終息後でなくても良いと感じました。
- ・ふるさと実習の場合、評価方法が異なりシステムの評価は未入力でのよいのか、わかりづらいです。紙ベースでのラダー評価は学生で記入することが可能であるため、改善が必要だと思いました。
- ・薬学的知識・医学的な知識をしっかりつけてきてもらいたいです。Ⅱ期に来られた学生3名は、しっかりと勉強して知識があったのですが、Ⅲ期に来られた学生さんは、薬学的基本知識が乏しかったため、実習も最低限のことしかできませんでした。
- ・不明な点を放置せずきちんと学んで質問する姿勢や、自分で手持ち無沙汰にならないよう薬剤師に声掛けして実習内容を見つけるなど意欲的だった。国家試験問題や症例発表など大変な部分もあったとは思いますが、学生からこの病院で実習ができてよかったとの発言が出たため、今後も指導方法は変えずに学生のためになる指導を行っていきたい。
- ・意見交換会や医学部生等との症例検討会のような外部実習が、学生にとって良い刺激になったようで、お手数ですが今後も是非お願いしたいと思います。病院と薬局の1か所ずつの限られた環境のみでの実習だと、学生にとって印象がそれだけになってしまうので、とても効果的だと思いました。
- ・病院実務実習評点表のⅠ概略評価の項目で、調剤技術や無菌製剤調製など分けなくてよいのか気になった。
- ・経験した疾患に関して、実習生は1患者1疾患で入力していた。複合疾患であることが多く、1患者であっても複数の疾患に関して関わっていた。入力に際して、複数疾患を入力するように指導したが、いずれの学生も行わなかった。事前実習でしっかり指導してほしい。
- ・最終評価の様式が大学により若干異なるため、せめて九州内では統一してほしい。
- ・実習を休む理由や早退する理由として、「飼い犬が死去したため」「インフルエンザの予防接種を打つため」といったことを挙げていた。休みや早退を認めはしたが、常識的に考えて評価を下げざるを得なかった。

【〇〇県】

- ・評価が4段階になっているが、4まで到達する学生さんがほぼなく、1-3の3段階評価みたいになっているのが少し気になる・・・。他の施設で学生さんに「4」をつけている施設あるのか気になります。
- ・学生の日報や週報を全く確認して頂けない大学がありましたので、大学の実習担当者に日報と週報の確認とコメントの記載を強く依頼しました。
- ・今期3つの大学の学生を受け入れたが、実習の日報は同じ〇〇システムであったが、評価システムは、皆異なり統一していなかった。これまでも要望しているが、統一した指導・評価システムにしてほしい。
- ・大学よりコロナ禍での対応で期間中に3回電話があったが、短い現状確認のみに終始した。具体的な確認事項があっても良いと思う。

【〇〇県】

- ・教授との面談はオンラインで問題なし
- ・実習に際しては、学生が B 型肝炎ワクチンの接種等を済ませていることが望ましいと考えます。是非検討してほしいです。
- ・大学からの連絡がほぼありませんでした。(実習終了 2 日前くらいに TEL で確認あり)
実習生とは連絡を取られていたようではありますが・・・
- ・緊急時など指導人員が確保できないときは、模擬症例などで SGD の時間を増やすなど工夫が必要になる。
- ・実習生の実習評価のタイミングを統一して欲しい。
- ・大学から委託され担当された先生が非常に熱心でよかったです。
 - ① 大学からの記録物が多く、Web システムと紙（チーム医療のレポート、疾患学修記録）が混在していたため、確認に時間を要しました。
 - ② 日々の記録のコピーアンドペーストが週の振り返りなら、記載する学生・確認する指導者双方の手間を省くために日々の記録のみで十分ではないかと考えます。
 - ③ 個人情報の関係上、指導記録は大学に持ち帰らせることができませんが、指導記録と Web システムの毎日の日誌で記録は十分と個人的には感じています。記録物は必要最低限に見直せないでしょうか。

上記①～③は、大学担当者にも実習期間中に報告し、来年度以降 Web システムに一本化する方向で検討中と伺っています。

4. 大学側の意見（連携、評価など）

- ・コロナ禍であることから、今年度も実習施設との連携については、訪問は行わずに電話での情報交換とした。
- ・病院施設によって遠隔実習を実施したが、遠隔実習の課題作成が困難な病院については大学から課題を提示したり、遠隔実習の進め方について提案を行ったりした。
- ・薬局実習では、当初の予定通り薬局の巡回指導を行うことができ、円滑な連携体制が維持できたと考えている。また全ての学生が、在宅医療や学校薬剤師、OTC などの地域における薬剤師の活動を学ぶ実習を体験することができた。一方、病院実習では、〇〇病院における実習では、大学病院に配置している薬学部の担当教員が中心となって円滑な連携体制の保持に努めた。また他の病院における実習では、薬局実習と同様に巡回指導を行い、円滑な連携体制の維持に努めた。
- ・例年と同様に実習生の担当教員が実習施設と連絡を取り合い実習状況の把握等を行うことにより連携をとった。新型コロナウイルス感染拡大の影響により実習施設への直接の訪問は難しくなったため実務実習システムやメール、遠隔会議ツール等を利用して個々の実習生の実習状況の把握に努めた。概略評価および実務実習終了時評価については、多くの実習施設から「分かりやすく評価しやすい」または「若干分かりにくい点があるが評価には支障なかった」との回答が得られており、特に大きな問題点はないと思われる。
- ・問題を抱えた学生についてはより詳細な事前打ち合わせが必要であり、実習中も継続した打ち合わせが必要である。
- ・代表的疾患の服薬指導については、薬局で体験できなかった疾患を病院で体験することでおおむね体験することができた。

5. 学生からの意見

- ・全体を通して薬局実習で多くのことを学び臨地実習が大変有意義であった旨の感想が多かったです。
- ・コロナ禍の実習にもかかわらず、チーム医療に積極的に参加させていただいたり、患者さんとの関わる機会を多く与えていただいた。
- ・カンファレンスに何度も参加し、質問もすることができた。また、リハビリの先生や地域連携室の先生に講義をして頂いたり、多職種の方とお話する機会がありよかった。抗がん剤の調製もしっかり行うことができた。毎日講義をして頂き、カリキュラムもしっかりと組まれていたため、充実した実習だった。
- ・1週間ごとに各病棟を見学することができ、様々な患者さんに関わることができたことが良かった。
- ・調剤業務、病棟業務、DI業務、製剤業務、化学療法業務など、毎週異なる業務を体験でき、とても充実した実習だったと感じた。
- ・コロナ禍で仕方がない部分があるが、あまり病棟に行けず、もっと病院薬剤師の仕事を見たかったという気持ちが残った。
- ・指導薬剤師は3名いたがその中の一人のアウトプットのうまさに感動した。話す言葉の一つ一つに無駄がなく、また過剰な熱も持たないため、受け手側のエネルギーも必要以上に消費させない。日ごろから、今までの経験から薬剤師はどちらかというところと研究者よりだと感じていたため、自身のアウトプットの下手さを実感し、見直すきっかけとなった。
- ・病態や医薬品について、治療法や略語、医療器具の説明までしてもらい、病院薬剤師としてどう患者さんと他の医療従事者と接すればいいのかを助言してくれた点が良かった。
- ・実習先によって学べるものが異なるため、大まかなことは統一して欲しい。
- ・色々なお話を聞いて、薬剤師になった後も勉強していかなければならないんだと言うことが身を染みてわかりました。
- ・コロナワクチン集団接種会場の見学、学校薬剤師、在宅訪問も実施ができたことが勉強になった。
- ・特にありませんが、もう少し業務を試してみたかったです。
- ・コロナの影響で夜間救急センターや在宅が制限されてしまったことが残念でした。
- ・薬局外の実習（卸見学）に行きたかった。
- ・処方設計まではできなかった。
- ・今後の薬局薬剤師は学校薬剤師や訪問薬剤師などの仕事を通して地域と関わっていき、薬や体調のことを気軽に相談できる存在となる必要があると感じた。
- ・投薬に関しては、指導薬剤師さんだけでなく、その他約20名の薬剤師さん、ほぼ全員に指導をいただき、様々な考え方や患者さんとの接し方を目の当たりにして、いい刺激を受けることができた。
- ・薬局実習で服薬指導を行っていたので、病院実習2週目からの病棟実習でもスムーズに初回面談や服薬指導を始めることができた。
- ・薬局ではSOAP形式で薬歴を記入するときは用意されている定型文を使っていたため、病棟実習で記録を書くときに苦労した。

コロナ禍において工夫したこと、コロナ禍で特に問題になったことなど
(令和 3 年度第 I 期実務実習)

【北海道地区】

【東北地区】

【〇〇県：薬局】

- ・在宅や災害時の活動や学校薬剤師など一部実施できないことがあった。

【〇〇県：薬局】

- ・カウンターにアクリル板設置することが出来たため、投薬出来た。
- ・卸と相談して個別に見学することができた。
- ・学校薬剤師として現場で実習できた事例と、出来なかった事例があり。現場で出来なかった施設は、薬局で検査キットを使用し測定を行った。
- ・患者さんと接するのに、予防接種出来ないのはかわいそうだと思う。

【〇〇県：薬局】

- ・学生がワクチンを接種していないので在宅などのリスクが高い事例に対しては対応を控えさせてもらった。
- ・コロナ禍ではありましたが無事に終了できて安心しました。
- ・コロナの影響で薬局外の業務を十分に見せられず申し訳なかったです。
- ・感染症の影響で座学が増えた。

【〇〇大学】

- ・実習直前のオリエンテーションにおいて、学生に対して感染拡大防止に十分に配慮して実習に参加することを伝えた。
- ・実習生は、対象管理を徹底し、少なくとも実習開始 2 週間前から毎日体温を測定し、体調を記録する。
- ・体調不良を感じる時は、実習参加前に指導薬剤師に連絡をとり、原則として施設での実習は休止する。特に発熱や風邪の症状が続く時は、必ず医療機関を受診する。
- ・新型コロナウイルス感染者と濃厚接触の疑い、あるいは風邪の症候で高熱が続く時あるいは強い倦怠感や息苦しさがある場合は、自治体の相談窓口連絡して、受診する医療機関の指示を受ける。
- ・判断に困った時は、指導薬剤師あるいは指導教員に相談する。
- ・施設を担当する教員に対して、施設訪問の代わりにオンラインツールも活用すること、従来からのメールや電話による施設との情報交換により行うことを推奨した。

【〇〇大学】

- ・新型コロナワクチン接種に関する問い合わせ（学生は大学で接種してくれるのかなど）が多く寄せられた。

【関東地区】

- ・薬局において、新型コロナワクチンを接種していないことを事由に受け入れを断れ、関東地区調整機構にキャンセルの申し込みを行った。また、病院の薬剤部長より、受入れ実習生の健康状態等の個人情報について契約締結前に知らせるべきだとの苦情や新型コロナワクチン接種に関して、病院においては対象に含まないが薬局や大学で何とかするよう求められ、ワクチン接種が出来ないのであれば受入れを断る可能性があるなど伝えられ、対応を苦慮する事例があった。ワクチン接種に関しては、本人の同意に基づいて行われるものであり、接種しないことによる受入れ拒否の事例が発生している。本人の健康上の問題により、ある業務を実習できないことがあることについては理解できるが、受入れ自体を拒否されることはあってはならないと考える。
- ・新型コロナワクチン接種についての大学方針、副反応により欠席した場合の取扱いについての問い合わせが 20 件ほどありました。
- ・薬局・病院実習施設より、新型コロナワクチンの接種が可能だが、実習生に意向確認をして欲しいとの連絡が 20 件ほどありました。

【北陸地区】

A 大学

薬局からの意見

- ・学校薬剤師の実施を通常他の薬局に依頼しているが、コロナ禍であり依頼を頼みづらい。
- ・コロナ禍で学校薬剤師の実施日程が変則的（急遽変更になる）であるため、実施が困難であった。
- ・コロナワクチン接種による発熱の場合、公休になるのか体調不良による欠席時と同じ対応になるのか気になった。
- ・実習生や薬局スタッフが新型コロナウイルスに感染した場合を想定して、対応等をシミュレーションしておく必要があるのではないか。

B 大学

- ・急遽、遠隔実習への変更が必要になった場合に備えて、実習開始前に全学生の自宅のインターネット環境を調査した
- ・実習期間中の昼食時間帯の感染対策として、黙食の指示はもちろんであるが、よりリスクを軽減させるため、学生同士の昼食時間帯を最小人数でグループ化すること、パーティションの活用を行った

A 県薬剤師会

- ・食事休憩が複数人で重ならないよう、時間をずらす。
- ・手洗い、うがい、アルコールなどの凡事徹底
- ・個人在宅や施設在宅では、中まで入らない等の対応
- ・薬局従事者と同じように検温・消毒は時間を決めて実施してもらいました。実習中の昼食はお弁当持参とし、実習中の外出は避けてもらいました

- ・この課題とは違いますがⅡ期の病院からコロナワクチンを受けるように連絡があり実習期間中に病院にワクチンを受けに行きました。二回目のワクチン接種は実習と実習の間の期間に受ける予定になっています。

病院実習を受ける前にふるさと実習のためかPCR検査を受けるように大学から指示がありました。

- ・流行前だったので、小学校に2回検査に行ってきたが、学校側のクレームなし。
- ・今まで以上に、在宅に連れていきにくくなりました。フェイスシールドを着用し、個人在宅の方をお願いをして連れていくことができました。
- ・外部訪問の機会が持てなかった。健康関連イベントが開催されず参加機会がなかった。(地域医療関連)
- ・薬局内では密にならないように工夫した。
- ・患者対応は基本的にアクリル板を通して行った。
- ・集合実習や訪問実習は極力控えたが、感染対策を十分にして、在宅や学校薬剤師の見学は出来た。
- ・オンラインでのグループディスカッションができた。
- ・内科病院門前で、0410対応の方がほぼ毎日対応していたため、万が一コロナに掛かっている方が来られないかどうかは凄く不安でした。お蔭様で、今回は問題なかったので安心しております。普段ですと、同じX薬局の他店舗へ見学を多く取り入れていたのですが、今期は数カ所しか行く事が出来なかったもので、申し訳なく思います。
- ・地域活動(薬の相談会など)、他職種とのカンファレンスの経験を実務で行えなかった。学校薬剤師の実務も薬剤師会の移転と重なり出来なかった。
- ・薬局外実習が中止となったため、経験させられないことが残念であった。
- ・問題やトラブルにはなっていないが、学校薬剤師活動での同行も、学校側が上記と同様に不安を感じていた。
- ・実習生のワクチン接種日程の連絡について、当日の実習可否判断を実習生や受け入れ先にゆだねられ少し悩みました。
- ・学校薬剤師・急患センターの体験ができず指導薬剤師の写真と説明だけになってしまい申し訳なかったです
- ・毎日の体温測定、体調変化、毎日のマスクの交換、こまめな手指消毒、服薬時のフェイスガードの着用の実施
- ・GW時の移動について(他県への移動)可能なか不可なかはっきりとした説明があったほうが良いと思います。学生だけでなく薬局にも案内が欲しい

【東海地区】

- ・実習前に「PCR検査」を求める施設はこれまでも一部あったが、最近ではワクチン接種を実習の条件にあげる施設も一部出てきた。現時点では任意の接種であり、「ワクチン接種を強要せず、接種の有無により実習の差別化が起らないように」という厚労省・文科省からの通知に矛盾する対応になっていないか気になる。
- ・〇〇薬局から、自宅学習用の課題に関して薬局に対する情報提供を行った。
- ・コロナにより中断、在宅実習に切り替わることなく、事前の申し合わせ通り行えたので特に無し
- ・週末も含めて日誌に体温、体調、行動歴等の記載を求めている

- ・濃厚接触者などの学生対応について、大学の保健センターと連携した。

【近畿地区】

- ・例年薬局実習の期間中に、本学実習室において薬剤師会主催で集合研修が開催されてきましたが、令和2年度に引き続き本年度も全て中止となっているため、学校薬剤師の業務やOTC販売などの実習についての対応が、実習先によっては不足した場合があります。
なお、緊急事態宣言が再発令されている中での薬局実習でしたが、感染予防策を取りながらほぼ通常の形で服薬指導の実習を行っていただいたり、在宅医療の実習も行っていただけた学生が多かったように思われます。
- ・実習施設では、コロナ禍の状況で学薬体験・集合研修・卸見学ができない分、薬局内で講習研修会をどんどん行ってくださった。
- ・コロナ禍で薬剤師会主催の研修会は縮小しているが、少人数やWeb研修など工夫することで、可能な限り開催された。
- ・実習生は、前日夜に発熱していたが朝になって解熱していたため実習へ行き、そこで前日夜の体調について話をしたため、体調不良の際に自己判断で実習に来るとはコロナ禍での健康管理や体調報告について、大学ではどのような指導をしているのかと指摘があった。
- ・学生・教員ともに事前訪問が困難な状況であったが、いくつかの施設でオンラインツールを用いた顔合わせを設定して頂いた。また、実習終了時のグループ内の成果発表会や薬局・病院・大学の情報共有会についても、オンラインツールを用いて積極的に実施した。
- ・PCR検査で陰性であることを実習受け入れの条件とされる実習施設があるが、自施設で実施できないため大学がPCR検査施設を手配する必要があった。
薬局の指導薬剤師から、「実習生に対する新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種につて、近畿地区調整機構や大学が主体となって環境整備をするべきではないか。」との意見があった。接種を希望する実習生が接種可能な環境が理想であるが、ワクチンの流通状況や社会情勢等、様々な課題があることを説明した。併せて、近畿地区調整機構にご意見として報告する旨、説明した。
- ・指導薬剤師がCOVID-19のPCR陽性となった事例。他の指導薬剤師（管理者）から学生への指示、大学への連絡など即座に対応いただいた。学生にも保健所からの指示を待たずに民間検査を実施下さり、学生も不安に思う時間や自宅での遠隔実習の期間が短くなった。
- ・学部内で新型コロナウイルス感染者が出た際に、濃厚接触者の認定状況、実習生は感染学生および濃厚接触者とは無関係であること、感染学生の所属研究室に実習生は所属していないことなどの情報を、速やかに実習先施設と共有した。同時に近畿地区調整機構および〇〇薬剤師会にも報告し、関係各所への速やかな情報提供に努めた。

【中国・四国地区】

実務実習施設を直接訪問するのではなく、コロナ感染症の拡大状況に合わせて、適宜、WEB会議システムを用いて、面談・連絡等を行った。

【九州・山口地区】

- ・大学教員が実習施設の状況や感染予防対策について電話により確認するとともに、実習生の体調不良や不安の有無について確認しながら無事に実習を終了することができた。
- ・薬局実務実習報告会をオンラインで実施した。
- ・実習開始2週間前からの実習地域からの県外移動は禁止
- ・実務実習期間前後の行動制限に関する誓約書の郵送
- ・実習開始2週間前からの健康チェック（〇〇フォームでの本学への報告とは別に実施）と行動歴については本学で表を用意し、実習初日にその表を用いて指導薬剤師に報告
- ・アルバイトおよび同居家族以外との会食の原則、禁止
- ・本人（場合によっては家族）の体調不良や発熱時の際は自宅待機（欠席）
- ・1期実習生には、実習開始2週間前からの感染予防対策の実施を指示した。また、アルバイトの制限など、感染拡大防止に必要な行動制限を適宜指示した。
- ・実習施設からの新型コロナウイルス PCR 検査を求めに応じ、一部実習生の PCR 検査を実施した。
- ・新型コロナウイルスワクチン接種に関して、一部の1期実習生は、実習先の薬局における優先接種対象者に入れていただき、4月の末から5月にかけてワクチンを接種した。
- ・実習生の家族が濃厚接触者の疑いがあり、実習生を自宅待機とした。濃厚接触者でないことが判明したため、実習を再開した。
- ・指導薬剤師の家族が風邪症状のため PCR 検査を受けることを実習生担当教員に連絡があった。PCR陰性の結果が出るまで実習生は1日待機した。
- ・学校薬剤師に関する内容など、薬局外での実習は〇〇（Webシステム）を用いて臨機応変に実施した。
- ・セルフメディケーションや学校薬剤師については、実際の資料や器具を見せてもらい、〇〇薬剤師会が作成された DVD や参考資料を拝見させて頂きました。

【〇〇県】

- ・感染防止対策に努め、できる限り通常と変わらない実習内容となるよう配慮し、実践した。
- ・コロナ禍のために施設への在宅訪問が制限されて本来の形ではなかった。その分個人宅については感染に気をつけながら従来に近い状態で訪問はできた。
- ・薬局外での実習ができない場合があった
- ・担当者会議や地域ケア会議へ連れっていくことができなかった。
- ・感染防止の徹底
- ・在宅などへの参加
- ・薬剤訪問等外部での実習の制限があった。
- ・コロナ感染しないように注意して実習をしましたが、その分実践することが今までより少し少なくなってしまうと思います。
- ・緊急事態宣言により、施設等への訪問薬剤管理指導が難しい。
- ・マスクの配布。こまめなアルコール消毒の徹底。
- ・マスクは抗ウイルスのパーセントが高い物を実習生、職員、全員装着。昼食テーブルは元々パーテーションを置いてましたが、密を避けるため、実習生12時より昼食、職員は12時半以降に昼食をとって対応。実習生、職員ともども不要不急の外出はしないよう指示。
- ・職員及び職員の家族でコロナ感染者、濃厚接触者が出た場合の対応について困った。
- ・学校薬剤師や在宅の見学で、学生のいない教室で検査の練習をし、個人宅は時間を短めにしました。

- ・服薬指導業務の取っ掛かりとして比較的単調となる処方内容が過去の実習生においては対応させやすいと考えていたが、このコロナ禍に於いては積極的な関与を経験させることが難しかった。

(工夫)

- ・実習初日に薬局におけるコロナ対策をしっかり説明し、理解してもらった。
- ・こまめな消毒・換気、オゾンによる除菌、毎日の体温チェックを行った。
- ・コロナ禍においての在宅訪問は、距離を取りながら見学していただいた。
- ・患者さんとの飛沫接触について注意していた。マスクをして、ビニールカーテン越しの患者対応
- ・消毒・検温などの感染防止対策の徹底

(問題点)

- ・感冒で受診された患者さんへの服薬指導を控えたため、実践できていない。

【〇〇県】

- ・ワクチン事業が本格化し、各市町の医師会に対し支部長が調整依頼をすることで、今年度実習を受ける学生の接種枠を設けて頂き、現在進行形で接種を行っている。現時点では希望する学生全員接種ができています。特に受け入れ病院で PCR 検査を義務化するところもあったので、それを受けた医師会の理解も後押しして接種が進められた。

【〇〇県】

- ・手洗いの指導はした。学生は毎日体温を付けていた。問題になったことはない。
- ・大学でクラスターが発生し、全く関係なかったのですが、しばらくは服薬指導を中止しました。
- ・局外の活動にも参加して欲しかったのですが、許可をもらえませんでした。
- ・ケースによって、個人用防護具を使用した感染対策（PPE 対応）を実施した。
- ・独自に行っているオンラインでの薬剤師向け勉強会へ参加。
- ・3月あたりから季節性アレルギーと思しき症状（鼻水・鼻風邪）で受診されていた患者さんが、症状が継続するので念のため PCR 検査対象となった事例があった（結果は陰性）。昨年度の実習からは、感冒症状があると考えられる患者さんの投薬は、実習生には行わせないようにしていたが、花粉症等と思しき患者さんについての投薬も、これ以降見合わせることにした。
- ・接遇の延長線上にあるとは思いますが、コロナ対策でマスクとビニールカーテンがあり、普段より大きな声で、ゆっくり患者さんと話すようにしており、学生さんもそれをまねてくれた。患者さんからの話は、聞き取りづらいようだった。
- ・検温、マスクの着用。

【〇〇県】

- ・実習初日に学生に「密を避けること」「こまめに手指を消毒すること」を伝えました。薬局内もこまめに換気、消毒をしました。昼休みに使う休憩室は、「密にならないように2人まで」を徹底しました。学生自身も新型コロナウイルスについて知識を身に付けて、感染防止に取り組むことが大事だと思います。
- ・学校薬剤師など薬局外の実習がほぼできず、レポートによる評価項目がないことが困った。
- ・学薬、薬局製剤、OTC、施設見学等、他機関にお願いしていた体験をさせてあげられなかったこと。

【〇〇県】

- ・他職種連携を見せる機会が少なくなった事。
- ・マスク着用、検温、出歩かない、休憩時間をずらすなど。
- ・特にはありません。現状の対策を学生さんにも従ってもらいました。
- ・毎週末の行動を逐一報告してもらい、体調管理を双方で確認した。
- ・このコロナ禍もあり、学生の体調不良時の対応に困った。学生としては少くく体調が悪い程度では実習を休むわけにはいかないという責任感で数日間、体調不良でも出席していた様だが、薬局側としてはこのコロナ禍で最悪のことを考えるので、少しでも体調不良がある際は相談する等して欲しかった。その後体調を聞いた際に学生から大丈夫ですとの返答で、頑張りたい学生を前に薬局側としても欠席してもらおうべきか、どの程度の体調不良で欠席の判断をしたら良いのか悩んだ。
- ・通常の感染対策で特に問題はなかった。
- ・基本的には、風邪の方には投薬はしませんでした。特に問題になったことはありませんでした。
- ・当薬局職員がコロナのPCR検査対象になり1週間ほど実務実習中止になりました。陰性だったのでその後再開できましたがその1週間分の時間をそれ以降の実習で補わなければならず少し苦勞しました。
- ・基本的な対策のマスク着用、手指の頻回消毒、密を避ける等を徹底しました。当薬局周辺では実習期間中感染クラスターは発生せず最後まで無事終えることができましたが、健康管理には気を遣いました。
- ・学生がコロナ禍において、2週間、検温などの記録をしていて、門前病院側に説明をするのに助かりました。
- ・自家用車で通勤して頂いたことが良かった。
- ・実習前2週間の生活など記載があり、信用できた。
- ・実習生の家族が会社内にコロナ感染者がでたが、予め実習生から問い合わせがあったので、何事もなく対応できた。慎重な言動がとれていたことも有難かった。

【〇〇県】

- ・指導薬剤師側からはコロナ禍なので例年通りの局外実習が行えないことに不満が出ていたが、それでも学生からは局外実習（地域ケア会議や担当者会議への見学、学校薬剤師業務の見学）については満足しているとの意見が多かった。

【〇〇県】

- ・昨年もそうだったがコロナ禍で長期処方が増え、11週の実習期間内に同じ患者さんに複数回の服薬指導をすることが以前より難しくなっている。薬局スタッフに患者さん役をお願いし、実際の処方箋を使ってその患者さんの治療や処方の経過を診るロールプレイや、処方変更に伴う考察や解析を行った。
- ・今回は外部実習も無事にでき、学生に色んな経験をしてもらうことができた。
- ・毎朝地方紙を読ませ地域の感染者数を把握させた。薬局での感染防止対策を一緒に話し合った。できれば医療従事者としてワクチンを打たせてあげたかった。
- ・朝出勤時に体温、酸素飽和度を測定記載することで、体調管理に注意した。
- ・換気の意識づけのために、CO2モニターで換気状況の確認を行うとともに、最終報告のスライドにもその内容を入れて報告した。

- ・実習中（ゴールデンウィーク）に2～3時間、友人と海水浴に行って小麦色に日焼けしていた。通常の実習ならば問題ないが、コロナ禍において実習先に与える印象としてはあまりよろしくないことだと思う。大学の先生方もご尽力いただいているが、今後も実習は続くので今一度ご指導お願いしたい。
- ・実習の集大成として学生さんにはパワーポイントを使用して何でもよいので実習で習ったことの発表をしてもらった。例年他の関連薬局の学生等との合同の発表会になっていたが今回は自己薬局でコンパクトに終了した。歓送迎会のようなことはできなかったが、発表の終了後、薬局の先輩薬剤師たちからのエールの言葉を送った。休日なども実習中、学生も人込みなどを避けて行動してくれた。風邪もひくことなく無事実習が終了できた。
- ・施設などへの入室が制限されているなか、内容への制限は多少あったと思われるが、経験者などの話をリモートで聞かせるなど、対応はできたと思う。
- ・コロナ禍なので仕方ないことではあるが、実習時間内・時間外を問わず学生の行動にいろいろ制約がつくのは大変だと思う

【〇〇県】

- ・施設訪問・在宅訪問の際は、サージカルマスクを着用。訪問前に手指消毒をしっかり行った。しかし、施設訪問においては、利用者に対面しての実習や長時間の滞在はできなくなった。
- ・問題は特になかったのですが、各患者さんのところに行くごとに消毒をするなどの対策はしました。

コロナ禍において工夫したこと、コロナ禍で特に問題になったことなど
(令和 3 年度第 II 期実務実習)

【北海道地区】

【東北地区】

- ・実習生の同居家族がコロナ陽性者の濃厚接触者に該当したため、PCR 検査結果が出るまで実習を中断した。自宅学習の指示は出して対応した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応から、病院実習の受入を当面見送るとの申し出があった。→実習先の変更を行った。
- ・新型コロナの影響で、薬局外での実習の機会や外部との接点を持てなかった。
- ・会社の方針もあり、コロナ禍で在宅実習など制限されることが多かった。
- ・コロナで社外での実習場が少なくなった。
- ・実施にあたって特別なトラブルはなくコロナの影響を大きく受けることなく実習を行ってきました。今回実習に来ていただいた学生も真摯に取り組んでいただきましたので問題なく行えています。大学との連携は、コロナ禍のため基本的に「実務実習管理指導システム」を用いて最低限の連携を取ることが出来ていると考えております。
- ・コロナ禍のため地域活動で実地で行えない実習があることを理解して下さっております。(学校薬剤師の活動等)。今後のコロナ感染状況によりますが、可能な限り実地で行える体制が整うように準備したいと考えております。
- ・アンケートの記載に 1 店舗だけでなく、同じエリアの他の店舗でも実習を行って見たかったと記載があったため、こちらもコロナ感染状況にあわせて可能な限り違う薬局、病院の処方箋も見せることが出来ればと感じました。
- ・新型コロナウイルスワクチンを実習中に 2 回とも接種したが、次の日体調が崩れ休みとなった。→振替は特別必要ないか？
- ・今回はコロナ渦ということもあり、大学の先生の訪問も電話での対応となり、若干不安なところがあった。システムに不慣れだったがマニュアル等丁寧な資料で実施する事が出来た。評価については基準がわかりにくく迷うところがあった。
- ・コロナ禍で対面授業等減ったことが影響しているのか、自ら問題点に気づき判断行動する能力が十分ではないと感じました。
- ・コロナ禍で在宅関連教務が十分にできなかった。(複数人での訪問を自粛)
- ・病院として学生には covid-19 ワクチンの接種を全員に希望します。
- ・COVID19 の影響は分かるが、訪問自体の規制はしていないので面会はしてほしい。
- ・やはりこのような状況下において、臨床現場で 11 週間という長期間の実習を行うこと自体かなりリスクが高いと思う。実習期間を短縮する、リモートで行うなどの対策が必要だと思う。
- ・コロナ禍のため訪問指導ができず、実習施設との連携がメールや電話のみになってしまった。訪問することによってその施設がどういう規模かあるいはどういう職種の人たちが働いているかも知ることができる。そのような機会がなかったのは残念である。

- ・新型コロナウイルス感染拡大により、実習が実施されるか心配だったが、感染対策を徹底したうえで多くの患者さんと接する機会をいただけてとても良い経験が出来た。
- ・コロナ禍でも、在宅や地域ケア会議など、出来るだけ外に出ていく機会を持ったことに対して、感謝されました。また、ちょうど新型コロナワクチンの集団接種の時期だったため、ワクチンの調整の様子も見学し、病院実習へのモチベーションアップにつながったようでした。

【 〇〇県：薬局 】

- ・集合研修や在宅、学校薬剤師など実施できなかったため、写真やDVDなどを利用した。
- ・感染対策を徹底していたため、特に問題はなかった。

【 〇〇県：薬局 】

●コロナ禍において工夫したこと

- ・社内研修会の際、WEB会議システムを活用した。
- ・手指消毒の徹底。ユニバーサルマスキング。
- ・学生用のマスク配布と消毒液の配置。
- ・昼休みはスタッフとは別に取ってもらった（コミュニケーションは取りづらいがマスクなしで他スタッフと密集することは避けられた）。
- ・休憩室は対面にならないように仕切りを設置。
- ・実習生も毎朝の検温実施。
- ・通勤時間等の調整。
- ・実習生の利用する講義室・休憩室の亚克力板の設置や換気の徹底。

【 〇〇県：薬局 】

- ・感染対策を行いながら実習を行う事が出来た。
- ・一部地域の活動が中止になってしまい、薬局外での活動が減ってしまった。
- ・感染対策や患者の了承を得た上で在宅に同行した例も複数あり。
- ・ワクチン調整業務など、普段出来ない内容も実習することができた。
- ・県薬で卸・薬局製剤に関するWeb研修会を行った。
- ・ワクチン接種による体調不良で、貴重な実習時間が無くなってしまった。
- ・職員のワクチン接種で職員が不足し、実習生の面倒を見られない期間があった。

【 〇〇県：薬局 】

- ・特にはありませんがワクチン接種の手技説明会に参加しました。
- ・特になし。実習期間中、1日だけ、県外（〇〇市）の他薬局にて実習を行わせてもらいましたが、大学側とも事前相談のうえ、問題なく実習を終えることが出来ました。
- ・工夫したことは特別思い当たりませんが、可能な限り実地で行えるものはコロナ禍前の学生が行っていたようにと考えて実習を行っております。その中でも学校薬剤師やイベントへの参加等、他の職種の方が関わる場所に同行してもらう事は時期によって難しいと感じました。
- ・新型コロナウイルスワクチンを受けていると学生自身も施設のスタッフも安心して患者対応は出

来ると思われる。

- 自局に勤務する薬剤師や事務はコロナワクチンの接種を指定された地域の接種日に合わせ実施したが、実習生はワクチン接種を実施せず実習に来ていたので、実習が始まる前に接種済みであればよかったと思われる。
- コロナについては、施設同行や在宅同行など見送った部分もありました。また、学生はマスク着用息苦しさを感じていたようです。
- 災害学習を集合研修したときの資料を共有していただき、教えるのに役立ちました。ありがとうございました。学生同士で意見をやりとりできる場が設けられないのが残念なので、情勢が落ち着いたら、ぜひ集合研修を再開していただきたいと思います。
- 感染予防のためのアクリル板を設置しての服薬指導、渡薬。
- 消毒用エタノールの配布、毎日2回の体温測定や、指導薬剤師による健康観察などを通し、感染予防に努めている。念のため抗原検査キットは準備しているが、使用の判断が難しく、学生が体調を崩した時の対処方法を明確に規定していただけると助かる。
- 前年同様、学校薬剤師の見学をさせてあげることができなかったことが残念でした。そちらについては、DVDでの動画や、口頭での説明となってしまいました。地域活動についても同様で、外部の健康イベント等がなかったので、そちらの体験をしてもらうことができませんでした。その代わりに、来局した患者様にフレイルやサルコペニアについてのアンケートに協力して頂き、その結果に基づいた健康アドバイスなどを行っていただきました。

【 ○○県：薬局 】

- 学校薬剤師はなるべく生徒と会わないように時間を調整した。在宅訪問時も他職種とかぶらない時間、手指消毒を徹底した。
- 休憩をずらしてとること、他の実習生とPCの使用時間をずらすこと。
- 特になし、基本的なことのみ。
- 実習に入る前から行っていましたが、換気や患者さんの出入りがある場所は、時間を決めて消毒作業を行いました。
- 清掃をより細かく行った、手指消毒の徹底。
- 実習生には新型コロナウイルスの疑いがある患者からは距離を取っていただきました。
- 薬局内での患者対応、在宅訪問、多職種との連携、地域貢献活動については、口頭にて説明を行った。
- 可能な限りコロナ前と同様の実習内容。
- 普段あまり意識していないでやっている消毒についての理解と、感染症とその対策について現状と照らし合わせて理解につなげられたと思う。
- 在宅については同行が出来ないため、TELでの服薬指導の様子をみてもらった。
- 朝晩の検温、マスク着用、手洗い、手指消毒の励行、昼食会場の隔離。
- 指導薬剤師による座学の時間を増やし、薬局スタッフとの接触をなるべく少なくした。
- 社内実習成果発表会のweb開催。
- 通常感染症対策のみ。
- 特にないが、薬局外の実習は控えめにした。
- コロナ禍で対応が難しかったので、テキストや処方せんによる処方意図の推測だったりも多く実

施しました。

- ・感染症外来の投薬は、学生さんは見学するにとどめました。
- ・昼食場所の亚克力板設置。
- ・食事をする際の部屋を増やした。
- ・食事の時間、場所。
- ・薬局内の定期的な消毒、待合室の換気。
- ・休憩時の配置などディスタンス確保。
- ・同居者以外との会食の制限。
- ・食事時における人数制限。

【 〇〇県：病院 】

- ・ covid-19 のワクチン接種について、今年度は当院で実習する学生に対して、希望者には当院がワクチンを確保した上で接種したが、大学によっては大学側でワクチン接種を行うなど、大学間での対応が統一されていないため、調整機構として、ある一定の指針のようなものを提示して頂けると良いと思います。
- ・工夫したこととしては、事前面談時に当院の感染対策の留意事項を書面で渡し、感染対策を行ってもらったことと、実習前の行動歴についてアンケートをとり行動履歴の把握を行ったことです。特に問題になった事はありませんでした。

【 〇〇県：病院 】

- ・ワクチン接種の状況確認が困難であり、接種に伴う手続き等では個人情報の取り扱いもあり、連絡等に苦勞した。
- ・感染対策上、学生が ICT ラウンドに同行出来なかった。

【 〇〇県：病院 】

●工夫したこと

- ・実習自体が中断することを考慮して臨床実習を早めに開始している。
- ・工夫した点は特段ないが、昨年度と同様、十分な配慮の下で病棟実習も十分に実施することができた。
- ・実習開始前（2週間）の一定期間の健康観察や行動日記の作成
- ・食事中の会話禁止
- ・アイガード・マスクの着用
- ・実習開始前の PCR 検査実施
- ・土日の体温測定を義務付けた
- ・病院実務実習前に実習生が病院内で新型コロナワクチンを2回接種できるように調整した。
- ・病院内のカンファレンスや各種会議にオンラインで参加し、チーム医療や薬剤師の役割を経験する場を設けた。
- ・三密を避けるため、実務実習生控え室は2ヶ所に分けた。
- ・昼食時の感染対策など、少しずつ実習中の感染対策も確立してきているので特に問題は見られなかった。

- ・実習生用のスペースへの手指消毒剤設置
- ・食事中の会話禁止
- ・毎日の検温、手指消毒を励行。
- ・毎日の検温と体調の記録をしてもらった。
- ・毎日検温
- ・新型コロナウイルスの感染対策の徹底

●問題になったこと

- ・ワクチン接種に関して大学側と病院側での見解に食い違いがあった。
- ・大きな問題ではなく実習への支障もなかったですが、学生のワクチン接種で日程がなかなか定まらず実習のスケジュール調整等するにはっきりさせてもらいたかった。

●その他

- ・工夫した点は特段ないが、昨年度と同様、十分な配慮の下で病棟実習も十分に実施することができた。
- ・実習期間中に1回目のワクチン接種を行っていますが、副反応による欠席はなかった。今後、コロナ患者の増加で実習中断などになる可能性がある。その際学生に行ってもらった課題などの準備が必要と思われる。

【 ○○県：病院 】

- ・スケジュールは特別変更していません。実習期間中にワクチン接種のため2日間ほど午後が時短になったが、例年と同じ内容で実習ができたと思います。
- ・実習生のワクチン接種においては当院で対応できました。今後定期接種などが生じるようであれば、その対応・連携などについてご検討いただけますと幸いです。

【 ○○県：病院 】

- ・第Ⅲ期と合わせて報告

【 ○○県：病院 】

●A 病院

- ・学生が体調不良を訴えた際、実習を再開するにあたり院内規定により PCR 検査を実施したりなど煩雑であった。
- ・コロナワクチンの個別接種でキャンセルが出た際、希望する学生に接種を行った。

●B 病院

- ・実習初日に、当センターにおける実習生の方の対応を「新型コロナウイルス感染症に関する対応について」を用い説明を行い、予防の徹底をお願いしています。
- ・今回の実習でも、病棟業務での患者さんと接するベッドサイドでの服薬指導が難しくなってきましたが、○○市の現状を考えると、Ⅲ期以降さらに服薬指導業務が困難になってしまうのではないかと思います。
- ・大学側も、感染予防については指導していただいているとは思いますが、学生がどの程度実践しているかに不安があります。万一、学生が感染、発症した場合の速やかな対応について検討していきたいと思っています。

【 A 大学 】

- ・ 第 2 期の途中に大学による新型コロナウイルスワクチンの集団接種があり、接種後の副反応による実務実習の欠席について公欠とする旨、実習開始前に周知した。その結果、混乱なく実務実習が進行した。
- ・ 教員による施設への訪問を控え、メール、実務実習管理指導システム、電話などで連絡をとり、実習状況の把握に努めたが大きな問題はなかった。

【 B 大学 】

- ・ 病院実習前にワクチン接種を希望する学生に対して、2 回の接種を完了してから実習を開始することとした。結果として、全ての学生がワクチン接種を受け、病院実習に臨んだ。
- ・ 臨地実習を行うにあたり、新型コロナウイルス感染症対策を徹底する必要があることから、昨年度同様に主な遵守事項を以下のように定めた。
 - (i) 毎朝、体温を測定し、発熱や体調不良時（咽頭痛、咳、倦怠感、味覚・嗅覚異常、頻回の下痢など）は、必ず欠席させる。
 - (ii) 実習への復帰に際しては、医師等の助言を基に判断する。
 - (iii) 実習生には実習期間中の行動記録を作成させ、体調不良を自覚する場合には過去 2 週間分の記録を実習責任者に提出させる
 - (iv) マスクの装着、手指消毒および共有物品の湿式清拭を徹底し、3 密を避ける。

【関東地区】

【北陸地区】

- ・ 学生のワクチン接種が急に入ってきましたが、大学教員の方へは連絡がいつてなかったらしく休みの扱いについてどうすればいいのかわからず困った。
- ・ 実習生の会食相手が濃厚接触者となり、学生も PCR 検査を受けたところ、陰性であった。実習先の病院の指示に従い、2 週間の自宅待機となった。
- ・ 実習生の同居家族が新型コロナウイルスに感染し、本人も PCR 検査を受けたところ陰性だったが、濃厚接触者と認定され、2 週間の自宅待機となった。その実習生と会食をした学生がおり、全員 PCR 検査は陰性であったものの、大学が実務実習において定める遵守事項に反する行為とみなされることとなった。
- ・ 県外で実習を行なう学生について、実習開始日の 2 週間前までに実習先に通う住所に移動しているよう伝えていたが、2 回目接種が 8 月中旬となる新型コロナワクチンの 1 回目接種を県内で受けており、3 期薬局実習開始が遅れた。

A 県薬剤師会

- ・ 対面での講義を減らし、書面にて講義。わからないところは質疑応答で対応。
- ・ 学生は自宅で休憩を取る→徒歩通学だからできたことかと思う。

- ・ 休憩時間のやりくり。密にならないよう配慮すると休憩室に入れない職員が出る。
- ・ 薬局外活動が制限され実地体験の数が、少なくなってしまった、もしくは、やりづらかった。学校薬剤師、在宅、地域活動等。
- ・ SGD の実施が難しかった。オンラインでの工夫が必要であると感じた。
- ・ 多職種連携の実習が難しかった。
- ・ コロナ禍のため、以前まで集合実習として対応していた SGD 等が難しくなったが、オンラインを利用してセルフメディケーション等についてオンライン SGD で対応した。
- ・ 在宅や学校薬剤師業務では、感染対策の徹底により問題なく対応できた。
- ・ 通常であれば、上気道炎や急性胃腸炎等の簡単な処方から扱うところだが、コロナ禍であるため、学生に服薬指導させることを避けた。
- ・ 局内での休憩時間中で、休憩室が十分な広さを確保できないため、調剤室で一部スタッフが休憩をとるなどして対処した。
- ・ ケアマネージャーや訪問看護師の方に話を聞きに行ったり、仕事を拝見したりしていたが、コロナ禍ということで面会や施設へ訪問できず実現することができなかった。
- ・ 食事時間をずらすのが、一人増えることで大変になった。
- ・ 問題にはなっていないが、やはり研修会などへの参加をどうしようかと悩んだ。ワクチン調製の場の見学もしてもらったが、人が多かったかなとの思いもあり大分迷った。
- ・ 仕方のないことだが、学校薬剤師の業務に関して県外大学の実習生の同行を学校側から許可されなかった。検査を受けてから移動し、県内で 2 週間健康観察を行ったうえで実習に臨んだ（大学よりその旨の指示があった）学生だったので、本人も残念がっていた。結局は別の学校から許可があり、学校薬剤師の実習を行うことができた。
- ・ 集合実習がリモートになってしまったので、パワーポイントによる説明などがなく、いきなり話し合いになってしまうのが、気になった。地域連携包括ケア会議などの参加は感染対策に配慮して、限られた学生しか連れて行ってもらえなかった。自分のように、経験の浅い薬剤師が担当になると経験させてあげられないこともあった。

B 県病院薬剤師会

- ・ 会食した友人が濃厚接触者となり念のため 2 週間自宅待機としたため実習期間が 2 週間延長となった。
- ・ 患者との面談時にはフェイスシールドを付けて貰った。
- ・ 集合で可能な実習はオンラインを活用し、SGD なども〇〇（Webシステム）のブレイクアウトルームを活用し対応した。オンラインでは学生同士の意思の疎通が図りにくい面があったが、ある程度の成果は得られた。
- ・ 実際の服薬指導は施設の対応基準を守り、短時間で対応した。
- ・ 実習中に発熱し PCR 検査を受けた（結果として陰性）学生がおり、会食をしているケースがあった。
- ・ 2021 年度Ⅱ期は、一部の実習生のワクチンの職域接種調整がついていない状況であった。実習生からはワクチン接種の要望があり、受け入れ施設としても接種をすすめたい一方で、院内では職員接種・住民接種のワクチン確保で余裕がないことや接種枠の縛りで、なかなかスムーズにはすすめられなかったが、実習期間途中に実施することができた。

- ・ コロナ対策として、可能な限り、担当教員とは Web 会議システムを用いている。しかし、前年度 Web で開催したときには、実習生の症例検討会に関しては、質疑応答が限られてしまうなど、活発な意見交換・双方向のコミュニケーションが実施しづらい状況がみられた。そこで、今年度は症例検討会に限って、十分な感染対策のうえ、担当教員に来院して頂き、実地開催し、実習生もやりがいをもって発表が出来たと意見を頂いた。
- ・ 昨年度に続き今年度も実習生の院内立ち入りが出来なくなる期間が発生したが、事前の対応として Web を介した実習の充実化を図っており、大きなトラブルもなく対応できた。

B 県薬剤師会

- ・ 一部施設への立ち入りができず在宅では制限があったが、個人宅は感染対策を徹底して実習することができた。
- ・ 学生が実習期間中に他施設で実習中の同級生と複数名で会食し、感染の疑いが生じた。
- ・ 夜間救急薬局の見学を行うかどうかの判断を薬局に委ねられたのに戸惑わざるを得なかった。
- ・ 問題点：在宅訪問や地域活動の見送り

C 県病院薬剤師会

- ・ オンライン実習になっても困らないように課題を前もって準備した。学生の病棟内への立ち入りが禁止になっている病棟においては、準備しておいた課題を用いて、ロールプレイなどを行った。

D 大学

- ・ 感染症については、コロナ禍においては関わってもらいにくかった。
- ・ 遠隔実習の実施。
- ・ 学生に実習病院先で新型コロナワクチンを接種して頂けた。
- ・ 学生の新型コロナワクチン接種に関して、調整機構が主体となり調整することはできないかとの意見があった。

【東海地区】

- コロナの影響もあり在宅の経験ができていないのが残念だった。
- 実習生の咳が続くため服薬指導実践や協力薬局での実習を行いにくいと相談を受けた事例があった
- 実習前からアレルギーにより咳が出ることが有ると把握しており、事前に指導薬剤師に情報提供を行っていたが、実習期間中に咳が続いたため担当教員が施設訪問をした際に咳が続くため服薬指導実践や協力薬局での実習を行いにくいと相談があった。
学生面談にてかかりつけクリニックに相談し必要に応じて病院を紹介してもらい受診するよう指示し受診後咳症状はわずかに軽快する時期もあり薬局・他施設の理解を得て服薬指導実践及び協力薬局での実習を行う事ができた。
- 実習開始前に体調不良となった実習生に対し、実習スケジュールを変更して対応した事例があった
- 実習開始 1 週間前に発熱し、実習開始予定日になっても微熱が続いていたため、大学と指導薬剤師の協議の結果、実習開始を見合わせた。その間、実習生は抗原検査、PCR 検査を実施。共に陰性という結果をうけ 2 週目から実習を開始した。指導薬剤師の配慮で、1 週目に欠席した分は 2 週目～11 週目の 48 日間、毎日 30 分～60 分程度延長して補習し無事実習を終了することができた。
- 十分なコロナ対策を実施するとともに、学生のコロナ禍での適切な行動に対する指導を実施している。問題になったことは特になし。

- PCR 検査や抗原検査を施設から強要され、その検査代などの支払いは、原則個人負担になる。高額になることも多く、大学として対応に苦慮している。
- 新型コロナウイルスワクチンを、第 2 期実習中に何とか実習生全員に接種を終えることができた。
- 学生の感染はなかったが、同居の家族、指導薬剤師の発熱や感染があり、対応に苦慮した。病院では対応がきちんとしているが、薬局からの相談例が多かった。大学としては、学内の保健センターと相談して対応した。
- コロナの予防接種について、薬局実務実習学生が医療関係者に含まれるか含まれないかが県により対応が異なり、対応に苦慮した。
- コロナの予防接種について、実習病院で接種していただけない病院があり、大規模接種会場や大学の職域接種を利用したが、これも調整に苦慮した。

【近畿地区】

- コロナワクチンの職域接種後、副反応にて体調不良となり入院する。実習実施の病院側と学生、大学側で協議のうえ不足日数分を実習期間終了後に補講した。
- やむを得ないが、コロナ禍の影響、緊急事態宣言により、実習開始時期、期間等に影響がでた。(開始時期を遅らせる、実質的な実習日数が減った)

COVID-19 の PCR 検査、ワクチン接種に関して、(やむを得ないとは思いますが) 学生の意思で行っていない場合、実質的に実習を受けられず、施設変更で対応しないといけないケースが出ている。

- 実習受入にあたり、新型コロナウイルスワクチンの接種を受けてきて欲しいとの意見がある。また、施設によっては、新型コロナウイルスワクチン接種が完了していない学生は、病院内や病棟での実習を受けられないことがある。
- 例年薬局実習の期間中に、本学実習室において薬剤師会主催で集合研修が開催されてきましたが、令和 2 年度に引き続き本年度も全て中止となっているため、学校薬剤師の業務や OTC 販売などの実習についての対応が、実習先によっては不足した場合があります。

なお、新型コロナ禍の状況下での実習でしたが、薬局実習においては感染予防策を取りながらほぼ通常の形で服薬指導の実習を行っていただけたたり、在宅医療の実習も行っていただけた学生が多かったように思われます。また病院実習においても、細心の注意を行いながら、病棟実習を行っていただいた施設が多かったように思われます。

- 実習開始前に PCR 検査を受け、陰性であることを確認してから実習開始とするという実習施設が複数あった。実習施設が PCR 検査を無料又は安価で実施してくれると実習生に負担はないが、実習施設での PCR 検査が高額であったり、他施設で検査を受けてきて欲しいと依頼があった場合は大きな負担となっている。
- 一部の病院で、緊急事態宣言中は、web 実習となった。
- 新型コロナウイルスワクチンの接種が病院実習の受入や病棟実習実施の条件となってる施設が増えている。大学として、学生に接種の機会があれば積極的に接種するように周知していく必要があると考える。ただ、学生に接種を強制できないため、ワクチンを接種できないあるいは接種を希望しない学生の実習施設が限られてしまう可能性がある。
- 新型コロナウイルスワクチン接種を希望する学生に対して、第 II 期実務実習開始前に 1 回目の接種を行い、実習期間中に 2 回目の接種を行った。2 回目接種後の副反応を考慮し、実習先薬局や実習

先病院に接種日を事前に周知して、接種日翌日の実習に配慮いただくようお願いした。接種翌日の実習を別日に振り替えるなどの対応をしていただき、トラブル無くワクチン接種を終えることができた。

- 新型コロナウイルスワクチン接種を、3大学と病院が共同した職域接種で実施した。希望学生について、第3期開始までに2回目のワクチン接種を終了した。
- 新型コロナウイルス感染症は公休と記載されているが、濃厚接触者やPCR陽性者は公休か？という問い合わせ。

【中国・四国地区】

- 実習生の同居家族が新型コロナ感染症の濃厚接触者となった事例について、PCR検査の結果は陰性であったが、大学/県薬剤師会/実習施設で協議して3日間自宅待機として体調管理を行うことにした。この期間はオンライン実習で指導薬剤師から提示された課題に取り組んだ。
- 遠隔実習はやむを得ない部分は理解できるが、学生の満足度は低かった。
- ワクチン接種の有無により実習機会が損なわれる可能性が生じる不安がある。
- 実務実習施設を直接訪問するのではなく、コロナ感染症の拡大状況に合わせて、適宜、WEB会議システムを用いて、面談・連絡等を行った。

【九州・山口地区】

- 実習生1名（留学生で母国に滞在中）が、日本への入国ができなかったため、今年度の実務実習を中止とした。
- 病院実務実習を予定していた4名の実習生（2施設分）が、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実習受け入れ停止となりⅢ期に再調整となった。
- 病院実務実習において3施設で、新型コロナウイルス感染拡大の影響により臨地実習開始遅延となったが、終了時期の延長や遠隔実習等の対応により実習は無事終了した。
- 病院実習中の学生が実習期間中にサークルの集まりに参加しており、参加者の中に新型コロナウイルス陽性者がいたため、実習を欠席して自宅で課題を行った。本人は、濃厚接触者ではなかったが、念のためPCR検査を受けさせ陰性を確認した後に実習を再開した。
- 実習開始前に当院でコロナワクチンを接種してもらった。開始3日前に2回目を終了したため、ワクチンの副反応で実習が開始できなかった。実習途中で、発熱があり当院職員規定より2日間休んでももらった。
- 2期学生は4名であった。病院実習開始時、薬局実習においてコロナワクチン優先接種を受けた学生が3名（2回終了2名、1回終了1名）であった。ワクチン接種前と同様に健康管理（体温・体調を実習前2週間記録、県外交流の自粛等）を学生に課し、実習終了まで発熱、コロナ感染等、特段の問題なく終了した。
- 実習前にPCR検査を行い陰性であることを確認していたことや、実習途中でワクチン接種を実施したことで、安心して実習を行うことができた。
- 当院においてCOVID-19クラスターが発生した時期に、学生のワクチン接種2回目が重なり、喉の違和感、呼吸がしづらいなどの症状を訴えたため、有症状者としてPCR検査を受けていただく

事案が発生。PCR 検査結果は、陰性だったため、症状消失後、実習再開とした。問題となったのは、有症状時、本人の自宅が遠方だったため、多少調子が悪くても登院してしまったことである。職員は有症状時、電話連絡後、所属長の判断で自宅待機とする規定としており、実習生にもその旨説明はしてあったが、実際には登院、入館してしまった後、症状報告され、早退扱いで帰宅させる対応を取らざるを得なかった。今回は、検査陰性だったため大きな問題にはならなかったが、患者への服薬指導演習を行っている最中であり、トラブルになりうる可能性があった。

- 実務実習生の新型コロナ感染陽性者発生：父親が陽性になり、実習生はその時点で濃厚接触者となり自宅待機となった。その後、実習生の陽性が判明（薬局内感染者なし、対応患者（在宅）の感染者なし。）し、実習中断となった。
- 実習生が2回目のワクチン接種時、副反応で発熱し、1日休んだ。（土曜日接種。日・月発熱し月曜休む）
- 門前医院の医師が新型コロナの濃厚接触者と認定され7/27～8/6まで休診となった。薬局は営業したが処方箋数が激減したため、大学と相談の上、当薬局グループの別店舗で実習を行うなど、実習終盤だったので残りは復習と処方解析に時間を充てた。知らずに門前医院を受診しにきた患者さんを近隣医院に案内したりなど臨時的対応も学べたのではないかと思う。
- 今期、学生に対して新型コロナワクチンの接種が、薬剤師会や指導薬剤師の協力により、行政や医療機関との調整が実施され、希望する学生に実施されたと思うが、本来は大学が調整すべきであると思う。
- ワクチン接種について、具体的にどうすれば良いか早期にきちんとした説明がほしかった。（薬局によって対応がまちまちになっていた）第3期以降の病院実習時に、接種していない学生が不利にならないように配慮が必要です。
- 事前に PCR を実施してくれるので安心できました。学生さんも予防接種を打てたので助かりました。
- コロナ禍で、ワクチン接種もない状態で医療従事者の同行等のリスクと体験学習を積極的に実施することへの配慮をどのようにとらえて行うか指導者として不安のなか実務を実施しました。
- 学生には感染防止、体調管理に十分気をつけて頂いて良かったです。
- コロナ禍のため病院内への出入りができないため直接病院との連携を取ることが困難であった。
- ワクチン接種後の副作用が継続している学生について、フォローをお願いしたいとの意見があった（〇〇県病院実習施設）。
- 7月と8月に行った本学での新型コロナウイルスワクチン職域接種に〇〇県で実習中の学生の指導薬剤師より接種の希望があったが、大学事務局より実習地域からの県外移動禁止の理由により、お断りした（〇〇県病院実習施設）。
- 実習中、病院でクラスターが発生した場合等の対応を職員と同じ対応でよいのか、または延期してもよいのかの判断が難しい。できれば、明確な指針があればよいかと思う。
- 7月と8月に行った本学での新型コロナウイルスワクチン職域接種に〇〇県で実習中の学生より接種の希望があったが、大学事務局より実習地域からの県外移動禁止の理由により、お断りした（〇〇県病院実習学生）。
- 実習開始前にワクチン接種ができるように対応した。
- 大学教員が実習施設の状況や感染予防対策について電話により確認するとともに、実習生の体調不良や不安の有無について確認しながら無事に実習を終了することができた。
-

- ・ 薬局実務実習報告会をオンラインで実施した。
- ・ 実習開始2週間前からの実習地域からの県外移動は禁止
- ・ 実務実習期間前後の行動制限に関する誓約書の郵送
- ・ 実習開始2週間前からの健康チェック（〇〇フォームでの本学への報告とは別に実施）と行動歴については本学で表を用意し、実習初日にその表を用いて指導薬剤師に報告
- ・ アルバイトおよび同居家族以外との会食の原則、禁止
- ・ 本人（場合によっては家族）の体調不良や発熱時の際は自宅待機（欠席）
- ・ コロナ禍でいろいろな制限があるなか、様々な体験をすることができて意義ある実習であったと多くの学生が日誌あるいはレポートに記載していた。
- ・ チーム医療はできなかったが、講義形式で実際に働いている先生が行ってくれたので、理解しやすかった。
- ・ 他職種の方々との接点を持つことがあまりできなかったが、その分しっかりと薬剤師の先生が事細かく指導していただき、このような状況でなければどういったことを行っていたんだよ、といった内容を教えていただいた。
- ・ 苦労はなかったが、平年なら学校薬剤師の同行が可能だったが本年は不可になった。常にマスクをしているので実習生の表情の汲み取りが難しかった（キャラクターがつかみづらい）。
- ・ コロナ前にはできていた実習（委員会見学、他部署見学等）ができなくなって申し訳ないです。
- ・ 今後の受け入れについては、コロナワクチン接種終了が必要不可欠になると思われる。
- ・ 更衣室での密集を避けるために職員出勤時間と一緒にならないようにずらしてきてもらいました。
- ・ 今後オンライン実習も増えることが予想されるため、オンラインでの実習カリキュラムの例などを作成していただきたい。
- ・ 病院実習では臨地実習の期間が短く、特に病棟での実習を行うのが難しかった。そのため遠隔実習用のコンテンツを活用し、学生の学修効果を高める工夫を行った。
- ・ 実習中の学生の家族が陽性となり、濃厚接触者として実習を欠席したが、残りのスケジュール内で実習時間延長などの対応をしていただいた。
- ・ 一部の病院実習先でワクチン接種が出来なかった。
- ・ 市内で大学の職域接種をしているが、県外の実習生が参加できなかった。（病院）

【〇〇県】

- ・ 実習が中止になる可能性を鑑み、セントラル実習より先に病棟実習を実施するよう工夫したが、セントラル実習で得られる知識が不足している部分があり、病棟実習での指導方法を検討する必要があった。
- ・ 工夫したことは特になし。ワクチンも接種しており、さらに生徒本人の感染管理も充分であった。
- ・ 当院の感染管理対策室の指示により、5月〇日（実習開始直前の金曜日）に学生は当院負担でPCR検査を施行。陰性確認をした後、実習を開始した。コロナワクチンに関しては病院実習前に〇〇薬剤師会の指示で2回接種は終了していた。実習中は速乾性手指消毒剤を交付し、適宜使用するよう指導した。
- ・ 工夫したこと
 - ①実習初日から対面実習が不可となっていたため、遠隔実習を行った
 - ②感染対策の講義を実習初期に行い、自覚をもって感染対策を行うよう促した
 - ③対面実習が可能となつてからは病棟実習を主とし、実務経験ができるような日程に組みかえた

・問題になったこと

① 通常のスケジュールでの実習が行えず、実務経験が減ってしまった

【〇〇県】

- ・ コロナ以前は慢性期病院（他施設）の見学を実施していたが、今期もできなかった。
- ・ 問題ということではないが、情報共有として挙げておく。実習生に体調不良がみられたため、現時点では新型コロナウイルス感染症の可能性を否定できないことから、職員就業制限に準じて、「症状発現日を0日として4日間実習中止」とした。4日間で症状改善を認め、実習再開とした。実習生自身も予想以上の期間の実習中止となることから当初戸惑いもみられたため、大学側にも当院での体調不良時の対応について情報提供・共有しておいた。
- ・ ただでさえ、服薬指導はなかなか行けないが、コロナ禍で感染する可能性と感染させる可能性を考えると気軽に服薬指導へ連れていくことが困難だった。
- ・ 接触を避けることを考慮しての学生への指導は、吸入指導はさせていいのかデモ器ならいいのか、カンファレンス等に連れていくリスクは？など未だ COVID-19 の詳細が不確かなところがありすぎて悩ましかった。
- ・ 学生をコロナワクチンの職員接種枠に入れてもらい、実習中に2回接種完了しました
- ・ 病棟服薬指導を直接行うことができず、薬剤師に随伴しての見学のみとなった。
- ・ 実習開始時（5月）はワクチン接種について施設として対応不可でしたが7月からは対応可能となり実習中にワクチン接種を済ませることができました。
- ・ 実習開始前にコロナ抗原検査（TRC）を受けてもらう必要があった。
- ・ 病院が提供するフェイスシールドは使用感が良くなかったため、自身でフェイスシールドを持参してもらった。
- ・ 緊急事態宣言下、実習生ならびに実習生同居家族に、職員と同様の感染対策を行う旨の同意文書を記載してもらった。
- ・ コロナワクチンを実習期間中に職員枠で接種してもらった。
- ・ 他施設の見学実習が実施できなかった。
- ・ たまたま、当院のワクチン接種のスケジュールに入れることができたので2回接種してもらいました。接種後14日以降から病棟業務や他部署の見学を組み込んだので後半のスケジュールがもしかしたら過密になったかもしれません。
- ・ 実務実習生の新型コロナワクチン接種につき、院内職員の医療従事者優先接種期間と同時期に実施できるよう事前に病院感染対策本部へ申請・対応に努めた。接種にあたっては、大学教員等を通じ、実習生本人への接種意思を確認していただいた上でメール等を利用して連絡、当院でワクチン接種できるよう対応した。副反応を考慮し、接種日を金曜日とするよう工夫したため欠席することなく実習できた。医療施設の負担は大きく必ずしも対応できる状況ではないと思うが、今回は早めに対応しタイミング良く調整できた。
- ・ 学生さんが病棟行くときは、必ずマスクと保護めがね、手洗いはしっかりするように注意しました。

【〇〇県】

- ・ コロナ禍の状況で、当院は実習開始から2週間は外部との接触はさせずに、薬剤部内での実習や見学をしてもらいました。そのためか、病棟業務に十分な時間を割くことができませんでした。2週間経過後は、他部門の見学（放射線科や検査科、リハビリ部門等）や手術の見学など他部署と薬剤部業務の連携などを経験させることができました。

- 実習生の1名が、当初、予防接種を受けない意向を示していたが、予防接種を受けない場合は、病棟業務ができないことを説明して予防接種をしてもらった。できれば、大学において予防接種を必須としていただきたい。
- 毎日検温
- 診療科長に許可を得た診療科のみ病棟実習を行った。
- 病棟実習が不可の診療科はシミュレーション形式で実習を行った。
- 実習開始前の2週間は地元（〇〇市）で過ごしてもらい、感染多発地域等への移動等も避けてもらった。
- 実習中は毎朝健康チェックを実施した。
- 常時マスク装着し、手指消毒も徹底して病棟活動実習を行ってもらった。
- 学生には実習期間全体を通して（休日も）、しっかり感染対策を講じてもらうことで、計画通りの実習が行えた。
- 昨年度はコロナ禍により病棟に学生を連れて行くことができなかったが、今年度は病院事務・管理者とも調整し、病棟へ連れて行くことができた。模擬患者ではないリアルな声を聴くことが出来ることで、学生の満足度も上がっているように感じた。
- 1期の薬局実習中、コロナ禍で学校薬剤師の見学ができていなかった。2期では一時コロナも落ち着いていたため同地域の薬局で実習していた学生たちは学校薬剤師の活動に同行できたようだが、連絡が不十分で当院実習中の学生を同行させることができなかった。委員会にて情報を共有できる環境を整えているので、今後は次期実習で来られる学生が不十分だった点に関しては実習前にリストアップするなど工夫するようにする。薬局と病院で実習を完結させるという考えの基、コロナという時代も鑑みて、薬局での学習範囲もフォローできる環境を整えていきたい。
- ワクチンが未接種だったこともあり、施設負担で週1回の抗原定量検査を実施しました。ワクチン接種1週間からは感染チームと相談し、検査を免除しました。しかし、デルタ株などが発生した現状以降（3期以降）はワクチン接種の有無に関わらず検査が必要かもしれないとも考えています。

【〇〇県】

- 実習開始1週間は、病院の方針により遠隔実習となったため、薬剤師としての通常業務との両立に苦慮した。
- 5月〇日から5月〇日までは、病院の方針により遠隔実習となったため、毎日、課題をだした。6月〇日から通常実習を開始し、問題なく実施できた。
- 実習開始1週間は、リモート実習を実施した。
- 問題となるほどではないが、学生が新型コロナウイルスワクチンを接種した次の日に発熱したため、実習スケジュールを変更した。
- 問題となるほどではないが、3名の学生のうち1名が新型コロナウイルスワクチンを接種後、副反応により1日欠席した。
- コロナ禍での実習だったが、病院内の各部門からの講義や、実際の術場見学などを含めて、実習内容の質を保つことができるよう配慮して実施した。
- 介護老人保健施設体験、訪問栄養指導見学など病院独自の実習ができなかった。

【〇〇県】

- 感染予防目的で、実習開始前に学生用スペースにパーテーションを設置した。
- チームのラウンドについては1回のラウンドにつき1人同行可能とし、密にならないよう工夫した。

- 新型コロナウイルスの抗原検査で学生の家族が陽性となったため、濃厚接触者の学生本人と、他の学生について一時自宅待機となり、実習が1日のみ中断した。
- 新型コロナウイルス感染症の県内での流行のため、9週目より病棟での実習が中止となった。
- 学生に直接、患者と接する機会を持たせなかった。そのため病棟実習においては、担当薬剤師が患者との面談において得た情報をもとに学生はSOAPを書き、学習を進めた。その他は、従来との相違なかった。
- 感染予防の講義を最初に設け、感染予防の徹底を行った。
- 当院にて2回ワクチン接種を行い、抗体が出来る時期を待ち病棟業務を行った。
- 前半、院内で活動出来ない時期はカルテを使い処方検討、病態調査、患者情報の読み込みなど入院患者さんの受け入れの際に実践できるよう、併せて症例作成の練習を行った。
- 問題ではないが、抗体が出来るまで院内・病棟活動を自粛した事で事実上病棟業務の実践期間が半分以下となった事に物足りなさを感じていた。
- 職員の出勤の1時間後から開始し、業務終了30分前に終了とした。
- COVID19の影響により、特に週明けは実習に時間がかけられない事態が少なからず発生した。そのため、月曜日は課題を与え自宅学習とした。
- ワクチン接種をしていることを条件で、病棟での実習が認められたため、十分な対策をして病棟実習を行うことができた。※次の学生もワクチン接種をしているとの情報を得ているが、接種していない学生または接種できない学生の受け入れについては今後の課題となっている
- 当院において、実習終了1週間前にクラスターが発生してしまった。保健所の指示により、実習生を含め全職員PCR検査の対象となったため、間隔を置いて2回のPCR検査を実施した。結果として、実習生及び薬剤科スタッフは全員「陰性」であったものの、病棟スタッフより「陽性」がでたため、大学側と協議した上で急遽最後の3日間をリモート形式の実習とした。
- 「緊急事態宣言」及び「まん延防止等重点措置」の発出に伴い、同期間中は当院の規定により病院内での実習が行えず、リモート等による対応となった。なお、病院内での実習については、日本病院薬剤師会から提案があった新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じた実習内容レベル1（学生は患者との面会を伴う実習が行えないが、中央業務に関する実習および電子カルテの閲覧ができる）で行った。
- 実習時間をずらすことで更衣室内の密集を避けた。
- 毎朝来院時に入口にて検温を行った。
- 他職種との連携の点で他部署見学を予定していたが制限が生じた。
- 学生らの外食において。ワクチン接種者の体調不良に関して。
- 以前のように積極的に病棟に上がることは難しく、感染対策を行いながら、〇〇市の感染状況も鑑みて病棟業務に参加した。従来では学生の興味深いHCU病棟がコロナ病棟として機能していたため、入室出来なかった。チーム医療へは積極的に参加し、感染対策委員会でのコロナ渦ならでのカンファレンスにも参加出来た。
- 実習生が発熱等の症状が出た場合の対応が問題になった。
- 実習開始前2週間～実習期間終了まで体温、体調について毎朝報告するよう指導。
- 病院のCOVID-19感染対策に従い、会食や他県への移動の制限の実施。
- 例年では10名を1部屋で実習を行っていたが、最高5名の2グループに分けて部屋を別々とし密にならない工夫をしながら実習を行った。

- 外来患者のトリアージの混雑あるいは通勤の混雑を避けるため、実習時間を短縮。具体的には従来の8時半開始、16時40分終了を9時開始、16時終了と変更した。
- プログラムの修正。(時間短縮に伴う変更。対面講義や回診・チーム医療への参加を中止など)
- 学生のコロナワクチン接種が実習期間中にあったため、その日の実習を午後から休みにする必要があった。
- 実習初日にPCR検査施行、陰性確認後、実習開始。毎日の健康観察を実施。
- 病院長の指示で11週間のうち5週間、オンライン実習を行った。オンライン教材の準備に手間取ったが、認定実務実習指導薬剤師を中心とした薬剤課スタッフの努力によりweb用の教材作成(主にパワーポイント)を行い、実習生、大学教員共に満足していただけたと自負している。
- 大学側から学生へのコロナワクチンの接種を希望されたが、要望に応えられなかった。
- コロナワクチンが接種できる環境であったので、学生の了解のもとでワクチン接種を行った。実習に差し支えないように接種日を休日の前に行った。接種後は体調不良を訴える学生もいたが実習に支障はなかった。
- 通常よりも学生さんの体調管理に注意しました。問題になったことはありませんでした。
- 実習前に職員と同時にワクチン接種をした。患者さんも接種済が多かった。
- 緊急事態宣言下では対面の服薬指導は中止する方針だが、ちょうど解除されていたので比較的服薬指導もやりやすかった。
- 当院においては、ワクチン接種(2回接種後2週間経過)等を条件に実習の受け入れを行っている。II期の実習開始前に学生に対するワクチン接種の希望調査の状況等を大学に確認したところ、大学から働きかけは行っていないとのこと。今回は大学をとおして実習生にワクチン接種の希望を確認し、当院でワクチン接種をしたが、接種時期が遅れたため実習開始が4週間遅れた。今後は大学側から学生に対しワクチン接種の指導等を行うことでより円滑に実務実習が行えると思うので、よろしくお願ひしたい。
- 最終日に同フロアで新型コロナウイルス陽性者発生の影響で自宅待機となった。その後、PCR検査を行い陰性の判定であった。
- ○○県に緊急事態宣言が出されていたため、6月○日よりオンラインでの実習を開始し、実習中に必要となる項目についての講義を朝から行い、課題を出し、夕方課題についての説明等を行った。緊急事態措置期間が終了した後、6月○日より実際に対面での実習を行った。実習が短縮された2週間については実習期間の土曜日に課題を出すことで対応した。オンライン実習では学生側の回線が途中で途切れたり、入れなくなったりすることがあり、ネット環境の整備が必要であると感じた。また、オンラインでの実習中に薬剤部内の業務を紹介(実際にやっているところをLIVE配信)する試みはWi-Fi電波の問題で途中で配信が途絶えるなどしたためできなかったが、学生の受けもよく、手ごたえを感じた。課題としては処方箋などが一瞬映り込んだりして患者名などが漏洩する危険性があり、十分気をつける必要があると感じた。

【○○県】

- 希望ですが、事前にコロナ対策で大学が行ったこと、学生が実施したこと等を提示していただければと思います。例えば、ワクチン接種、PCR検査の実施など。
- 実習以前(実習開始日より1ヶ月前)、実習中の行動記録を提出要求
- 実習中毎日体調チェック、検温

- 問題となったという程には至りませんでした。が、実習生の同居家族が濃厚接触者となり、PCR 検査の対象となったため、陰性との結果が出るまで学生が自宅待機となった。幸い、陰性で、翌日から通常通り実習に来ていただいた。
- 病棟薬剤業務の実習受け入れについて、事前に全診療科に可否の意見を聴き、了承が得られた診療科のみで入院患者への薬剤管理指導等の見学を実施した。

【〇〇県】

- ワクチン接種も行っていたし、学生も行動制限が出来ていた。患者指導においては職員同様の感染対策を講じて実施可能であった。
- リモート実習の掲示資料作成が多少業務負担となった。リモート実習では、患者情報を電子カルテから抜き取り、スライドに記載したり等の作業が、実地（対面）実習と比較すると、負担が大きく感じた。また、実地（対面）実習と比較すると、講義内容に対しての理解度の把握がかなり難しいと感じた。
- コロナワクチンを当院で学生に接種させることができ接種を行ったのですが、接種した学生が2日程休むことになってしまったこと。
- 当院で実習ができないカリキュラム内容に関して、関連病院や連携している病院で行うはずだったのが学生を預けることができなく、座学になり実務体験学習をさせてあげることができなかったこと。
- 当院では感染病床があるためコロナ患者受け入れ機関は立ち入り規制をさせてもらいました。食事に関しても当院薬剤師とは別でとってもらうことで対応させていただきました。
- 昨年度までは基本的にはリモートでの講義は行っていませんでしたが、今回よりリモートでの講義を取り入れ始めています。
- 実務実習期間中に当院の職員がコロナウイルスに感染した。感染拡大を危惧して2日間実務実習を中断した。その際、急な中断なため実習生に課題を出してないためレポートは白紙の状態でした。

【〇〇県】

- 実習前に2週間程度の自宅待機、実習前のPCR検査を行うことで、安心した実習が出来ました。
- 実習中も感染対策、自己管理の徹底を行ってもらいました。
- 学生へ、オリエンテーションの際に病院で働く一員として感染に留意した行動（具体的には、実習期間中は大人数での会食を行わないなど当院のルールに沿った行動）を行うよう指導した。
- 毎朝体温測定を行い、発熱時など体調不良時は連絡するよう指導していた。
- 病棟での実習が難しい状況になった場合は、薬剤部内でカルテ閲覧や模擬的な服薬指導の体験を行う予定にしているが、実際は通常通り病棟にて実習を行うことができた。
- 他部署や透析室、血管造影室などの見学は、感染拡大を予防するため行わなかった。
- 講義の際は、密を避けた配置にし、こまめに換気を行うようにした。
- 学生控室が密な状況になる時間帯がないよう、昼食時間やレポートの作成時間をずらすなどの工夫を行った。
- コロナ渦で、病院実習の制限があり、一部はWEBでの講義やレポート提出となったのが残念でした。
- 新型コロナ感染拡大のため、実習受け入れ予定が2週間遅れ、休日に課題を行ってもらうことで補った。

- 病棟での実習は、患者との接触時間を記録するなど、クラスター対策を行い、患者ごとに病棟師長の同意を得ながら行った。

【〇〇県】

- 大学からの指導もあったが、薬局実習が終わり病院実習が始まるまでの間は不要不急の外出は控え、健康チェックをしてもらうように実習生と直接会いお願いした。
- 職員同様に院内のレベルに合わせた感染防止予防策を行い、服薬指導時等、患者さんと接する場合はフェイスシールドを準備してもらい、着用して行いました。
- 毎日の健康管理チェックを報告し、日誌へ体温を記載してもらった。行動制限については、職員と同様とした。院外での研修が、ほぼ行えなかった。
- 実習 14 日前には県内入りをを行い、3 密を避けてもらう。毎日の体温測定。実習中の個人持ち手指消毒用アルコールを配布。症状があれば PCR を受けてもらう体制。
- 病棟へ行く際は、実習生にマスクだけでなくフェイスシールドを着用してもらい、服薬指導を実施した。
- 病棟業務を行う際には、必ずマスクと保護メガネを着用し、手指消毒のため徹底のために学生にはアルコールを携帯してもらった。また、アルコールの使用量についても適宜確認した。
- 学生が体調不良で休んだ前日に体調不良があった状態で服薬指導を行っていた可能性があり、学生に指導することがあった。実際は、実習参加した日は午後から寒気があった程度で発熱したのは休んだ日の朝であったため本人も判断は難しかったと思われる。
- クラスター発生時の、実習継続に関しての判断を院内 ICT と連絡をとりつつ、実習生が安全に実習を継続できるか、実習内容の構築に苦慮した。実際に、6～7 月に患者指導実習を予定していたが、クラスター発生に伴い 2/3 程度の患者演習となったため、薬剤師や事務員を模擬患者とし患者演習を行い、補填とした。
- 10 週目に入り、県外で暮らしている家族が今週または来週に帰省することを考えているとの相談が学生からあった。当院では面会者や業者等に対して入館制限を行っており、14 日以内に県外への移動歴や滞在歴がある者と接触した者は入館不可となっている。職員に対する規定は異なるため、実習生での対応を院内で協議した結果、家族の帰省後は来院しての実習はひかえてもらうこととなった。その時点で単位を認め実習終了とするか、課題を与えて自宅での実習とするかは大学と協議する必要があったが、結果的に家族は実習期間中の帰省を見合わせたため、最後まで来院して実習を継続することができた。
- 薬局実習が駅前薬局だったためコロナワクチン接種を職員枠で行った。
- ワクチン接種を希望している実習生へのワクチン接種を行った。
- コロナワクチンの副反応により、被害救済制度への報告を 1 名準備中である。
- 意見交換会などオンラインで参加する際の環境がなく、苦慮しました。

【〇〇県】

- 在宅同行に行けなかった。
- 社外（他職種）と関わりが少なかった。
- 毎日の検温と SPO₂濃度の測定
- ワクチン接種の際の欠席（実習が始まる前にすませてほしい）
- ワクチン接種（1 回目）の副反応により 2 日公休となった為、2 回目の接種時は副反応を想定し日程調整しました。

- 在宅訪問の際、患者家族より学生の同行を断られるケースがあった。特に終末期の患者宅への訪問は控えざるを得なかった。代わりに座学などの時間を増やし対応した。
- 施設への訪問が制限されてしまったので本来したい訪問がなかなかうまくできなかった
- 在宅医療に関しては、訪問先でコロナウイルス感染者が出たため立ち入りができない期間もあり、見学等ができませんでした。チーム医療に関しても、会議出席者のソーシャルディスタンス確保の面で多職種連携の現場を見ることはできませんでした。(出席者全員への許可が必要、かつ個人情報保護の面で見学不可との理由もあり)
- 在宅への同行、学校薬剤師の体験ができなかった。事例や写真を見たり、測定機器を用いて説明のみで対応。
- 当初、参加を予定していた地域住民講座や地域ケア会議が新型コロナウイルス蔓延防止の観点より中止となりました。どういった目的でどのような内容で行うかを座学にて補完しました。
- コロナ禍でも普段通りの実習を行った。コロナ禍だから問題になったことなど何一つなかった。
- 薬局外の実習は実施できなかったこともあったが、地区薬剤師会の仲介でコロナワクチンの希釈、充填の見学や地域ケア会議の見学が出来た。
- 在宅に学生を同伴できるかが心配だった。
- コロナ禍で自由にできなかったのが心残りであり、その分薬局内での実習時間が長くなった。採用薬剤数が少ないので、単調な内容になりがちだった。

【〇〇県】

- 薬局の感染対策に沿って行い問題となる事はなかった。
- 当薬局の場合、在宅業務を指導する際には、自宅への訪問のみだったので、コロナの影響は特別感じなかった。コロナでオンライン化が進み、退院時カンファレンスへの参加や見学がしやすくなったのは良かったと思う。
- ビニールカーテンとマスクにより、患者との会話に苦勞している様子だった。実習生もだんだん大きな声ではっきり話すことを心がけるようになってくれたので話すほうは良かったが、聞き取りについては、声が小さい患者さんに何度も聞き返すことが出来ず、うまく会話のキャッチボールが行えず困っていることが何度かあった。
- 毎日の体調報告等を義務付け（大学側から指示していただくありがたい）にすべきだと思った。
- 消毒作業をしながら他のウイルスの場合は、どんなことに気を付けるかなど話をひろげた。
- 検温、手洗い、うがい、手指消毒を徹底した。
- 投薬口にビニールシートやパーテーションを設置していたことにより、服薬指導の際、患者（特に高齢の）へ声が届きにくかった場面があった。
- マスクと手指消毒と基本的なものですが、期間中、何事もなく良かったと思います。
- 学生のワクチン接種券が3月に送られてきたが、どうして良いか分からず、県薬に相談し医療従事者枠で受けることができました。接種後2週間経ってから、在宅訪問への同行や患者さんへの投薬、学校薬剤師業務への同行等を開始しました。
- コロナ陽性懸念の患者への投薬はさせなかった。
- マスク、手袋、プラスチックガウン、フェイスシールド等の装備の姿は見学させた。
- 病院への出入りを極力減らす。換気をよくする。マスクをこまめに変える。手指消毒をこまめにする。
- エアーカーテンの利用など。

- 感染防止の為、少しでも体調不良があると実習を休ませざるをえなかったことが、スケジュールを組む上で大変だった。
- 食事の時間をずらしました。
- コロナの為、健康相談会を開催できず実習できなかった。
- いつも通りの感染対策
- 勉強会の参加が少なくなり、ほとんどWEBの対応になった。在宅に連れて行くときの感染対策はしっかりと行った。
- WEBシステムの日誌の最初の欄に体温を毎日書いてもらった。(実習生が自分から書いてくれるようになった) →体温記入欄を作ってくれたらうれしい。
- 薬局内での感染対策ルールに従って過ごしてもらいました。特にマスクを外す休憩時間は、スタッフの休憩時間をずらす、パーテーションを使用し区切るなどの対策を行っています。
- 実習開始時に実習生のワクチンが実施済みなのか未接種なのか分かっておらず、実習中に手配することになりました。ワクチンで混乱していた時期ではありましたが、大学で打つのか実習先で打つのかを決めて頂いた方がスムーズだと思いました。
- 実習始まりが、5月〇日からでしたが、ぎりぎりまで、大学側・実習生側から連絡がなく、本当に実習にくるのか心配しました。
- 実習が始まってからは、感染防止対策を徹底して、地域の出前講座・学校薬剤師活動に参加してもらいました。在宅施設訪問は、2Wを経過してから、同伴させました。
- グループ薬局への見学・実習をさせたかったのですが、感染拡大の為、見送りました。
- 薬局のコロナ対策に準じて実習してもらった。特に実習中だからという工夫はしていない。
- 消毒に気を遣ったこと。
- 駐車場での対応に際しては、マスクに加えフェイスシールドを着用したこと。
- I期の実習生受け入れ中に、II期受け入れの実習生のワクチン接種の連絡があり、I期の実習生がワクチン接種できるかできないかなど、わからないことがあり、お互いに不安に思った。(I期II期継続して受け入れの先生)
- 実習開始2週間前に、地元に戻ってきたのかが、わからない。
- WEB講習会が開催されていたので、興味のあるテーマは自宅で参加してもらうことができた。
- コロナ禍のため在宅へ連れていけなかった。

【〇〇県】

- 感染状況を見ながら、各薬局で薬局外研修を行った。(学校薬剤師・地域包括支援センター研修・保健所の見学等)

【〇〇県】

- 学校での実習報告会に参加できないことが残念。
- 薬局外実習(学校薬剤師・在宅等)ではフェイスシールドを着用するなどして感染防止対策に十分配慮して活動した。
- 医療従事者は基本、コロナワクチン接種を行っています。ただ、すべての学生に対応しているわけでもない中で、実務体験をさせることに抵抗感があります。
- 今回の実習は、学生と同意のなかで実務実習を進めていくので、実務体験の積極的な実施に対して、十分な形で提供できたかは不安にのこります。実習生からみた場合、どこまでできるのかを示していないため、学生からの評価視点は難しいです。

- 在宅患者においては、医療従事者も在宅患者もワクチン接種済みなので、在宅の実務実習対応は比較的安全にできました。

【工夫】

- ある意味問題点だったと思うが、後発品医薬品の流通問題で、後発品のメーカー変更や同効薬への切り替えや先発戻しの方法を例年以上に詳しく教えた。

【問題点】

- 医薬品卸見学の許可がなかなか下りなかったこと
- 学校薬剤師見学もなかなか決まらず、検査項目でプールの水質検査が無くなった。
- 学生もコロナワクチン2回接種済だったので、特に問題になることはありません。
- 個人的には在宅に関して、患者の家等で触れ合わせることができずに貴重な体験をさせてあげられなかったと思う。患者が住んでいる空間に入り込んで業務をするというのは薬局薬剤師ならではの行為だと思うし、これからの薬剤師業務にも深く関わることだと思うのでできれば複数回させてあげたかった。
- 一昨年は地域ケア会議や禁煙デーなど、多職種や地域住民との活動を見学させることもできたので良かったが、今年は全てできなかったのも座学ばかりのおもしろくない実習になってしまった。
- 学生にとって良い体験や学習をしてもらうにはどうしたらいいのか腕も知識もないので何か手助けが欲しい。他の薬局は充実していたとかを学生同士が話していると思うと、申し訳なくなる。
- 大学の予防接種時期と重なったため、薬剤師会にお願いしてこちらで接種してもらえるように手配したこと。
- 多職種や他の学生さんとの交流があまり出来なかったのも、今後はWEBなども利用したいと思います。
- 基本的な体調管理、感染対策以外に特にありません。
- 学生はワクチン接種を行い、在宅・介護施設での実習ではマスク&フェイスガード、薬局内でもアルコール滅菌等の衛生管理を日々行っており、コロナ感染なく無事に実習が終了できました。
- ワクチン接種のため、大学のある県外に公共の交通機関を利用して帰ったため、その後の実習開始のタイミングの対応が難しかったです。
- 〇〇県からの実習生受け入れだったため、念のため実習開始2週間以上前から〇〇県入りしていただき、体調変化がないか確認後実習に入ってもらいました。
- 感染リスクが高まるため、在宅訪問、高齢者施設、多職種連携の場に参加させてよいか悩ましかった。
- 風邪症状の患者は全て駐車場対応で、実際の感染症患者への服薬指導を見学、体験が出来ませんでした。
- 昼食時間帯に休憩室が密にならないように職員を含めてローテーションを組んだ。
- あらかじめ体調が悪くなった時の対応などを確認した。
- 地域ケア会議やサービス担当者会議の一部では、〇〇（Webシステム）による会議が行われたのでコロナ禍ではありましたが、経験できたので良かったと思います。
- ワクチン未接種だったため、門前病院からの依頼で、学生に、薬局負担で、事前PCR検査を受けさせた。
- コロナ渦で私がおもてなしなど色々気にしすぎてしまい、もっと体験できるように他職種への声かけなどをすれば良かったというのが反省点です。

- 実習が行えた多職種連携では、快く受け入れてくださるところばかりでした。患者さんとのコミュニケーションも数は少なかったかも知れませんが、無理のない限り双方の了承を取ることで問題なく行えた。

【〇〇県】

- 市町の医師会の協力を得て、1期同様、希望する全実習生のコロナワクチン接種を実習開始までに終えることができた。また一部の地区（〇〇、〇〇市内）でワクチン充填業務に薬剤師が携わり、ワクチン接種業務における後姿を見せることができ、付随的に感染症対策や核酸ワクチンのイロハを学ぶ機会が得られたと思う。

【〇〇県】

- 毎日の健康管理。
- 実習期間内に実習生が駅伝大会にエントリーしていた。
- 電車の時間を利用客が少ない時間帯にしてもらいました。
- 感染対策の徹底。
- コロナ禍で急性疾患の投薬が行えないので服薬指導の回数が以前に比較して減少した。大学の先生の訪問がなくなり以前と比べて学校側とのコミュニケーションが取れなくなった。
- 大きな問題はないが、老人ホームなど施設訪問は難しさを感じる時があった。
- 地域でのコロナ感染状況に応じて在宅訪問などを調整した。訪問時は先方に承諾を得て訪問した。実習生には任意であるがワクチン接種をお願いした。
- 在宅訪問時に同席させるかどうか（相手方への同意確認必要）
- 毎朝、薬局のエタノール消毒をさせた。
- 消毒の徹底、3密の回避、感染予防を常に意識するようにした。
- 休憩室が狭いため、なるべく時間をずらしてとるようにしていました。コロナワクチンの接種状況について、大学側から一度も連絡がないまま実習が始まったので連絡が来るまで不安でした。
- マスク必着で、患者さん毎の手指消毒、店全体の定期的な換気、昼休憩の少人数などを心がけていました。

【〇〇県】

- 店舗事務員がコロナ陽性となり PCR 検査を実施→陰性。
- ワクチン接種副反応にて実習生が体調不良→欠席に。
- 在宅訪問を予定はしていたが、コロナ感染に不安があり患者様からお断りを受け、行う事が出来なかった。
- 食事休憩でのソーシャルディスタンスを実習生に気を遣わせてしまった。スペース確保が難しかった。
- 第一期と同様、長期処方が増えているため実習の初期から服薬指導を開始し、11週間の間に同じ患者さんに複数回投薬ができるようにした。
- 在宅訪問時は、換気に注意し、訪問前後の手指消毒、うがいなどを徹底した。

コロナ禍において工夫したこと、コロナ禍で特に問題になったことなど
(令和3年度第Ⅲ期実務実習)

【北海道地区】

- ・新型コロナウイルスワクチン集団接種の時期であったこともあり、薬剤師会で協力している地域などでは、学生に地域活動の一つとして集団接種会場での薬剤師業務の説明や必要性を理解してもらえた。(薬剤師会)
- ・薬局実習において、コロナ禍での学校薬剤師、在宅での訪問等が厳しいと受入施設からの意見を受け、実施施設で研修できるよう、3名の薬剤師の協力を得て映像を作成していただきそれをオンデマンド配信した。全道に配属された実務実習生及び指導薬剤師に見てもらえる環境を整えた。コロナ禍でも薬局製剤、学校薬剤師、在宅業務の実習フォローができ、受入施設から高評価であったため、第Ⅲ期でも引き続き配信している。(薬剤師会)
- ・厚労省から指針が出ているにも関わらず、実習生がワクチン接種を済ませていなければ、実務実習の受け入れを行わないという実習施設や病棟実習をさせることができないという施設が存在した。今後は、ワクチン接種を有無により実習内容に差が出る可能性があることを事前に学生に伝達をしたうえで、接種するかどうかを学生に判断させる必要がある。
また、ワクチン未接種の学生が、実習中に施設の指導薬剤師より接種を勧められ、結果として接種した事例があったが、接種が強制とならないように配慮を頂きたい。(大学)

【東北地区】

【〇〇県：薬局】

- ・地域での薬剤師活動ができなかった
- ・学生がワクチン未接種だったため、他医療施設への同行が制限されてしまった

【〇〇県：薬局】

- ・家庭での検温の実施。
- ・(感染防止の) シールドの強化。
- ・消毒薬設置場所の増設。
- ・学生が使用する机にアクリルパーテーションを設置。
- ・休憩場所を薬局職員と別室とした。
- ・コロナ関連の来局者対応シミュレーションを行った。
- ・来局者対応に、コロナワクチン接種後の発熱者への対応や抗原検査キットの販売についてを加えた。
- ・0410 対応の患者に電話越しで服薬指導してもらった。

【〇〇県：薬局】

- ・店舗外の実習がほとんどできない状況の為、実際に在宅業務の同行をしてもらったり、服薬指導についても感染も踏まえて慎重に対象患者さんを選ぶ形にしている。また、漢方をメインに扱っている薬局や小児科メインの薬局など当局とは違うスタイルの薬局を見てもらう等のことがで

きてない。さらに、薬局の外での薬剤師の仕事については VTR や資料でお話、説明する形で、実習というより座学に近い形になってしまっていることが残念に思う。

- ・特に問題はなかった。体温測定も徹底しており、体調が悪いときは無理をしないように薬局からも声をかけていた。
- ・学校薬剤師、地域医療などの参加が難しく座学が増えてしまった。担当者からのお話で対応した。
- ・基本的なことだが、毎日の検温、食事時の換気、手洗い、マスクの着用を行なった。他職種との関わりや病院との合同勉強会の縮小などはあったが、時節柄、やむを得ないと考える。
- ・在宅実習、地域活動などの実習に制限があった。小規模のグループワークなどを開催したが学生も物足りないと感じている様子だった。
- ・感染対策をきちんとしている地域活動については、一度だけ引率した。
- ・〇〇県薬剤師会の被災地就学は安全に活動できて学生はとても喜んでいて。
- ・コロナ禍で様々なことが制限されていたが、過去の活動記録を用いて座学を行ったり、Webシステムを活用した研修会などを社内で工夫した。
- ・薬局内でのコミュニケーションしか取れなかったのが、食事などに行く機会があればもっと実習生に寄り添った実習期間に出来たのではと感じた。
- ・学生の行動（マンガ喫茶の利用）について
- ・風邪疾患の患者さんの投薬は本人の了承も得て臨んだ。
- ・問題になったり学生さんから不安の声はなかった。
- ・手洗いや消毒については学生に指導を行い、実施してもらった。
- ・公共の交通機関の利用に抵抗がある学生だった為、他店舗での実地実習は行わなかった。
- ・他店舗とはオンライン実習を通して討論することができた。
- ・業務の都合上休憩時間がどうしても重なってしまうことが多く、休憩室が密になってしまうことがあった。気候的にまだ寒くなかったので換気をすることで対応した。

【 〇〇県：薬局 】

- ・工夫したことは特にないですが、体調管理等はスタッフ、学生しっかりと意識しておりました。問題になったことは特にございませんでした。
- ・以前は見学させてもらえた透析施設が、コロナ禍で見学不可になった
- ・感染性の高い患者さんと接することがないようにしました。具体的には風邪症状の患者さんには、接することが無いようにしました。
- ・大学からの訪問はありませんでしたが、今まで学生を受け入れがなく最初に受け入れる側としては、PC の設定や評価について紙面では理解できない事があるので、訪問してもらったほうが良いと思いました。
- ・工夫：〇〇市の対策宣言店として登録
- ・実習中にワクチンの予防接種 2 回完結できたので、特に外来患者への対応や施設訪問についても一緒に同行して行うことができた。
- ・感染症対策の実施：毎日の体温測定等体調管理（学生及び全職員）、補助金を利用した設備の導入・エリアごとの清浄度管理

【 ○○県：薬局 】

- ・ Web での勉強会に参加させる。
- ・ 学生がワクチン未接種であったため、在宅訪問時などは、患者と十分な距離をとった。
- ・ マスク、手洗い、消毒、プラス定期的な店舗内消毒。昼食は、少人数（2～3 名）で休憩室に入るように工夫。
- ・ テキストやロールプレイで対応した。
- ・ 対面業務において、支障あり。ロールプレイにて代替えと学生に説明。
- ・ 基本的な感染症対策で実施しました。
- ・ 発熱患者（PCR 検査中など）は、駐車場での投薬。

【 ○○県：病院 】

- ・ 今年度は、昨年と異なりコロナの影響を受けず、オンラインにすることもなく終了したため問題なかった。
- ・ II 期と同様の対応で実施しました。

【 ○○県：病院 】

●施設 A

- ・ 感染対策上、学生が ICT ラウンドに同行出来なかった。

●施設 B

- ・ 密を避けた形での実習を行っている。
- ・ 病棟でのベッドサイドへの同行は実習生を 1 名だけに限定。
- ・ 昼休み時間の分散化など。

●施設 C

- ・ 代表的な 8 疾患やチーム医療に関して十分な実習が受け入れられない分野に関しては、国立病院機構の他病院と連携し、オンラインツールを利用した情報提供を実施した。特に、専門薬剤師、認定薬剤師からの認定取得の経緯や現在の活動に関する講義は好評だった。
- ・ 学生がワクチン未接種だったため、当初は病棟実習が出来ないなど行動制限があったが、実習中にワクチン接種を実施したため、その後はより多くの実習に参加したが、手術室見学は実施されなかった。
- ・ ワクチン接種による副反応により、学生は数日実習を休んだため、ワクチン接種のタイミングが重要と思われた。

●施設 D

- ・ 訪問看護の同行実習では、訪問前 14 日間の「体温」や「症状」チェックを行い、実践して頂きました。薬剤師としてこのような「緊急事態」の中で活動を行う意義・使命そして厳しいルール等学ぶことができたのではと思います。

●施設 E

- ・ 実習中に患者数が減ったこともあり、あまり影響ありませんでした。
- ・ 実習前にワクチン接種も実施されており、受け入れ側も安心でした。

●施設 F

- ・ 実習生に対するワクチン接種。

●施設 G

- ・病院の面会制限や感染対策への対応に合わせて、病棟への同行は少なくせざるを得なかったが、薬剤科内での座学実習の他、服薬指導のロールプレイを行うなどして対応した。

●施設 H

- ・実務実習生を受け入れる時点では、当院でコロナウイルス予防接種の実施有無は問題となっていなかったため、実習に必須ではないと回答した。しかし実習開始時点では情勢が変わり、当院でも「予防接種を受けることが望ましい」こととなったため、予防接種を行っていなかった実習生に、説明・同意を得た上で、当院で予防接種を実施した。

●施設 I

- ・コロナ発生状況に併せて、スケジュールを変更して行った。
- ・コロナ病棟があるため、深く関わることの出来ない診療科もあったが、その分、他の診療科を長期で関わるなどの工夫を行った。

●施設 J

- ・手術室見学等のハイリスク領域の見学は行えなかった。

●施設 K

- ・行動制限等については本人と大学に許可をもらい、薬剤科作成したルールに則ってもらうこととした。

●施設 L

- ・コロナ禍で大学教員の来院が中止となったので、実務実習管理システムを利用して通常よりも学生と教員の間でコミュニケーションを密に取ったほうがよいのではないかと。

●施設 M

- ・コロナ対策：実習生のコロナワクチン接種実施、実習地域で2週間滞在後実習開始。実習開始前、実習期間中の検温。感染拡大地域への不要不急の外出禁止。実務実習期間中院内での行動制限や実習の制限等は特になし。大学教員が来院出来ないため実習の進捗状況評価は実務実習システムでのみ。

【 ○○県：病院 】

- ・病棟活動に制限が掛かる場合を想定して、予め病棟担当薬剤師に症例を用意させた。
※今回は活動に制限はなく終了した。
- ・コロナ禍において、大学との面談が直接実施できなかったが、事前の質問アンケートや担当教員からの電話連絡等により、お互い情報共有することができた。現在の大学の状況などについても担当教員から情報提供いただき、大変助かった。
- ・大学や担当教員によって対応が異なるのかと思いますが、今回はメールのみの面談でした。特に学生さんは他施設での実習であり、不安も大きいかと思いますが ○○ (Webシステム) など通した面談等も検討していただけると幸いです (メンタル面のサポートが必要かと思いますが)。
- ・○○大学について、インフルエンザワクチン接種のため、実習期間中に大学に戻らなければいけないという内容の連絡が実習生本人にあった模様。結果的には実習先 (本県) の医療機関で接種することも許可されたため、大学に戻らなくてもよかった。感染状況にもよるが、インフルエンザワクチン接種のために県外をまたぐ移動を強いられるのは回避したいと思われる。

【 ○○県：病院 】

●工夫したこと

- ・ 毎日の健康状態の記録、手指消毒や各実習生が使用した物の消毒を随時行うなどの工夫をした。
- ・ 実習開始前の一定期間の健康観察や行動日記の作成など多くの大学で行われていることと思われるが、受け入れ施設としても、2 週間の健康観察とその記録を必須とし、その記録を提出してもらった
- ・ 実習期間中の体温測定を義務付け、日誌に記録してもらった（土日含めて）実習日は病院入り口のサーモグラフィーで体温を測定してもらった。
- ・ 実習開始直前の PCR 検査の実施
- ・ 病棟へ上がるときにはアイガードを着用
- ・ 食事中の会話禁止
- ・ 検温
- ・ 単独の食事
- ・ 中断する恐れがあるため病棟での臨床実習の開始時期を早めた。

●問題になったこと

- ・ オンラインでの実習に関して、ネットワークの整備が十分でなく通信状態が悪いことが度々問題となった。
- ・ 実習生の家族などに感染が発覚した場合の対処が決められていなかったと思います。院内職員に対しての規定はありますが、学生については大学でも対処法を検討していただければと思います（例えば一定期間休みとし、その後補講など）
- ・ ガウンや手袋が不足する事態が想定されたので無菌調整に関しては実技指導だけにしました。

●その他

- ・ ○○県に緊急事態宣言発出された際、当院方針で院内での実習受け入れを中止することとなった。急遽、実習をリモート（Webシステム）での実習に切り替え、そこから必要なことを準備した。
- ・ 当院では WEB 形式の実習の必要はありませんでしたが他の施設で行った WEB 実習の実例などを紹介してもらえれば参考になります（それぞれの施設の設備状況によるとは思います）。
- ・ このような状況下でしたが、大学教員の施設訪問は施設側の状況が許せば行っていただきたかったと思います。
- ・ 去年はコロナが拡大している中での実習で、院内の他部署の見学や病棟実習などが殆どできなかったが、今年は通常実習とほとんど変わらない実習ができました。
- ・ コロナが再拡大した際の実習を行う、休む基準などを大学側で設けて頂きたい。

【 ○○県：病院 】

- ・ 県内病院において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により病院で受け入れ中止となった病院があり、近隣病院で受け入れへと実習先変更になった事例があった。大学にて対応して貰ったが、今後起こりうる事例であり、調整が難しくなる場合もある為、大学・学生・病院それぞれに今後検討して行く必要があると考える。
- ・ 実習前 2 週間は県外移動は禁止のはずであるが、移動してしまった学生がおり、実習開始が遅れる事態となった。結果的には大学での実習となり当県での実習ではなくなった。指導はされている

ると聞いているが、医療職となる自覚と感染状況による防策の徹底を学生にも理解して貰える様に大学においてもお願いしたい。

【 ○○県：病院 】

●A 病院

- ・院内の感染対策を順守し実習を行ったが、特に問題となることはなかった。
- ・第Ⅲ期は問題なく大学と連携がとれたが、大学によっては電話一本、メール一通もないところがあるのはいかなるものかと思っています。コロナ禍で施設訪問が出来ないのは仕方がないと思いますが、学生の実習状況（心身の状態を含めて）を確認する時間すらないのでしょうか？WEBシステムでの一斉メールでの対応だけでは、私個人としては非常に不満です。

●B 病院

- ・実習生用に期間中の実習外での生活を含んだ感染対策指針を作成し遵守させました。
- ・1～2週目は病棟での実習は避けました。

●C 病院

- ・手指消毒の徹底
- ・黙食

●D 病院

- ・委員会への参加に関して、密になるような場合は参加させませんでした

●E 病院

- ・学生を受けるとにあたり、事前に学生へコロナワクチン接種を行う体制をとり、当院で準備し接種してもらった。
- ・退院前カンファランスにおいて参加制限があったため、見学できる機会が少なかった。

●F 病院

- ・実習開始初期において、学生に感染症状等は無いにしても、念のため実習開始から2週間は薬剤部内の研修としたため、病棟・他部署での研修スケジュールがタイトになってしまった。
- ・通常より2週間遅れて病棟へ行くことになり、症例報告の準備にかかる時間が少なくなりました。

●G 病院

- ・コロナ感染対策としてPCR検査を実施してもらいました。陰性確認後実習開始した。

●H 病院

- ・実習前にPCR検査の実施
- ・毎日検温を行ってもらい、日誌に記入
→3期だけではなくコロナが流行し始めた時からです。

●K 病院

- ・当院ではコロナ禍において、体温37度以上の時は、体調にかかわらず出勤しないことをすすめているが、学校に連絡したり、学生及びその家族にご理解いただくのに、説明を要することがありました。

【 A 大学 】

- ・訪問指導が中止となり、大学と施設側のコミュニケーションが不十分になってしまっている。なるべく、学生の研究室の教員に実習施設と電話やメールにて緊密に連絡を取るよう促している。

【関東地区】

- ・コロナ禍で病棟での服薬指導できませんでした。(複数病院)
- ・患者さんとのコミュニケーションや薬歴情報などから、必要な情報を収集し、患者さんの状況を把握、問題点の抽出、その解決を図る実習を実施することができた。その成果を受け、病院実習では、カルテなどの患者さんを常にモニターできる環境下で、状況を十分に把握しつつ、患者個々の薬物療法について科学的根拠に基づき、最適化することを深く学ばせていただいた。その成果は、処方提案として報告され、学生自身も連携による実習によって自身の成長を実感することができている。
- ・第Ⅲ期実習からパイロットスタディとして開始した連携中の学生では、事前に指導薬剤師と面会しており、薬局、病院での実習内容の概要が分かっていたこともあり、学生は薬局薬剤師の業務を意識しながら実習に臨むことができた。「薬局薬剤師は病院の先生より、患者に身近な存在であることができ、相談しやすいという環境を作れているのではないか。」と感じ、実習期間中、医療の現場における学びと実践において、常に問題意識を持ち、自ら考え、試行錯誤を繰り返すことで、理解を深めることができたと思われる。

【北陸地区】

A 県薬剤師会

- ・コロナ禍で受け入れ施設以外での薬局実習ができなかったため、取り扱う症例に偏りができ、幅広く見せてあげられなかったことが少し残念。
- ・新型コロナウイルスワクチン接種支援事業への参加・見学ができたことが良かった。ただ薬局外活動の情報が少なかったため、どの活動に参加できるのか指導薬剤師へ情報開示が必要と感じた。
- ・休憩の時間帯をずらす事で薬局内でも出来るだけ密な環境を避けるように工夫した。
- ・通常であればいわゆるかぜ症候群（急性上気道炎）の患者さんへの服薬指導をより多く経験出来たと思われるが、発熱患者、電話対応での患者、自宅まで薬を配達するといったコロナ禍で認められた対応については中々実践させる事が難しかった。
- ・3期は規制が厳しい時があったので、在宅に連れていくのが難しいと感じた。ほかの店舗での実習もⅠ期Ⅱ期では行かせていたので、学生は仕方ないと納得してくれていたが実習内容に差が生じないか不安に感じた。
- ・実習開始時は全国的にコロナ感染が拡大している時期だったため、10月下旬までは薬局以外の他施設で行う実習は全てストップしていた。その影響で学校薬剤師の同行や多職種との連携会議などへの参加実習をさせてあげられなかった。
- ・オンライン会議システムを使ったグループ集合実習について昨年導入した。トライアルを重ねた結果、今期はスムーズに実習を進めることができ、十分な成果を上げることができた。
- ・コロナの影響で、衛生商品や健康商品、OTC医薬品の購入希望の患者が増えたため、これまであまり機会がなかったセルフメディケーションについても、学生に実地で体験実習させることができた。
- ・大学の先生との連絡は主に電話でしたが、特に問題なかった。実習管理システムでの週の振り返りの、先生のコメントも参考になった。

- ・学生が2回目のワクチン未接種だったため、担当の先生に相談した。
- ・まん延防止等重点措置の期間は避けて、訪問前に施設、患家など承諾を得てから訪問同行を行った。施設ではまん延防止等重点措置が終了してもステージが下がらないと受け入れられないと言われたためステージ2を待って訪問同行。Drとの往診同行も訪問同行が問題ない施設に限り行っていただいた。
- ・薬局外への実習が困難になった。(学校薬剤師、在宅) オンラインで討論や発表する機会を設けた。
- ・実習前にコロナ感染拡大地域に滞在した学生がいたため、規定により対象の学生の実習開始日を遅らせることになった。大学から学生に対しての県外移動自粛要請がきちんと徹底していなかったと推測される。医療に携わる者としての自覚を学生も大学関係者ももっと持って欲しいと思う。

A 県病院薬剤師会

- ・グループ実習としての3週間受け入れの際、学生さんと前施設の指導薬剤師、こちらの実習生と指導薬剤師と、事前にオンライン面談にて話をする機会を設けたことで、初日からスムーズに実務に入れた。
- ・主実習施設とグループ実習を行なった。当院での実習の終わりに行った途中成果発表では、onlineにて主実習施設の薬剤師も参加、当院での実習成果を見ていただいた上で主実習施設に戻っていただいた。
- ・コロナ禍で遠隔面談やオンライン会議に慣れていたからこそ、双方に時間的な負担なく、具体的な状況把握や情報共有ができた。
- ・来期からは、成果発表の際に、先に実習を行っている保険薬局の指導薬剤師や大学教員へもオンライン参加のお声掛けしようと考えている。
- ・当院限界でのコロナの流行はほとんどない状況であったので、できる限り患者との面談ができるようにした。
- ・コロナワクチンの準備などタイムリーな体験ができたと思われる。
- ・ワクチン接種をしていないことは問題ではあった。
- ・県の「まん延防止等重点措置」適用に伴い、病院長より実習受入延期の指示があった。遠隔実習での対応等について病院長に相談したところ、現場での実習をしっかりと行ってあげてほしいとのお話があり、遠隔対応ではなく、「まん防」解除までの3週間延期として、各大学、地区調整機構等と連絡を取らせていただいた。
- ・学生さんからの訴えはなかったが、延期期間中に院内での陽性者に関する報道等もあり、不安があったのではないかと思う。

B 県薬剤師会

- ・通常のスタッフと同様に手指消毒を徹底してもらったこととマスク着用の上話すことなどを徹底してもらった。
- ・感染対策として、昼食は一人で食べてもらった。
- ・在宅に同行できなかった。去年に続き卸の見学も中止となった。口頭の説明、調べ物学習になりオンラインでの研修会参加をしてもらった。
- ・少しコロナも落ち着いてきていたので、学校薬剤師との同行や、地域ミニケア会議などにも参加させてもらえた。マスク着用によって服薬指導の際に少し聞き取りにくく、コミュニケーションが取りづらいことがあった。
- ・在宅訪問時、事前に学生の同行について患者・家族に了承を得る様にした。一部の終末期在宅患者家族からは承諾を得られなかった。

- ・感染防止のため、薬局外での行動が制限された。他人との接触を極力減らし、感染に注意しながら地域活動（住民向け講演）を行うことができた。
- ・薬局の感染予防対策に合わせて、行動していただくことにより、学生のプライベートの行動まで制限させた。
- ・問題にならなかった事例ではあるが、学生を施設へ同行させる際には、県外へ行き来していないか、ワクチン接種の有無を伝え、施設の許可を得ている。

B 県病院薬剤師会

- ・第 5 波のタイミングで実習生が住んでいる寮内の他の学生においてコロナ感染が確認され、その際の対応に苦慮した。コロナ陽性の学生の情報について限定的であり、また同じ寮内で自宅療養が継続されたことから、実習生の現地実習が中止になった。ただ、この期間中も遠隔実習のコンテンツがあったことから、実習については継続できた。
- ・健康管理として、毎日体温や体調の変化を確認した。また、県外への移動など、日々の行動制限については、病院規定を遵守していただいた。
- ・工夫：①実習初日に PCR 検査を実施、②検温、体調のチェックを徹底（自宅で検温を徹底してもらっているが、正面玄関を通過して登院するシステムとしており、そこでも体温の再確認を実施）、③患者対応時のマスク・ゴーグル着用や手指消毒の徹底、④新型コロナウイルスに限定しない院内感染対策についての教育。
- ・令和 3 年 8 月 ○日からの「まん延防止等重点措置」の適用を受けて、院内の医療系学生実習（医学学生、看護学生等）が中止となった。急遽、8 月 ○日から開始予定の第Ⅲ期実習を遠隔とする事を決定、大学及び学生に実務実習システム等を通じて連絡し、対応を求めた。結果、第 1 週のみを遠隔（座学、課題作成中心）とし、第 2 週目からは、薬学生のワクチン接種状況、過去 2 週間の行動歴及び体調管理履歴を提出し、問題ない事を確認した上で、当面は薬剤部門内での実習に留める形で臨地実習を開始した。

C 県病院薬剤師会

- ・フェイスシールドや健康管理表の準備に時間や手間を要した。
- ・コロナワクチン接種後に副反応で学生が実習を欠席した。

A 大学

- ・病棟にほとんど入ることができず、入院患者との会話も禁止されていたため、病棟における薬剤師業務を学ぶことができなかった。COVID-19 の受け入れを行っていたため、その治療方法などを自己学習できた点は勉強になった。

C 大学

- ・ワクチン接種をしていない理由を聞いたが、医療従事者としての心構えが不足しているような回答だったとの意見があった。
- ・コロナ禍で病院実習ができることの重要性和有難みを学生にしっかり伝えて欲しい、今後も自身の行動に十分注意することを肝に銘じるような指導を行って欲しいとの意見があった。
- ・流行時や院内感染発生時に受入れができなくなった場合どうするかということを、病院任せではなく大学も考えていただきたいとの意見があった。

【東海地区】

- ・コロナ関連の薬を例に、薬の承認や特殊な薬の取り扱いについて、実践的に学習することができました。
- ・オンライン実習となったときに課題を与えて下さって、その症例に対して必要な資料も添付していただき、課題に取り組みやすくしていただきました。調べ学習にはなったが、実際にどのようにして調べ物をしているのかがわかり、とても良い実習の機会でした。
- ・十分なコロナ対策を実施するとともに、学生のコロナ禍での適切な行動に対する指導を実施している。問題になったことは特になし。
- ・病院、薬局ともに、新型コロナウイルス感染症予防ワクチンを接種する当日を含め、数日の実習欠席が目立った。夕方接種にも関わらず、朝から休みとする学生がいた。「ワクチン接種＝実習休みができる」という構図ができているように感じることもあった。

【近畿地区】

- ・新型コロナワクチン2回目接種後2週間経過していない場合は、実習開始前のPCR検査の受検必須、又は2週間経過するまで実習開始できない実習施設があった。
- ・麻疹、風疹、水痘、ムンプス、B型肝炎、T-SPOT以外にもC型肝炎や新型コロナについても検査を必要とする病院が増えていて、実習生の負担は大きい。
- ・実習期間中に新型コロナワクチン接種があり、副反応が強く高熱が出たため、2～3日くらい実習を欠席しなければならなかった。
- ・新型コロナウイルスのワクチン接種を受けていない学生の実習受け入れを辞退される施設が出てきていますが、このような施設が増加すると、アレルギー等でワクチンを接種できない学生の実習が実施できない可能性があります。居住地の近隣に受け入れ可能施設が存在すれば良いですが、通学できる施設が限られている学生も一定数存在します。勿論、医療機関として、ワクチン接種を強く推奨されるのは、十分理解しますが、ワクチンを接種できない場合でも、実習施設、学生および大学で実施可能な実習方略を検討することを考慮に入れて頂きたいです。
- ・ふるさと実習で開始後、1週間で実習が中止となり、急遽関西地区での受け入れとなった。
- ・新型コロナワクチンの接種をしていないことで、実習を断られたケースがあった。
- ・教員の初回訪問として事前に連絡を取り日時まで決めて遠方の施設へ行ったにもかかわらず、ワクチン未接種であることから訪問を直前に断られた。(学生は施設へ行き、教員は電話で話をした)
- ・学校薬剤師や医薬品卸見学、勉強会などに実際に参加することが出来なかった。(薬局)
- ・服薬指導が出来なかった。(病院)
(「工夫」については特にありませんが、学生からは「コロナ禍にもかかわらず、丁寧に指導いただいた」という意見は多数ありました)
- ・病院実習において感染拡大により、ワクチン接種を行っていない実習生が2週間遠隔実習となったが、その後補講などで対応して頂けた。

【中国・四国地区】

- ・病院実習に際し、ワクチン未接種の実習生に対して4日毎に頻回の検査を要求され、平等な実習が実施されない危惧をいただいた。

【九州・山口地区】

(大学)

- ・実習開始2週間前からの実習地域からの県外移動は禁止
- ・実務実習期間前後の行動制限に関する誓約書の郵送
- ・実習開始2週間前からの健康チェック(〇〇フォームでの本学への報告とは別に実施)と行動歴については本学で表を用意し、実習初日にその表を用いて指導薬剤師に報告
- ・アルバイトおよび同居家族以外との会食の原則、禁止
- ・本人(場合によっては家族)の体調不良や発熱時の際は自宅待機(欠席)
- ・49名中48名が2回のワクチン接種を行った後に実習を開始しました。また、実習開始直前(3日前)に学内にて全例PCR検査を行っています。第III期の薬局実習開始前に実習予定者1名に濃厚接触者が判明(実習開始7~10日前に濃厚接触あり)したため、保健所経由でPCR検査するも結果は陰性でした。指導薬剤師と相談後、念の為、遠隔実習(1週間)から開始し、臨地実習に入りました。臨地実習は問題なく終了しました。
- ・実習開始前から実習期間を通して、学生に感染予防対策の実施について定期的に注意喚起を行った。
- ・薬局実習並びに〇〇病院以外の病院実習では、コロナ禍で特に問題になったことは無かった。一方、〇〇病院の実習では臨地実習の期間が短く、特に病棟での実習を行うのが難しかった。そのため遠隔実習用のコンテンツを活用し、学生の学修効果を高める工夫を行った。
- ・実習開始前に新型コロナウイルスのPCR検査による陰性確認を求められる施設が多かった。実習施設の要望に応じて、大学の検査機関または実習施設で検査を受けてもらった。
- ・ワクチン接種済かどうかを尋ねる施設が多かった。一部の施設はワクチン接種済を受け入れ条件としているようであったが、時期的に多くの実習生がワクチン接種済であったために、実習に行けなくなったケースはなかった。
- ・第3期開始直後、他の実習生がコロナ陽性となり自宅待機となった。その後、濃厚接触者に当たらないとの判断が出たため実習は再開した。
- ・今年はコロナ禍で病棟業務(服薬指導など)が出来た病院、出来なかった病院があるため、学生間で実務に関する知識の差がかなりあり、国家試験などに影響があると思う。
- ・遠隔での実習にて、担当の先生が予定していた時間に遅れたり院内のインターネット接続状況が悪くなって講義ができなかったこともことが何度かありましたが、毎日〇〇(Webシステム)があったことで「実習をしている」という自覚が芽生えたので、リアルタイムでの講義をして頂けて良かったと思います。
- ・開始時刻に〇〇(Webシステム)を繋いでも、病院側が開始時刻より2、30分以上遅れて繋ぐことが多々あった。また、30分以上待っても始まらない時は実習生から病院に連絡したことも多々あって大変困ったので、病院側にはきちんと時間を守ってほしい。
- ・コロナ禍が続くようであれば、実習までに学生の新型コロナワクチン接種が済むように職域でのワクチン接種を導入してほしい。

- ・コロナ禍で実習内容が臨機応変に対応されること、例えば患者指導、場合によっては実習の来院も制限されることなど、コロナ禍で実習対応について、ご指導いただければと思います。
- ・コロナの影響の残る実習期間だったため、在宅や地域活動について十分な指導を行うことができませんでしたが、薬局内と学校薬剤師の実習に重点を置いて指導することができました。
- ・緊急事態宣言が発令された期間の病棟実習については、半日は病棟で実習し、残り半日は病棟の指導薬剤師からの課題を別室で行い、そのフィードバックを受けるように対応し、11週間の臨地実習を実施することができた。

(薬局)

【〇〇県】

- ・在宅について、現状ではなかなか難しく、十分な回数が出来なかった。
- ・コロナワクチン未接種の学生だったため、施設・患者宅等の訪問先に入れないことがあった。発熱患者対応もあるので、大学側・学生側も考慮していただきたい。
- ・緊急事態宣言下における在宅訪問などの実施は難しい。
- ・在宅・多職種連携の実習が例年より実施しにくかった。
- ・実習開始前に同居家族の新型コロナ陽性が判明（実習生本人は濃厚接触者認定となったが後日陰性確認）し、ホテル療養など隔離ができなかったため14日間遅れて実習開始した。

【〇〇県】

- ・新型コロナワクチン接種事業では、薬剤師会も積極的に取り組んできたので、ワクチン充填作業や電話相談窓口での薬剤師の対応など、学生にとっても良い学びを身近に感じられる良い機会だったと思います。

【〇〇県】

- ・通常の感染対策は行いました。
- ・在宅は家の中まで入らず、玄関での対応。
- ・これまでの感染予防対策で問題はなかった。
- ・学校薬剤師として授業に同行させたが、会場を体育館にして頂く等、対応策の中での実施で問題はなかった。

【〇〇県】

- ・今回の受け入れで特別工夫したことはございません。コロナ感染に関する対策は事前に行っていたので、その通りやって頂きました。

【〇〇県】

- ・学生の休日の過ごし方に関する指導が必要となった。
- ・在宅の施設への配慮くらいです。
- ・消毒を徹底した。
- ・マスク着用、朝・昼の体温測定、手指消毒の徹底。
- ・実習中はマスク着用・手指消毒等基本的な事を職員同様にしてもらいました。また、実習中は県外に出る事は控えて貰いました。食事時間は個食にして貰いました。
- ・在宅訪問時にフェイスシールドを着用した。問題になったことはない。
- ・マスクの常時着用、手指消毒の徹底。

【〇〇県】

- ・第三期においては受入れ施設・学生すべてが接種済であった。
- ・新型コロナワクチン集団接種会場見学ができた。(多職種の中で薬剤師がどのように役に立っているかを見せることができた。)

【〇〇県】

- ・新型コロナ感染拡大の最中の実習の為、患者激減で体験実習が思うようにできず、講義実習で補った分包機で乳糖を使用した調剤練習や事務員に対しての服薬指導ロールプレー等を多く行った。10月頃から患者が増えてきたので通常の実習が行えるようになった。

【〇〇県】

- ・一般的な注意事項を遵守した。懇親の場がなかなか持てなかった。
- ・毎日検温し、体調管理には気を付けてもらった。
- ・患者さんにも検温、消毒を実施してもらった。
- ・薬局外への実習は、相手側のコロナ対策を確認後に訪問した。
- ・パーテーション越しに投薬、服薬指導を行った。
- ・医薬品卸の会社見学に行けなかったため、MSさんに卸での薬剤師の仕事について話をしてもらった。

(病院)

【〇〇県】

- ・コロナ禍ということを考慮し、学生に直接患者と接する機会を持たせなかった。そのため、病棟実習においては、学生は担当薬剤師が患者との面談において得た情報をもとに服薬指導記録を書き実習を進めた。その他は、従来との相違点はなかった。
- ・病棟で実際の患者への服薬指導ができなかった。
- ・7週目より施設内で実習ができるようになったが、実践期間が短く、評価できない項目が多く発生した。結果、点数的にはどうしてもフルに現場で実習できた学生に比べて低くなってしまった。
- ・事前にワクチンを接種していたのでスムーズに実習開始できた。日々の体調報告、検温などを実施した。
- ・オンラインとのハイブリッド実習とした。
※自宅と薬剤部を繋いでの講義、課題解説また、薬剤部と病棟をオンラインで繋いでのカンファレンスやDM教室への参加等を行った。
- ・緊急事態宣言等の状況により、先を見据えた実地実習の予定、計画が困難であった。
- ・病棟また他部署での見学、実習が困難であった。
- ・「緊急事態宣言」及び「まん延防止等重点措置」の発出に伴い、同期間中は当院の規定により病院内での実習が行えず、リモート等による対応となった。なお、病院内での実習については、日本病院薬剤師会から提案があった新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じた実習内容レベル1(学生は患者との面会を伴う実習が行えないが、中央業務に関する実習および電子カルテの閲覧ができる)で行った。
- ・本来なら8月より実習開始予定であったが、緊急事態宣言発令により当院規定により発令中は学生実習の受け入れ中止、宣言解除後10/11から実習開始となった。致し方無い事ではあるが、大学と学生を含めた実習延期の手続き(やりとり)がやや時間を要した。
- ・実習開始時間と終了時間を勤務者の時間とずらすことで更衣室での密集を避けた。

- ・大学の指導もあり、実習 14 日前より本人および同居の家族の健康チェックおよび記録に協力してもらった。実習中も毎日健康チェックをし、問題のないことを確認して来院してもらった。最後まで滞りなく実習を行うことができた。
- ・コロナの感染状況が読めないため、実習スケジュール作成に難渋した。大学側の課題提供が少しあると、実習スケジュール調整ができるため助かる。
- ・病院の面会制限に準じて実習を行ったため、病棟活動の実習ができず座学実習が中心だった。途中から制限が緩和されたため、可能な限り病棟活動の実習を行った。
- ・ワクチン接種を 2 回終了して 14 日間経過した者は、当院の感染対策を行うことで病棟業務を含め従来どおりの実習を可能とした。
- ・学生だけではなく、スタッフも日々行っているところですが、①日々の健康確認、②感染対策（食事中も含む）、③感染対策を講じた上で患者対応もしてもらった。（入院患者の面会は基本禁止中ではあるが）
- ・コロナ禍のため開始を 1 週間遅らせ（8/30 から）Web 対応で実施しました。10/20 からは薬剤部で実習可能となりました。大きな問題なく実施することができました。
- ・緊急事態宣言中、学生がコロナワクチン接種を行うまで大学と相談の上 WEB 研修とし、接種後 2 週間は薬剤部内での実習とした。
- ・本来は調剤や注射業務などを実習カリキュラムに組み込まれていますが、ほとんど実施することが出来ませんでした。また、密になるため、カンファレンス等の参加が限られ十分な指導が出来なかったです。
- ・III 期も最初の 6 週間はリモートで行い、残り 5 週間を実地で行った。病棟での実習が制限されるなか、担当薬剤師を通じて情報収集を行うなどした。フィジカルアセスメントの実践が難しいか。
- ・自宅用のパーテーションや塩素系漂白剤等を与え、自宅でも感染対策をするように指導した。
- ・実習前にワクチンを接種しに来院してもらった。
- ・実習中に発熱したので、当院で PCR 検査を行った（陰性であった）。
- ・患者対応はマスクの上にフェイスシールドを着用し、短時間とした。
- ・新型コロナワクチンの管理や溶解などを一緒に行った。
- ・前半は病棟を含む薬剤室外実習が出来ませんでした。10 月以降からの開始となり現場の実習は少なかったですが、実習生や学校からの理解はありましたので助かりました。
- ・コロナ緊急事態宣言中だったので、病棟に上がることが出来ず、模擬的な実習が多くなった。
- ・緊急事態宣言の発令中は、院内規約にて実習生の受け入れが出来ませんでしたので、課題に対する在宅学習とし〇〇（Webシステム）にて定期的に面談を行い、宣言が解除されてからの実地研修となりました。実質 5 週間の研修期間でしたので、調剤は行わず殆どの時間を病棟業務に充てました。
- ・実習前に「直近 2 週間以内の生活・行動状況の確認」を行っているが、あらかじめ大学からも不特定多数との接触を伴う就業、新型コロナ流行地域への旅行、大型商業施設での買い物、同居家族以外の 4 人以上での会食などを伝えたい方が良い。
- ・直前の PCR 検査やワクチン接種を医療職の実習の条件にしている。
- ・コロナワクチン接種済みの学生とまだの学生がおり、実習開始時の PCR 検査をするかしないかで対応をわける必要があった。

- ・病棟業務の実習では、入院当日の患者は PCR 検査の結果を確認してからでないと指導に行けないので時間の関係で学生に指導を行わせることが難しく、結果、学生に与えられる患者の候補が減っている。
- ・実習生の受け入れが緊急事態宣言中に重なった事もあり下記の対策を行いました。
 - ① 実習開始時期の延期 ②〇〇 (Webシステム) におけるリモート講習 ③実習時間の短縮
- ・本来であればカンファレンス、会議、地域医療など介入させたい事が多かったのですが感染回避の為に関わる機会が少なくなった事は残念でした。
- ・緊急事態宣言、コロナ患者増に伴い、3 期開始直前に実習受け入れの見直しを行った。実習初日に定性定量検査を行い、陰性を確認。さらに、終日実習から半日実習へと変更し、職員との接触時間を減らした。
- ・半日自宅学習のため、課題を準備し、1 週間ごとに提出してもらうこととした。
- ・病棟業務は薬剤師が服薬指導を行っているところを見学し、実習生は患者さんへの直接指導は行わず、ロールプレイとした。
- ・半日実習のため時間が合わず、チームのカンファレンス、ラウンド等に参加する回数が少なかったことは残念だと思っている。
- ・薬剤管理指導は、病院の方針で患者と直接面談はできなかった。
- ・実習開始直前に緊急事態宣言が発出され、前半はリモート実習になった。
- ・リモート実習は、1 週間ごとに課題を与える方法で、月曜と金曜に面談を行った。月曜は、週の課題の説明で金曜は課題の答え合わせや質問とした。
- ・学生が、実習期間が短縮したことが就職後に影響しないか不安だと言っていた。
- ・患者と関われなかったが、診療科のカンファレンスやチーム医療のラウンドに多く参加させてもらった。
- ・コロナ禍であること、半日で実習を行っていたことからチーム医療のカンファレンスやラウンドに参加できなかった。講義は行ったが病院でのチーム医療における薬剤師の役割についてイメージができなかったのではないかと思う。
- ・病院長の指示で 11 週間のうち 6 週間、オンライン実習を行った。2 期にオンライン教材の整備していたため、それらを活用し認定実務実習指導薬剤師を中心とした薬剤課スタッフにより web 用の教材（主にパワーポイント）を行った。BLS 等も入れるようにした。

【〇〇県】

- ・コロナ禍にて、十分な病棟業務（臨床での患者と対面した業務）を十分行うことができなかった。そういった中で、電子カルテを用いた病態を理解するシミュレーション等を行うことで補完した点が工夫点として上げられる。
- ・学生さん達はワクチン 2 回接種済みであり、薬剤部内では通常の実習ができました。他部門への見学は引き続き見合わせました。
- ・一部の病棟を除いては通常通りの実務実習を行うことができました。

【〇〇県】

- ・実習生の父親がコロナ陽性との連絡あり。学生は精査の結果陰性であった。感染ステージが上がってくると今回のように誰が感染していてもおかしくない状況である。最悪を想定した大学との契約を結ぶ必要があると院内で議論している。

- ・コロナ感染症の流行時に、Web 講義やセントラルのみでの実習に切り替えるための事前準備が不足していた。
- ・今回は 2 つの異なる大学の 2 名の学生の実習を受けました。コロナ禍で実習が実施できるか分からない状況でしたが、開始を遅らせて実施し出来ました。当院ではできるだけ院内での実習を行いたいと思っております。
- ・今後も同様のことが予測されるので、2 つの異なる大学の実習生を受ける場合、実習期間の変更可能な期間を統一して欲しいです（一つの大学は 1 週間しかずらずに、他方は 4 週間ずらしても大丈夫でした）。
- ・密な状況を避けるため、昼休憩は少人数ずつ取るよう時間をずらして設定した。
- ・学生へ、感染しない行動を心がけるよう事前に大学の方から、実習初日は病院スタッフから指導を行った。
- ・毎朝体温を測定、記録した。
- ・発熱時は近医を受診し、必要あれば PCR 検査を実施してから実習に復帰するようにした。
- ・歯磨きの際に、会話は慎むように注意したが、学生自身の改善する姿勢が希薄であった。
- ・病院の方針で、実習生のワクチン接種が必須であったが、学生の親御さんの判断で接種拒否となり、急遽実習生の変更を余儀なく行った。
- ・コロナ禍で入院患者が制限されていたため、指導対象となる患者が少なく、苦勞した。特に糖尿病教室は当初予定していたスケジュールが変更となり、学生には変則的なスケジュールとなった。
- ・実際の患者で指導できなかつたため、座学が多くなり、学生の実習意欲の低下につながったと思われる。今後このような場合の実習内容については検討していきたい。
- ・感染予防のため、学生には手指消毒剤を携帯させ、こまめな手指消毒の徹底及び行動規範を遵守してもらった。
- ・コロナウイルスワクチンの集団接種会場での希釈・分注作業の見学等を行いました。また、当院におけるワクチンの希釈作業等も実習させました。

【〇〇県】

- ・カンファレンス参加に関しては、一回当たりの参加人数を絞った。
- ・コロナ禍により院内で実習を行うことができず、2 期の学生実習を 3 期に変更していただいた。また 3 期が始まってからも一部期間の実習を院内で行えず、〇〇 (Webシステム) を利用したオンライン実習を取り入れた。しかし、オンラインでは学生の理解度等の把握が難しく評価がつけにくい、実習準備にこれまでよりも時間を要する等の問題点があった。
- ・実習を大幅に変更する必要があったが、実習としてどこまでが許容されるかわからないため対応に苦慮することがあった。基本は大学側との協議かと思うが、複数の大学から受け入れを行っている場合はそれぞれに確認が必要となり、また学生間で実習に違いがでる可能性もあるため、実習施設の負担が大きくなるのではと思われる。
- ・病院実習開始前にワクチン接種状況を確認したところ未接種であったことから、当院にて予約、接種した。
- ・当院は、ワクチン接種を行っている学生のみが受け入れ対象であるため、事前に大学側へ打診した。
- ・病棟へ帯同する場合は、ゴーグルおよび個人用の手指消毒用アルコールジェルを持たせた。
- ・感染流行時に飲み会の自粛や感染流行地への往来禁止等を学生に対して強要できないため、ワクチン接種済みとはいえ万が一の感染源となって広げないか心配であった。

- ・当院がコロナ患者受け入れ施設であり、通用口が閉鎖される時間があり、帰宅時の出入りに影響がでた。
- ・コロナ病床確保のためのベッドコントロールの都合で、服薬指導など病棟での受け持ち患者の転棟などが多く、継続しての担当が難しかった。
- ・コロナ禍のため、患者会など集団で行っていたものは全て中止となっており、過去の写真のみでの紹介となり、実際の実習中の体験はできなかった。
- ・当院で受け入れた学生は6週目までオンラインで実習を行った。7週目以降は、無事に臨床実習を行うことができ、服薬指導やチーム医療等にも参加した。
- ・オンラインで実習を行うための、機材や資料の準備が少し必要ではあったが、職員の大きな負担とはならなかった。

【〇〇県】

- ・他の病院と連携して行うはずだった実習項目が実施できなかった。薬局のスタッフ家族にコロナが発生して該当職員が3週間休むことになった。その職員が感染していれば薬剤部が閉鎖になり実習を行えなくなったかもしれない。学生の感染対策だけでなく、実習する側の感染が起きた場合の対策が作成されてなかった。
- ・患者さんとの接触機会を減らしました。
- ・交通の混雑を避けるため、9時から16時前（記録を入力後）に時間を短縮し、後は自宅実習としました。感染予防のためマスクの共有は行わず、スタッフもですが、先に小分けをして配布しています。また、お昼後の清拭（机・イス・アクリル板）をエタノールで行ってもらいました。外部の業者に陽性者が出たため、薬局スタッフも接触はしていませんが、念のため2日間（金曜・月曜当院スタッフ陰性）自宅実習とし課題を出しました。また、薬局実習開始2週間は薬局内での実習とし、3週間目より委員会・ラウンド・病棟活動を行いました。訪問・治験・抗癌剤の実習は、口頭・DVD・インターネットの実習としました。
- ・〇〇県において蔓延防止措置が9月中は発令されており、リモートでの開始も検討いたしましたが、病院側に掛け合い薬局実習においては可能との判断を頂き、開始しました。10月から現地実習が可能となり開始いたしましたが、やはり期間が短く現場で体験させてあげたいことの30%程度は不足したのではないかと考えられます。
- ・コロナ禍ということもあり Web 講義を行いました。やはり資料の準備等が大変となります。一定の資料及び運用について、簡単な資料を随時準備があると助かります。
- ・地域の新型コロナのリスクレベルが低下せず、学生が患者さんへ直接服薬指導することが出来なかったため、事前にどのような指導をしたらよいか考えてもらった上で実際の指導の見学をしてもらい、見学実習の中でも理解が深まるようにした。ただ、上記の通り実践できない部分も多かったため、学生がどこまで習得できたか評価しづらい部分も多く、今後この状況下での学生実習の課題と思われる。実習後半に臨床実習に参加できたが、県のリスクレベルが下がらず直接患者へ服薬指導が出来なかったのが残念でした。病院に来て実習を行うのがコロナの感染状況で変わってくるため、対面実習が2週間や1週間と短かったため、患者の経過を学生の目線で見ることが難しかったと思います。電子カテをメール等で共有すると個人情報の流出等のリスクになるため、現場以外はオンライン実習を行ったため、資料作成に時間がかかりました。大半が、リモートでの実習になった。このような状況で受け入れてよかったか、他に受け入れ先はなかったのか疑問に思った。対面実習では学生さんにカルテ情報を提示してしまうので、カルテ内の膨大な情報から「必要な情報を自分で探す」ということ

ができないので受動的な実習になりがちです。他職種との関りや実際の動きなどを体験させることは実際に病院に来て実習しないと難しいと思った。

- ・昨年同様、業務終了後に実施している部内勉強会には参加させず、実習開始時間と終了時間はラッシュ時間をさけるよう調整し、レポートや課題はすべて自宅に帰って作成するよう工夫した。
- ・全体の 2/3 (7 週間) は完全オンラインで実施し、終盤 1/3 (4 週間) のみ実地で行いました。オンラインでの実施は今回が初めてであったためか色々と不慣れな点や不具合 (〇〇 (Webシステム) の音声が届かない、途中で通信が途切れてしまうなど) が開始当初散見されましたが、次第に円滑に実施できるようになりました。病院の方針で、新型コロナ感染症予防の観点から、後半 4 週間のみ実地実習を行いましたが、「病棟ナースステーションや病室への立ち入りは見合わせる」、「患者さん・ご家族との対人業務は見合わせる」といった制限下での実習となりました。コロナ禍が早期に終息し、来年度以降は通常形式で 11 週間の実務実習が完遂されることを心から願っています。しかし、来年度以降もオンラインもしくはオンラインと実地の併用の形式が続く可能性も考えられ、その場合は、計数調剤の事前学習時間の拡大が必要となると考えられます。
- ・11 週間の実習完了を目標に自分自身の体調管理に注意し、特にコロナ禍においては、自分自身が感染しない、他者を感染させない為にも、自分自身の行動に注意し自粛する様頻回に声かけを行いました。
- ・病棟での実習ができなかった為、カルテ閲覧での症例報告、服薬指導はロールプレイを行った。前年もコロナ禍においては病棟業務、特に患者との接触が困難である為、可能であれば薬局実習で服薬指導を重点的に実習してほしい。以前は、治験や抗がん剤調整などを他の病院に依頼していたが、自院で指導することになり机上での講義となってしまう、現場での実習ができなかった。今後は WEB などを利用して他院からの実習指導が可能であればお願いしたいと思います。
- ・昨年度の経験が大いに役に立ちました。また、オンライン実習に関する事など事前に説明会があったことや9月以降はコロナが少しずつ落ち着いてきたことより昨年に比べスムーズに実習を行うことができました。院内での実習に関するルールはほぼ昨年同様でした。昨年同様 1 カ月間はまず外来業務を中心に実習を行い、1 カ月たった時点で ICT の責任者に許可をとり病棟業務に移行しました。(病棟に行かせることができました) 2 年前より、2 週間ほど病棟業務に関わる実習の期間は減少したままになっていますが、なんとか一通りのことはできたのではないかと思います。ただし、いつも実習に組み込んでいる訪問看護や講演活動等への参加はまだまだ制限があるため、今年度も中止としました。
- ・コロナの予防接種を実習中に受ける学生が、コロナの予防接種で 2 回、接種後の発熱で 3 日休んだ。そのため、予定表を組み直す必要があり手間がかかった。また、計 5 日休むことになり、他の学生との差が出来てしまった。
- ・当院では学生実習を受け入れる際に、コロナ PCR 検査が必要でしたので、学生に説明して自己負担して頂き対応しました (一応大学に確認したところ、学校でも説明がされており、自己負担となることは説明されているようでした)。
- ・当院においてクラスター発生となり、2 週間自宅での学習ということにさせていただきました。学生には迷惑をおかけし申し訳なく思います。しかし、実務に復帰してからは、2 週間分を穴埋めすることができて良かったと思います。コロナ禍であるため、患者指導がやや少なくなってしまったと思います。

- ・手指消毒に関してはかなりこまめに指導した。アルコール使用による手荒れ、保湿剤の適正使用についても指導した。感染委員会の中で（学生と）議題に挙げたうえで手洗いや手指衛生の環境整備についてもメーカーによる院内勉強会（対面と〇〇（Webシステム））を開催した。

【〇〇県】

- ・病院内の各部門の見学などで対応し、コロナ禍でも、実習の質が保てるよう配慮した。
- ・8月〇日から8月〇日まで、リモート実習期間を設けざるを得なかった。
- ・コロナ感染警戒レベルに応じた対応となったため、患者と接する時間が少なくなった。このため、セトラルで電子カルテ閲覧などにより、患者状況把握や指導について考えてもらう症例検討を実施した。警戒レベルが下がった後、時間的にハードスケジュールとなったが、それまででできなかったことを集中して実施した。
- ・介護老人保健施設体験、訪問栄養指導見学など病院独自の实習ができなかった。
- ・2か月半の実習期間に対して、約1ヶ月のみ病院での実習となった。通常であれば、調剤、製剤、多職種でのチーム医療などを経験した後、積極的に患者や多職種への対応実習をするが、今回は、学生の準備期間が不足し、見学が主となった。
- ・患者への服薬指導や医師や看護師への対応を含む病棟業務を実習させる際は、指導薬剤師と学生間の信頼関係も重要であると感じた。対面での実習が短い場合は、そうした信頼関係を構築することが困難であると思える。

【〇〇県】

- ・実習生から聞きましたが、実習を途中で中止になった施設があり、実習生同士は連絡を取り合っていたので不安に思っていた学生もいました。そういうことがあったら大学側から「こういうことがありました但次期に振り替えます」など実習生の精神的なフォローも必要なのかなと感じました。
- ・実習開始前、〇〇県蔓延防止措置下で関東在住の人間との接触あり。実習開始前日、上記エピソード+咽頭痛あるが、学生がPCRを拒否した（費用の負担なし）。やはり、PCR等は施設判断に従って受けていただきたい。
- ・実習2日目に発熱があり、1週目はほとんど自宅待機（マニュアルを配布しての自宅での自習）となった。
- ・コロナ下で実習の難しさ。SBOに沿った遠隔用の共通の資材が欲しい（施設間での内容の差が大きい）。
- ・実習開始時期の8月がコロナ禍で独自の緊急事態宣言もあったことから、最初の2週間は注射業務やミキシング（化学療法）を実習として集中的に行いました。調剤も電子カルテを使いSGD等行い、コロナが落ち着いてきてから病棟に上がることができました。今回は自宅実習がなく、全日程病院で行うことができ良かったと思います。実務実習交流会や合同症例検討会は〇〇（Webシステム）で行って頂き、他部署見学等制限されていたので実習生はとても喜んでおりました。
- ・感染防止対策として、患者に接する際のフェイスシールド準備着用で行った。
- ・毎日の健康管理チェックを〇〇フォームにて報告してもらった。行動制限については、職員と同様とした。院外での研修が行えなかった。
- ・コロナ禍で、病棟業務での患者とのやり取りを多くとることができず、学生は少なからず不満があったようです。到達度評価にもそのような項目がありますので、学生に確認したところ、コロナ禍における実習の事情を、事前に大学から説明を受けておらず（受けていたが、認識していないかもしれません）、理解していなかったようです。大学からも、事前にそのような事態もありうることを、しっかり説明しておいていただきたいと思います。

- ・感染拡大の状況により、直前になって受け入れ態勢や実習内容の予定が変わり、調整に苦慮しました。
- ・学生を受け入れるにあたり、コロナワクチンの接種の有無を考慮すべきかどうか、他のワクチン接種や抗体価の確認も含め、考える必要があった。
- ・病院のステージが3から2に下がったため、ギリギリで学生を受け入れることができた。但し、受け入れる際は病院の方針で初日にPCR検査を受けていただいた。
- ・ワクチン接種を学生にもしてもらっていたのが、お互いにとって良かったように思います。
- ・病院の方針として、実習開始3週間前からの体調管理を確認するために体温と自覚症状を記録してもらいました。COVID-19の流行状況で実習の可否が急に変更される場合があり、対応に苦慮しました。
- ・コロナも落ち着いてきていましたが、学生にはマスク・アイガードなどの着用を緩めることなく、病棟業務を行ってもらいました。
- ・実習開始前に当院のコロナ対策について説明。職員と同様に接触歴・行動歴の聞き取りを行いました。コロナ対策・ワクチン接種体制に人員や時間を取られ、他職種連携、患者対応に関して、例年と比べると、どうしても実習機会を縮小せざるを得ませんでした。感染者内部発生からの実習生自宅待機といったことはなかったため、実習日数には影響ありませんでした。
- ・当院は県外からの実習受け入れに制限をかけていた（今回は実習開始1ヶ月前から鹿児島に在住していたので、問題なかった）。
- ・受け入れに際して、ちょうど流行の第6波と重なったため、受け入れ時点のPCR等について院内で議論となった。その際、2週間以上当該地域に待機しており、接触を避ける、さらに行動履歴の提出は、受け入れをスムーズにするうえで有効であった。・今回、実務実習期間が変更されて初めての受け入れのうえ、COVID-19の流行もあり大学側との連絡があまり出来なかったため、今後対策が必要かと思います。

【〇〇県】

- ・実習期間中に体調不良等で欠席する場合の対応について大学側および実習生と事前に連絡・共有した。新型コロナウイルス感染症の可能性を否定できないことから、当院職員就業制限に準じて、「症状発現日を0日として4日間実習中止」とした。
- ・今期の実習前に、2回コロナワクチンを当院で受けてもらってから実習に入ってもらいました。学生の方から、実習前に受けられるかの問い合わせもあったので、スムーズに対応できました。
- ・受入れ時の体制に関して、当院では新型コロナウイルスワクチン接種済でない受入れがたいとの声もありましたが、先行してリハビリの学生2名を未接種で受入れており、薬学生も実習前2週間の健康観察で可となりました。
- ・実習期間中、院内において、新型コロナウイルスワクチンを接種出来ましたが、2回目（金曜日）接種後発熱の副反応が続き、1日欠席（月曜日）となりました。大学側の基準に則り、土曜日に振替として対応致しました。
- ・受け入れ学生3名ともにコロナワクチン2回接種済で、実習2週間前より体調確認にて問題なかったため、病棟での活動やカンファレンス参加など通常通り行えました。但し、院内感染対策委員会での承認が必要でした。
- ・第5波の影響に伴う当院の新型コロナ感染対策の基準により、実習開始からの最初の3週間は当院からの課題による自宅学習と夕方のリモート面談（課題の解答と解説）となったが、4週目から病院での実習を開始した。

- ・Ⅲ期はこれまでに比べ比較的落ちついていたので、ベッドサイドへ積極的にいくことができたと思います。しかし、他施設（精神科）との連携がまだ再開できないのが残念でした。
- ・実習生ならびに同居家族に、病院職員と同等の感染対策規定を遵守してもらいました。
- ・実習受け入れ直前に、TRC迅速検査を受けてもらいました。
- ・実習開始4週間前に、院内でワクチンを接種してもらいました。
- ・実習に必要なフェイスシールドを自身で準備してもらいました。
- ・特に実習上問題になったことはありませんでした。
- ・学生の新型コロナワクチン接種について、当院（新型コロナワクチン個別接種は行わない施設）は既に職員のワクチン接種は終了していた。実習前に大学側に学生のワクチン接種状況等について確認した際に、接種はあくまでも学生の自主性に任せているという大学があり、接種については学生に丸投げのところがあつた。学生は、住民票のある自治体が大学の所在地だったりする学生もいて、どこで受けられるのかと不安になっていた。こちらで自治体に色々問い合わせせて学生に連絡を取り、帰省先で接種ができるようにして接種してもらった。大学側からも学生向けにワクチン接種についての情報を積極的に提供してほしかった。
- ・昨年に比べ規制緩和されたので、現地実習やチーム医療への参加がやり易かった。

【〇〇県】

- ・休憩は1部屋4名までとし、黙食をこころがけた。
- ・コロナ病棟開設にともなう指導対象となる患者数の減少により、薬剤管理指導数の減少。ただし、感染症対策や医療に従事する者の心構えなどは逆に充実した。
- ・ワクチンを接種しているとはいえ、新型コロナウイルスに学生が感染しないか不安はあつた。
- ・実習開始2週間は、病棟業務や他部署への訪問は控えました。また大学の担当とも電話でのみ実習中の状況について連絡を行いました。
- ・コロナ感染患者の入院病棟では実習を避け、一般病棟でのみ実習を行いました。学生へのリスク回避のみならず、学生からのリスクも回避するためです。
- ・現在も全ての入院患者と家族の面会を禁止しています。そのような状況下ですから、コロナ病棟以外で実習される学生にも、感染については、それなりに厳しく自己管理をお願いしたいところです。現状では、特に問題になってはおりません。もちろん、学校では十分教育を受けておられるとは思いますが、我々も、当該学生の全てを把握しているわけではありません。学生一人一人が、自分の従事している環境が如何にシビアかと言うことを繰り返し学習されることを望みます。
- ・実習の見通しが立てられないことに困りました。実習開始前に、実習生が病棟に上がれない場合の対応、実習生が実習施設に立ち入り禁止となった場合の対応（大学と相談し遠隔実習を検討、Webシステムを用いる）、指導薬剤師が出勤できなくなった場合の対応（出勤したスタッフで指導し、日誌確認は指導薬剤師1名が行う）を想定しました。結果としては、実習中に学生・職員共に体調不良はなく病棟実習もできました。病棟実習開始時期は1週間遅らせ、3～11週目を病棟実習にあてました。
- ・コロナの影響で、前年度実習生の実習発表を見る機会を持たず、実習報告でまとめる成果物がイメージできていませんでした。実習施設で、過去の実習生の実習報告（次年度以降の学生に見せてよいと当人の了承は得ています）や職員の作成したスライド事例を見せて対応しました。
- ・実習中にコロナワクチン接種を行ったため、副反応にて実習を欠席することがありました（1回目、2回目を合わせると約1週間の欠席）。
- ・週1回、当院持ちで抗原検査を施行しました。

- ・特に問題なし。実習生1名のため密になる機会も少なかった。
- ・特別な工夫なし。通常の感染対策のみ（手洗い、手指消毒、マスク、アイガード、患者との面談は可能な限り短時間とする 等）
- ・今回の実習では特に問題はなかったが、予防接種を必須としていただければ助かります。予防接種できない事情がある場合にどうするのかを含めて、大学側で検討いただければ助かります。当院の（予防接種できない場合）受け入れの対応としては、薬剤部のみでは判断できませんので、受け入れできない場合もあると考えられます。今後、契約時にその旨、確認しようと考えています。